Pioneer sound.vision.soul

AVデジタルサラウンド・アンプ

VSA-AX8

Multi-channel Premain Amplifier

メールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/members/

お買い上げいただきました製品についての「お客様オンライン登録」をお願いいたします。ご登録いただきますと、プレゼントや懸賞商品が当たるキャンペーン/イベント情報や各種製品情報等のご案内をさせていただきます。
ご登録は上記URLにアクセスしてご利用ください。
(インターネット対応携帯電話からもご利用できます。)

新規登録されたお客様には、毎月プレゼントを抽選にて差し上げております。詳しくは、上記URLにアクセスしてください。

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。
なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意 付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

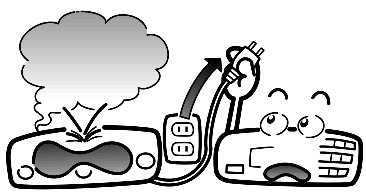
●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

〔異常時の処置〕

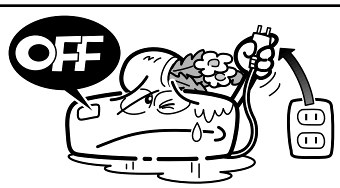
プラグを抜け

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



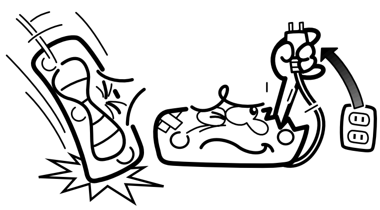
プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

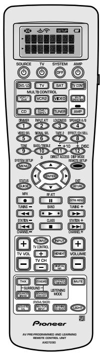


プラグを抜け

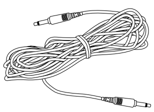
● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



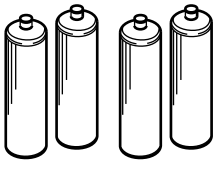
付属品を確認する



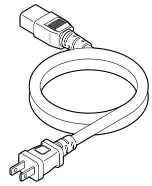
リモコン



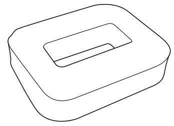
オートセットアップ用
リモコンコード



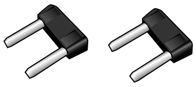
単3形アルカリ乾電池
（LR6）×4



電源コード



オートセットアップ用
リモコンスタンド



ショートピン×2
（リアパネルに装着されています）

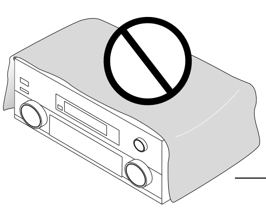
- 取扱説明書（本書）
- 安全上のご注意
- ご相談窓口・修理窓口のご案内
- 保証書

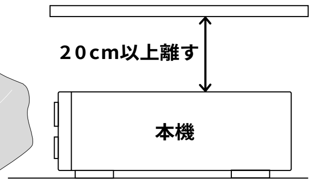
設置について

警告

放熱性を十分に確保してください。異常発熱は故障や事故の原因となります。

- 本機の上に物を置いたり、布やシートなどを被せた状態でのご使用は絶対にお止めください。
- ラック等に設置する場合は、上部に20cm以上空間をあけてください。

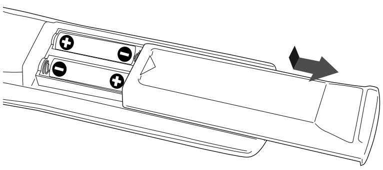




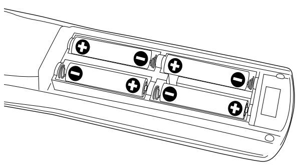
リモコンの準備

リモコンに電池を入れる

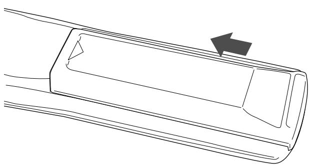
1



2



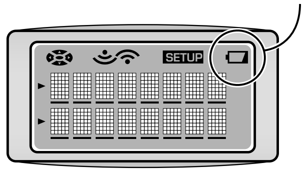
3



メモ

- 電池を交換するときは、なるべく5 分以内に交換することをおすすめします。5 分以内に交換しないと、各種リモコン設定が解除される可能性があります。設定が解除されてしまった場合は、再度設定し直してください（➡ P.58 ）。
- リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください（4本とも新しい単3形アルカリ乾電池をお使いください）。

電池の残りが少ない目安です



注意

電池を誤って使用すると、液漏れしたり破裂する危険性があります。以下の点について特にご注意ください

- 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

目　次

準　備

ホームシアター入門

各部の名称と主な働き

接続

音場補正

基本操作

応用操作

目　次

リモコンによる他機器の操作

リモコンの便利な機能

System Setupの使いこなし

応用システムの使いこなし

技術資料

その他

特長

Advanced Multi-Channel Stereophonic思想

モノラルから２chへ、２chからマルチchへ。目指すもの、その進化の背景はリアルな立体音響（ステレオフォニック）の追求に他ならない。当社が長年培ってきたエクスクルーシヴを頂点とするオーディオ技術の継承と、洗練されたデジタル技術によって、ハイクオリティーなマルチchソースに込められたアーティストの熱意や魂まで伝わるリアルな空間を創出させる。

思想実現のための3ステップ
① **高音質・高S/N・全ch等価設計**
② **音場補正技術の開発**
③ **スタジオエンジニアとの共同音質チューニングの実施**

✧ 高音質・高S/N・全ch等価設計

- **「コンセントレーテッド・ダイレクト・コンストラクション」採用**：各回路ブロック間の信号相互干渉を徹底的に排除した新構造。
- **「3次元スペースフレーム」構造**：強化板金ステイを立体的に組み合わせた高剛性化シャーシ構造。
- **「強力電源部」**：大電力供給を可能にした（高レギュレーショントランス、大容量電解コンデンサー）採用。
- **「シンメトリカル・パワートレイン・デザイン」採用**：全ch同一条件を実現。
- **新デバイス「A.D.E. MOS FET(Advanced Direct Energy MOS FET)」開発**：圧倒的な力感とハイスピードな音を両立させる新出力デバイスを7ch全てに搭載。
- **フル32ビット処理を実現**：「True 32bit Twin Digital Signal Processing」高性能DSP処理ブロック。
- **「プリシジョン・ゲイン・マネージメント・ボリューム」**：常時各増幅段のゲインを監視、最適なゲイン配分を設定。マルチチャンネルアンプでは最高水準の高S/N比105dBを実現。（Multi Channel In時）

✧ 音場補正技術と音質チューニング

- **「MCACC(Multi-Channel Acoustic Calibration System)」搭載**　（協力：エアースタジオ）：聴感のみでは正確な調整が難しいマルチチャンネル（サラウンド）セットアップを自動化。制作現場で行われる調整技術を家庭内で実現するため、音場を正確に測定、チャンネル間の空間情報の歪みを補正。
- **「エアースタジオ」のプロフェッショナルエンジニアとの共同音質チューニングを実施。**

AIR STUDIOS

✧ ユニバーサルプレーヤー対応（DVD-Audio）

- **「独立8ｃｈマルチチャンネルイン端子」搭載**
- **「センターch・アナログ・ダウンミックス回路」搭載**
  センタースピーカーを使用しない場合もセンター成分はフロントchに自動振り分け対応。
- **高S/N、高ダイナミックレンジ設計**

✧ 次世代を見据えた新規格・新デジタル・フォーマット対応

- **世界初「THX ULTRA2」（ルーカスフィルム社）規格認証**：ハイクオリティーアンプの基準であったTHX　ＵＬＴＲＡの次世代規格。「THX Surround EX」に加え7.1ch再生の表現力が飛躍的に高まるASA技術搭載。
- **次世代マルチチャンネルフォーマット対応**：高音質フォーマット「DTS96/24」デコーダー世界初搭載。BSデジタル標準音声「MPEG-2 AAC」、「Dolby Pro Logic Ⅱ」、「DTS Discrete」等にも対応。
- **高画質デジタルフォーマット対応**：「コンポーネントビデオ端子＆D4端子」装備。高画質プログレッシブ映像（720p）に対応。

✧ 各種マルチチャンネルフィーチャ

- **ADVANCED CINEMA、ADVANCED CONCERTモード**（➡ P.47、P.48）
- **ミッドナイトリスニング機能、デジタルノイズリダクション機能**（➡ P.50）
- **新機能ヴァーサタイルスピーカーコンフィグレーション**

✧ 音場補正用マイク内蔵のイルミネーションリモコン

- **他機器のプリセットコード、学習機能搭載**：他社製品も操作簡単。
- **カスタム編集機能の充実**：キーラベル編集、ファンクションリネーム機能など。
- **自照キー方式**：暗めの照明でも確実な操作が可能。

✧ 省エネルギー（待機時消費電力0.65W）設計

ホームシアター入門のメニュー

Step1

デジタルサラウンド体験への近道

① DVDプレーヤーとモニターTVの接続
② スピーカーの設置と接続➡ P.8
③ DVDのデジタルサラウンド再生➡ P.9

Step2

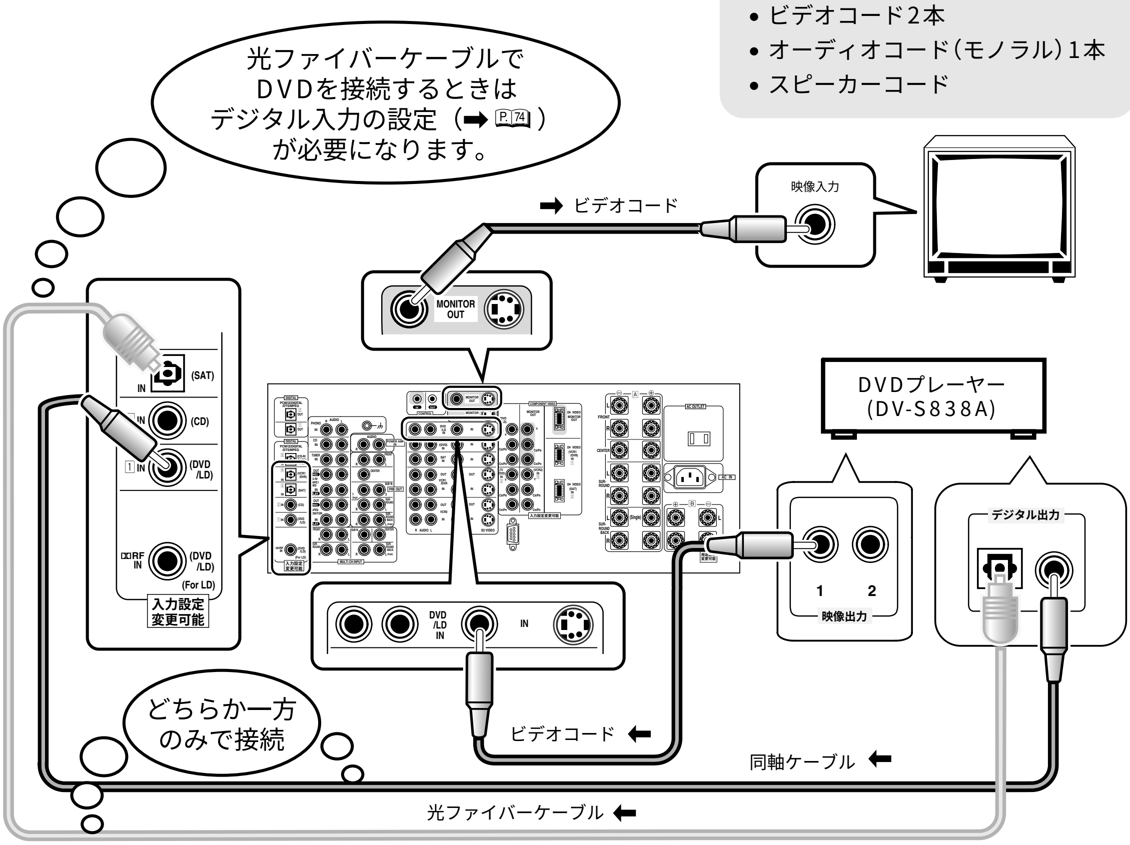
オートセットアップでワンランク上のサラウンドへ

① マイク内蔵リモコンを接続する➡ P.10
② オートセットアップ（自動測定）➡ P.11
③ 測定結果の確認➡ P.13
④ より深くサラウンドを楽しむために ➡ P.13

1 DVDプレーヤーとモニターTVの接続（機器の接続を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

用意していただくケーブル

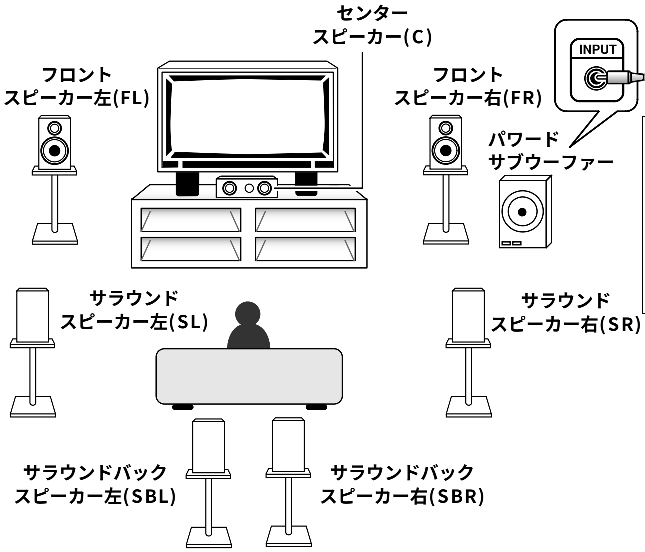
- 同軸ケーブル
  (または光ファイバーケーブル)
- ビデオコード2本
- オーディオコード（モノラル）1本
- スピーカーコード

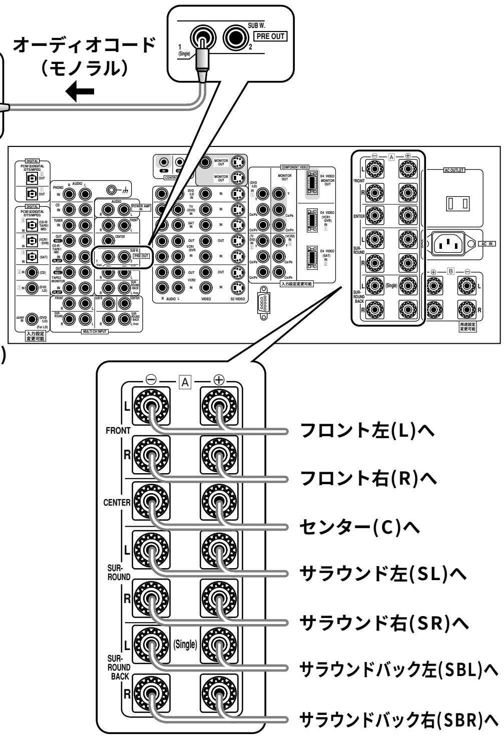


メモ　その他のソース機器の接続は「接続」をご覧ください。（➡ P.19 ～ P.31）

2 スピーカーの設置と接続（機器の接続を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

ここでの接続では、オーディオコード1本とスピーカーコードが必要です。
スピーカーは下図のように設置します。



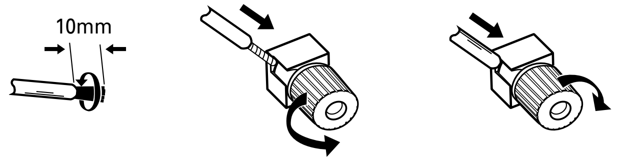


スピーカー設置に関する詳細は「スピーカー配置について」(➡ P.29)をご覧ください。

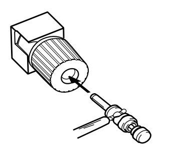
メモ 本機は最大スピーカー7本とサブウーファーを接続することができますが、上記以外の接続（例えばセンタースピーカー無し）の場合は、「スピーカーシステムの設定」でスピーカーの有り/無しの設定が必要です（➡ P.35 ）。（「ホームシアター入門」step2➡ P.10 にてオートセットアップを行うと、「スピーカーシステムの設定」も自動で設定されます）

■SPEAKER（スピーカー）端子

① 線をねじる。 ② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。 ③ スピーカー端子を締めつける。



バナナプラグを接続することもできます（詳しくはプラグの説明書をお読みください。）



注意 スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじって、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がスピーカー端子からはみ出してリアパネルに接触したり、+/−が接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

3 DVDのデジタルサラウンド再生

1 **本機の電源コードを接続し、本機の電源をONにします。**
Ⓐボタンを押して▁ONにしてから Ⓑボタンを押して電源をONにします。

2 **DVDプレーヤー、テレビの電源をONにします。**
テレビにある入力切換を本機の出力映像が表示されるように設定します。

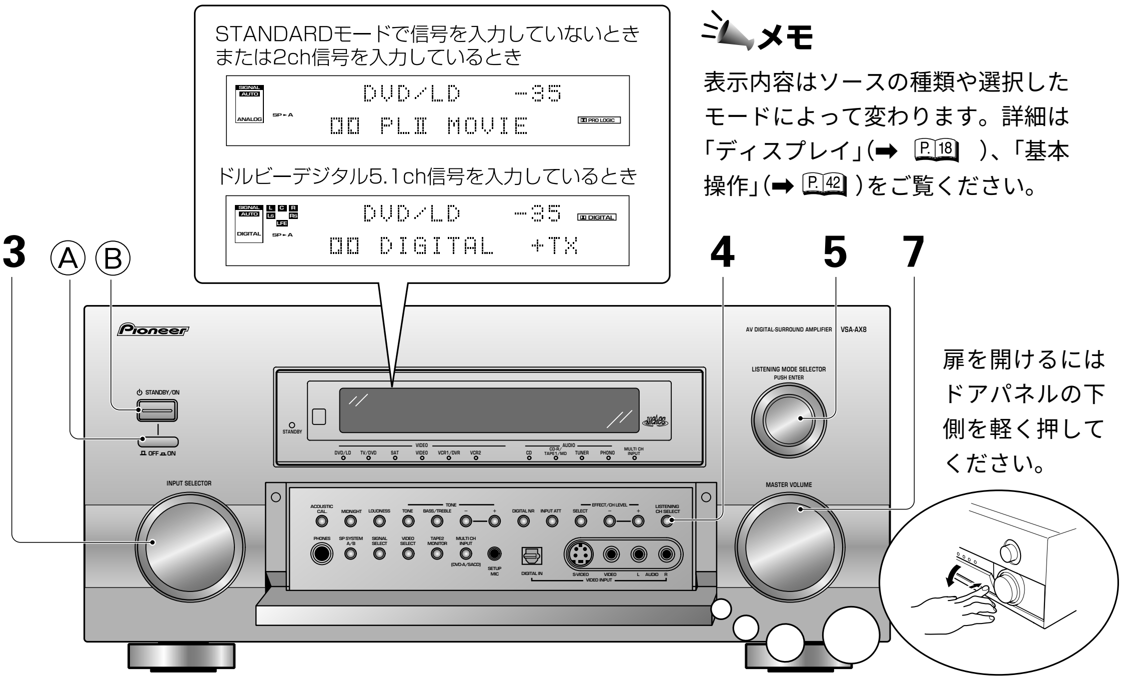
3 **INPUT SELECTORを回して、DVD/LDを選びます。（工場出荷時はDVD/LDです）**

4 **LISTENING CH SELECTボタンを押して再生チャンネル数を7.1chに切り換えます。（工場出荷時はAUTOです➡ P.44 ）**

5 **LISTENING MODE SELECTORを回して「STANDARD」を選択します。（工場出荷時はSTANDARDです➡ P.44 P.45 ）**

6 **DVDを再生します。**
DVDソフトに複数の音声が収録されているときは、お好みの音声（例えば◻◻DIGITALなど）を選びます。詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

7 **音量を調整します。**



メモ
表示内容はソースの種類や選択したモードによって変わります。詳細は「ディスプレイ」（➡ P.18 ）、「基本操作」（➡ P.42 ）をご覧ください。

扉を開けるにはドアパネルの下側を軽く押してください。

接続したスピーカーから音が出ない場合はもう一度最初から確認するか、「接続」（➡ P.19 ～ P.31 ）、「基本操作」（➡ P.42 ～ P.51 ）、「故障？ちょっと調べてみてください」（➡ P.95 ～ P.99 ）をご覧ください。

8 **STEP2へお進みくださいオートセットアップでワンランク上のサラウンド再生をしましょう。**

ホームシアター入門　Step2　～オートセットアップでワンランク上のサラウンドへ～

オートセットアップで設定する

本機のオートセットアップでは従来のマニュアル調整では難しかったさまざまな設定を、付属のマイク内蔵リモコンを使い自動で高精度に測定、設定することができます。
測定中はスピーカーからテストトーンが出力され、その音を付属のマイク内蔵リモコンが拾い、解析します。測定項目と全体の流れは以下の通りです。

まずは、ご使用になりたい
スピーカーシステムを選択します

↓ 初期測定へ

初期測定（測定設備のチェック）
- ① 暗騒音（部屋の騒音）の測定
- ② マイク感度の診断
- ③ 各chのスピーカー有り無し判定

↓ 初期測定結果確認へ

スピーカーの有り無し判定結果の
ユーザー確認（または修正）

→ 音場補正へ

システム全体の解析測定
- ④ スピーカーシステム
  （各スピーカーの低域再生能力判定）
- ⑤ スピーカーからの距離
  （最適なディレイ値を解析）
- ⑥ スピーカーの出力レベル
  （各chの出力バランスを補正）
- ⑦ 視聴環境の周波数特性
  （出力音声の音色を統一）

↓ システム全体の解析結果確認へ

システム全体の解析結果のチェック

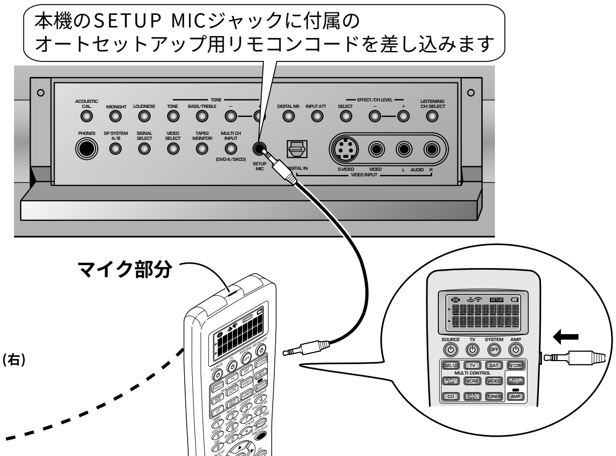
注意　テストトーンはやや大きな音なので、夜間の測定や小さなお子様はリスニングルームに立ち入らせないなどご配慮ください。

合計　3～6分程度

1 マイク内蔵リモコンを接続する

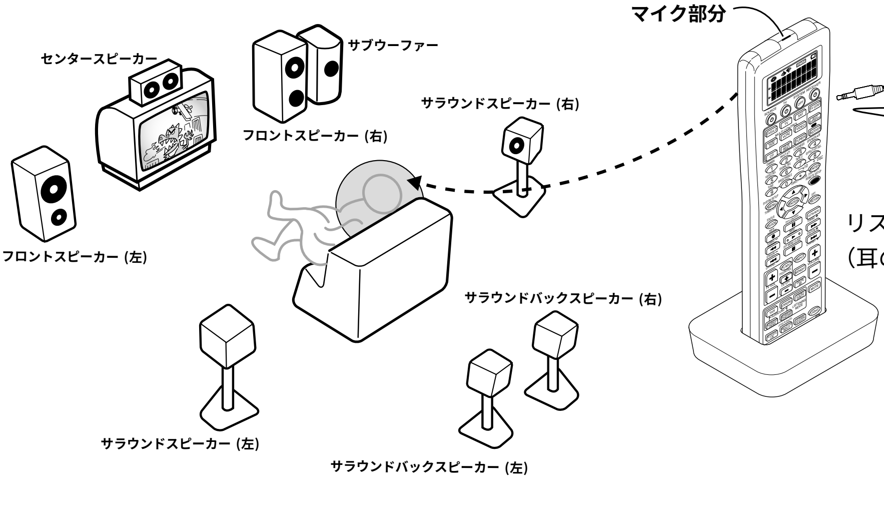
メモ

測定中はリスニングポジションから離れて、操作が必要なときのみリスニングポジションでリモコン操作を行ってください。

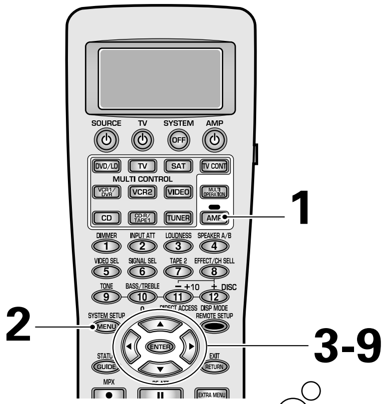


リスニングポジション
（耳の位置）に設置します。

設置するときは必ず付属のリモコンスタンドを使い、水平な台の上にのせてください。



2 オートセットアップ（自動測定）



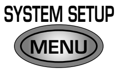
▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

メモ

- 設定の途中で静止画面を3分間放置すると自動的にシステムセットアップを終了します。
- 自動測定中の静止画面（手順7の確認画面やエラーメッセージなど）を3分間放置したり、CANCELを行ったときはそれまでの内容は設定されません。

1 

リモコンをアンプ操作モードにする。
リモコンがアンプ操作モードに切り換わります。

2 

システムセットアップモードにする。
テレビ画面にセットアップメニューが表示されます。

3 **▲▼ボタンで[Auto Surround Setup]を選んでENTERボタンで決定する。**
オートサラウンドセットアップになります。

4 **設定するスピーカーシステムを◄ ►ボタンで「Normal Surround」にする。**
[Front Bi-Amp(5.1)]については「スピーカーシステムA/Bの使いこなし」(➡ P.84)をご覧ください。

5 **▲▼ボタンで「Go Next」を選んでENTERボタンで決定する。**
自動測定の開始画面（注意事項）になります。

自動設定時におけるOSD画面のメッセージの意味

- 付属のマイク内蔵リモコンを接続して、リスニングポジションに配置してください。
- 測定中は静かにしてください。
- スピーカーとリスニングポジションの間にある障害物を取り除いてください。
- サブウーファーを接続している場合は電源を入れてボリュームを上げておいてください。

以下はOSD画面（テレビ画面）です

3

```
System Setup
▶[Auto Surround Setup]

 [1. Input Assign]
 [2. Surround Setup]
 [3. Expert Setup]
 [4. THX Audio Setup]

 [Exit]
```

4 / **5**

```
Auto Surround Setup

▶ Speaker System Select

◀[ Normal Surround ]▶

 [Go Next]
 [Return]
```

5

```
Auto Surround  Setup

•Connect  microphone
•Please  be  quiet
•Move  obstacles  away
•If  you  have  a  subwoofer
   turn  power  on  and
     turn  volume  up

 ▶ [Start]
   [Cancel]
```

〜ご注意〜

手順6にてENTERボタンを押し、オートサラウンドセットアップを開始すると数秒後にテストトーンが大きな音で出力されます。0dBになってからマスターボリュームを下げることでテストトーンの音を小さくすることもできますが、正しく設定されない場合があります。小さなお子様が近くにいる場合などはご注意ください。

ホームシアター入門 各部名称 接続 音場補正 基本操作 応用操作 リモコン 使いこなし 技術資料

以下はOSD画面(テレビ画面)です

6

```
Auto Surround Setup

•Connect microphone
•Please be quiet
•Move obstacles away
•If you have a subwoofer
   turn power on and
     turn volume up

► [Start]
  [Cancel]
```

自動的にボリュームを0dBに設定

```
Auto Surround Setup


     Please Wait

Caution!!
   Test tone is
        output loudly.
  [Cancel]
```

測定画面へ

```
Auto Surround Setup

    Now Analyzing…

Environment Check
  Ambient Noise        [OK]
  Microphone           [OK]
 ►Speaker Level        [  ]

  [Cancel]
```

確認画面へ

7

```
        Check!!
  Front          [ YES ]
  Center         [ YES ]
  Surround       [ YES ]
  SurrBack       [ YES×2]
  Subwoofer      [ YES ]

► [OK,Go Next]
  [Retry]
  [ERR→Fix SP.]
  [Return to Menu]
```

8

```
Auto Surround Setup

    Now Analyzing…

Surround Analysis
  Speaker Systems      [OK]
 ►Channel Delay        [  ]
  Channel Level        [  ]
  Acoustic Cal EQ      [  ]

  [Cancel]
```

確認画面へ

9

```
Speaker Systems Check

  " Normal Surround "

Front          [SMALL]
Center         [SMALL]
Surround       [SMALL]
SurrBack       [SMALL×2]
Subwoofer      [ YES  ]

► [Next]   (◄Back/Next►)
  [Return]
```

6

▲▼ボタンで[Start]を選びENTERボタンで決定したらリモコンをスタンドに戻します。

オートサラウンドセットアップが開始されます。まずは初期測定(測定設備チェック)です。この自動測定は数十秒で終わりますので、手順7の画面になるまでしばらくお待ちください。
「Ambient Noise」:暗騒音(部屋の騒音)の測定をします
「Microphone」:マイクの感度を診断します
「Speaker Level」:各スピーカーの有り無し判定をします

7

スピーカー有り無し判定結果の確認画面になります。

判定結果が合っている場合は▲▼ボタンで「OK,Go Next」を選んでENTERボタンで決定し、リモコンをスタンドに戻します。

次の自動設定が始まります。手順8へお進みください。

判定結果が間違っていて、もう一度自動測定を試す場合は▲▼ボタンで「Retry」を選んでENTERボタンで決定します。

手順6へ戻ります。

判定結果が間違っていて、手動で設定し直す場合は▲▼ボタンで「ERR→Fix SP.」を選んでENTERボタンで決定します。

設定が間違っているチャンネルを**▲▼ボタン**で選び**◄ ►ボタン**で正しい設定にします。
すべてのチャンネルを正しく設定したら**▲▼ボタン**で「OK,Go Next」を選んでENTERボタンで決定し、リモコンをスタンドに戻します。

判定結果で[ERR]が表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。[Retry]しても結果が同じような場合は一度電源を切り、スピーカーの接続を確認してください。また、途中で測定エラーによる警告が表示されている場合がありますので、そのときは画面の指示にしたがってください。

8

補正用測定が開始されます。

「Speaker Systems」:各スピーカーの低域再生能力判定
「Channel Delay」:最適なディレイ値を解析
「Channel Level」:各chの出力バランスを補正
「Acoustic Cal EQ」:出力音声の音色を統一
これらの自動設定には接続しているスピーカーの数によって3～5分程度かかりますので、手順9の画面になるまでしばらくお待ちください。

9

「Speaker Systems Check」の画面が表示されたら自動測定は終了です。

次ページ ③ 設定内容の確認にお進みください。

メモ　設定の途中でOSD画面に何かメッセージが表示された場合は「自動設定時におけるOSD画面のメッセージの意味」(➡ P.99)をご覧ください。

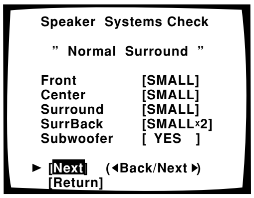
3 測定結果の確認

1 ENTERボタン（ENTER）を押して、設定された内容を以下の順に確認する。

・１つ前の画面や先の画面を表示したいときは ◀ または ▶ を押します。

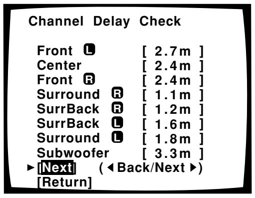
・途中で確認画面を終了するときは▲▼ボタンで[Return]を選びENTERボタンを押します。

スピーカーシステム ➡ P.35
（各スピーカーの低域再生能力判定）



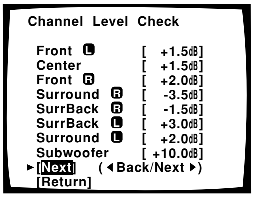
➡ ENTER

スピーカーまでの距離 ➡ P.38
（最適なディレイ値を解析）



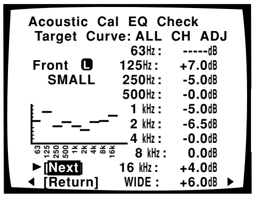
➡ ENTER

スピーカーの出力レベル ➡ P.39
（各chの出力バランスを補正）



⬇ ENTER

視聴環境の周波数特性 ➡ P.41
（出力音声の音色を統一）



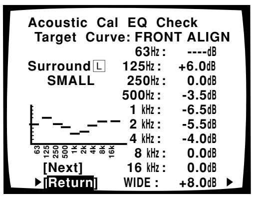
ALL CH ADJ補正
フロント左チャンネル

➡ ENTER

・・・・・・・・・・

2種類の補正カーブ（ALL CH ADJとFRONT ALIGN）について各チャンネルの測定結果が順次表示されます。

視聴環境の周波数特性 ➡ P.41
（出力音声の音色を統一）



FRONT ALIGN補正
サラウンド左チャンネル

最後の画面で ENTER を押すと、System Setupメニュー画面に戻ります。

2 ▲▼ボタンで[Exit]を選びENTERボタンを押す。

System Setupが終了し、通常動作に戻ります。
このとき、アコースティックキャリブレーションEQが自動的にALL CH ADJでONになり、MCACCインジケーターが点灯します。

・再度設定内容を確認したいときは「音場補正の設定確認」（➡ P.34）をご覧ください。

4 より深くサラウンドを楽しむために

1. さまざまな音場効果を加えることができます。

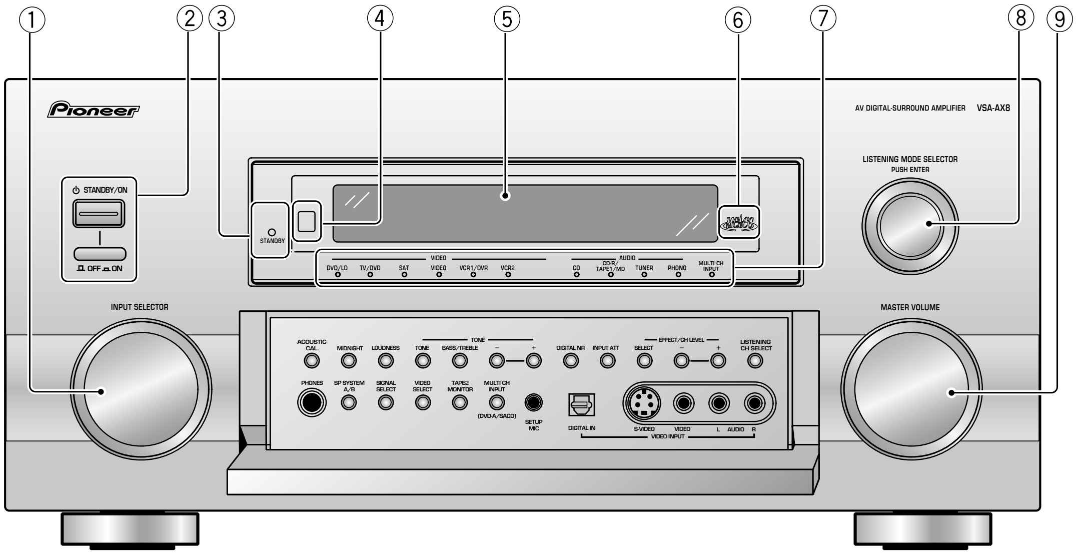
リスニングモード（➡ P.44 ～ P.48）や「便利な音声再生用機能」（➡ P.50）を使ってさまざまな効果を加えることができます。

2. 快適にお使い頂くためにその他のさまざまな設定が可能です。

「System Setupの使いこなし」（➡ P.73）をご覧になり、必要に応じて細やかな設定を行ってください。

ホームシアター入門
各部名称
接続
音場補正
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

フロントパネル



① **INPUT SELECTOR**
入力ソースを選択します。

② **■OFF▂ONボタン(主電源)**
このボタンがOFF(■)の状態ではフロントパネルおよびリモコンでの操作ができません。

⏻STANDBY/ONボタン
本機の電源を入れたり、スタンバイモードにします。

③ **STANDBYインジケーター**
スタンバイモード時に点灯します。

④ **リモコン受光部(➡下記参照)**
リモコン信号はここで受信されます。

⑤ **ディスプレイ (➡ P.18)**

⑥ **MCACCインジケーター (➡ P.49)**
Acoustic Cal EQがONのときに点灯します。また、音場補正の自動測定中も点灯します。

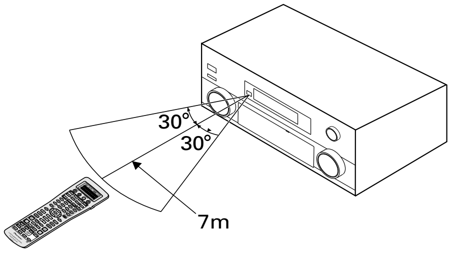
⑦ **入力ファンクションインジケーター**
選択している入力ソースのインジケーターが点灯します。

⑧ **リスニングモード切換ノブ (➡ P.44)**
ノブを回すことでリスニングモードを選択します。リスニングモードによっては押して選ぶモードもあります。

⑨ **MASTER VOLUME**
本機の音量を調節します。

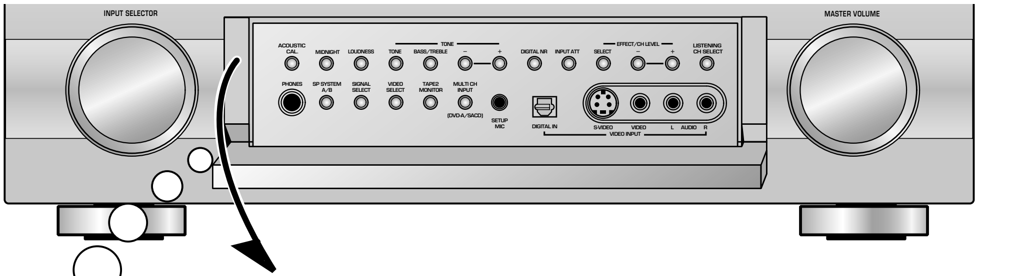
リモコンの操作範囲

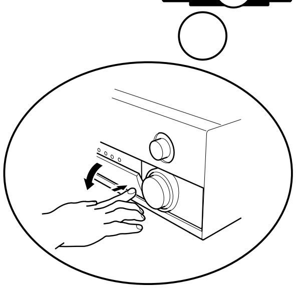
本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。

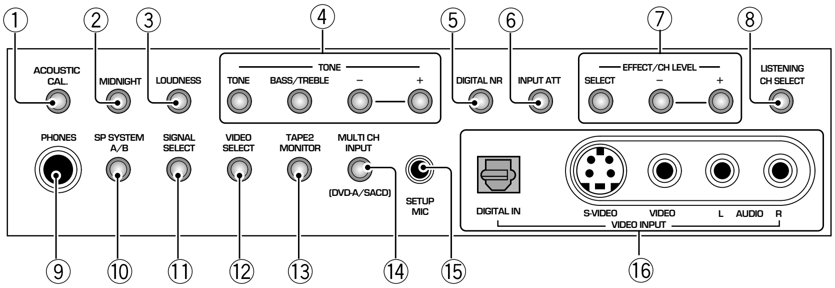


- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用したほかのリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

フロントパネルドア内部







扉を開けるにはドアパネルの下側を軽く押してください。

① **ACOUSTIC CAL.ボタン（➡ P.49）**
「視聴環境の周波数特性の補正」での設定をON/OFFします。

② **MIDNIGHTボタン（➡ P.50）**
ミッドナイトリスニング機能をON/OFFします。

③ **LOUDNESSボタン（➡ P.51）**
ラウドネス機能をON/OFFします。

④ **TONEボタン（➡ P.51）**

BASS/TREBLEボタン（➡ P.51）

＋/－ボタン（➡ P.51）
トーンコントロール機能を設定するときに押します。

⑤ **DIGITAL NRボタン（➡ P.50）**
デジタルノイズリダクションをON/OFFします。

⑥ **INPUT ATT.ボタン（➡ P.54）**
アナログ信号の入力レベルを減衰させるときに押します。

⑦ **EFFECT/CH LEVEL（➡ P.40 P.48）**

SELECTボタン
ADVANCEDモードのエフェクトレベルや出力レベルを調整するスピーカーを選択するとき押します。

＋/－ボタン
エフェクトレベルやチャンネルレベルを調整します。

⑧ **LISTENING CH SELECTボタン（➡ P.44）**
再生チャンネルを5.1ch、7.1chまたはAUTOの中から選びます（➡ P.44）。
5秒以上押すことでDUAL MONOの設定を切り換えます（➡ P.53）。
Multi Channel In再生時は2ch再生か8ch再生を切り換えます（➡ P.52）。

⑨ **PHONES（ヘッドホン）端子**
ヘッドホンを差し込む端子です。ヘッドホンを使用すると、スピーカーから音声は再生されません。

⑩ **SP SYSTEM A/Bボタン（➡ P.85）**
スピーカーシステムのAとBを切り換えます。

⑪ **SIGNAL SELECTボタン（➡ P.43）**
入力信号の種類（DIGITAL/ANALOGなど）を切り換えるとき押します。

⑫ **VIDEO SELECTボタン（➡ P.56）**
音楽を聞きながら他のファンクションのビデオ映像をみたいときに押します。

⑬ **TAPE2 MONITORボタン（➡ P.54）**
TAPE2 MONITOR入力端子に接続されているテープデッキなどの音声を再生するとき押します。

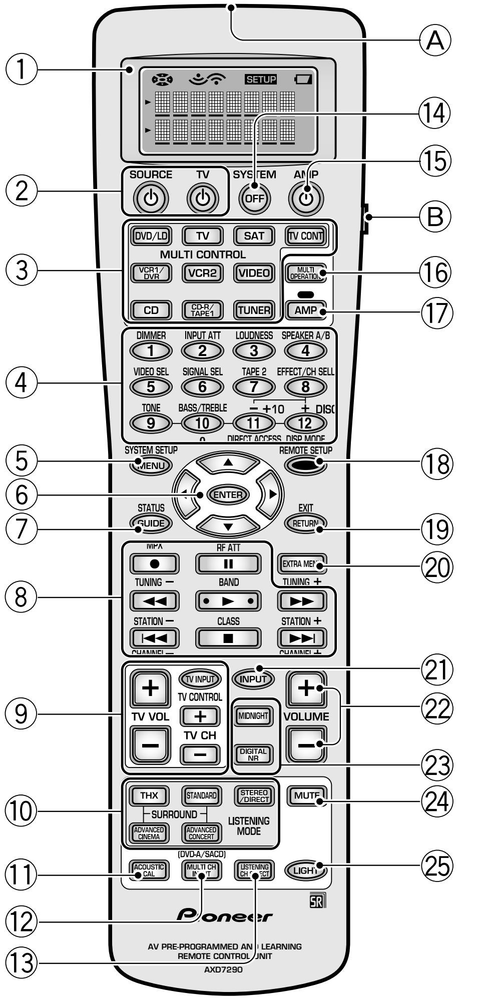
⑭ **MULTI CH INPUT（DVD-A/SACD）ボタン（➡ P.52）**
裏面のMULTI CH IN端子に接続した機器を再生するときに押します。

⑮ **SETUP MIC端子（➡ P.10）**
オートセットアップを行う際、オートセットアップ用リモコンコードを差し込みます。

⑯ **VIDEO INPUT端子（➡ P.25）**
VIDEOファンクション用の接続端子です。（光デジタル接続も可能です）

リモコン

本機に付属しているリモコンのボタンとその機能について説明します。ここでは本機の操作に関する機能についてのみ記載します。ソース機器やモニターTVを操作する場合の使用例は「他機器のリモコン操作」(➡ P.62)をご覧ください。



Ⓐ **測定用内蔵マイク**

Ⓑ **測定マイク用コードジャック**

以下のボタンはMULTI CONTROLボタンに応じて用途が変わります

② (SOURCE ⏻ のみ)

④ ～ ⑧、⑲ (➡ P.62)

以下のボタンはどのMULTI CONTROLボタンが選ばれていても、TV CONTに設定された機器を操作することができます

② (TV ⏻ のみ)、⑨

① リモコンディスプレイ

さまざまな情報を表示します。

：⑥ ▲/▼/◄/►/ENTERボタンを使用するときに点灯します。

：リモコンコードの送受信を知らせます。

SETUP：リモートセットアップのときに点灯します。

：電池の残りが少なくなったときに点灯します。

② ⏻SOURCE電源ボタン

ソース機器の電源をON/OFFします。

⏻TV電源ボタン

テレビの電源をON/OFFします。

③ 他機器操作ボタン

リモコンで他機器を操作するとき、または本機の入力を切り換えるとき押します。

④ 数字ボタン

リモコンの操作モードにしたがってさまざまな目的に使用します。リモコンがアンプ操作モードの場合はそれぞれのボタンが以下の働きをします。

DIMMERボタン (➡ P.56)

本体のディスプレイの明るさを調整するとき押します。

INPUT ATTボタン (➡ P.54)

アナログ信号の入力レベルを減衰させるときに押します。

LOUDNESSボタン (➡ P.51)

ラウドネス機能をON/OFFします。

SPEAKER A/Bボタン (➡ P.85)

スピーカーシステムのAとBを切り換えます。

VIDEO SELボタン (➡ P.56)

音楽を聞きながら他のファンクションのビデオ映像をみたいときに押します。

SIGNAL SELボタン (➡ P.43)

入力信号の種類を切り換えるとき押します。

TAPE 2ボタン (➡ P.54)

TAPE2 MONITOR入力端子に接続されているテープデッキなどの音声を再生するとき押します。

EFFECT/CH SELボタン (➡ P.40 P.48)

ADVANCEDモードのエフェクトレベルや、出力レベルを調整するスピーカーを選択するとき押します。

TONEボタン（➡ P.51）

BASS/TREBLEボタン
トーンコントロールを設定するときに押します。

+/−ボタン
トーンコントロールやリスニングモードの効果、スピーカー出力レベルなどを調整します。

⑤ **SYSTEM SETUP/MENUボタン**
（➡ P.33 P.74 P.76 P.81）
音場補正や各種設定をするときに押します。

⑥ **▲/▼/◄/►/ENTERボタン**
各種設定、メニュー画面で項目を選択したり、決定するときに押します。

⑦ **STATUS/GUIDEボタン（➡ P.57）**
MIDNIGHTやDIGITAL NRなど選択されている機能の情報を、ディスプレイとOSDに表示させて確認したいときに押します。

⑧ **ソース機器操作ボタン**
③他機器操作ボタンで選択した他の機器を操作するときに押します。

⑨ **TV CONTROLボタン**
テレビを操作するボタンです。
③他機器操作ボタンのTV CONTに登録された機器をいつでも操作することができます。

⑩ **LISTENING MODEボタン（➡ P.44）**
リスニングモードを選択するとき押します。

⑪ **ACOUSTIC CAL.ボタン（➡ P.49）**
「視聴環境の周波数特性の補正」での設定をON/OFFします。

⑫ **MULTI CH INPUTボタン（➡ P.52）**
MULTI CH IN端子に接続した機器を再生するときに押します。

⑬ **LISTENING CH SEL.ボタン（➡ P.44）**
再生チャンネル数の変更などに使用します（フロントパネルドア内部⑧参照）。

⑭ **SYSTEM OFFボタン（➡ P.66）**
あらかじめ設定したコマンドと、すべてのパイオニア機器の電源を切るとき押します。

⑮ **⏻AMP電源ボタン**
本機の電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にするとき押します。

⑯ **MULTI OPERATIONボタン（➡ P.64 P.66）**
マルチオペレーションを実行するときに押します。

⑰ **AMPボタン**
リモコンをアンプ操作モードにします。

⑱ **REMOTE SETUPボタン（➡ P.58）**
リモコンの各種設定に使用します。

⑲ **EXIT/RETURNボタン**
各種メニューを解除するときに押します。

⑳ **EXTRA MENUボタン**
プリセット、学習、マルチオペレーションなどのための拡張コマンド用ボタンです。このボタンを押すと、 が点滅しますので▲/▼ボタンでコマンドを選択し、ENTERボタンで送信します。

㉑ **INPUTボタン**
入力ファンクションを順次切り換えます。

㉒ **VOLUME（+/−）ボタン**
本機の音量を調節するとき押します。

㉓ **MIDNIGHTボタン（➡ P.50）**
ミッドナイトリスニング機能をON/OFFします。

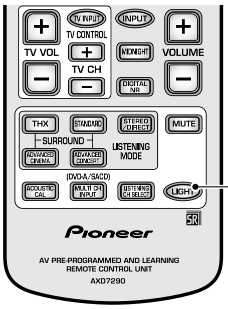
DIGITAL NRボタン（➡ P.50）
デジタルノイズリダクションをON/OFFします。

㉔ **MUTEボタン**
音を一時的に消すときに押します。もう一度押すと、ミュートは解除されます。

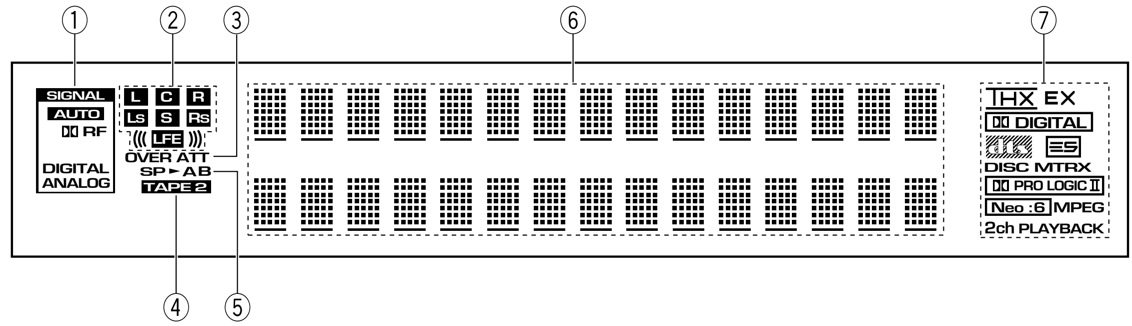
㉕ **LIGHTボタン**
リモコンのボタンの照明が点灯します。

リモコンライト

LIGHTボタンを押すことで、リモコンディスプレイとボタンのバックライトがON/OFFします。お部屋が暗いときに、ディスプレイとボタンを一時的に明るくすることができて便利です。



ディスプレイ



① SIGNAL SELECTインジケーター

(➡ P.43)

現在選択されている機器の入力信号の種類が点灯します。

② プログラムフォーマットインジケーター

DD DIGITALやDTS信号等が入力された時、そのソースに含まれるチャンネルの情報を点灯します。

L:左フロントチャンネル
C:センターチャンネル
R:右フロントチャンネル
LS:左サラウンドチャンネル
S:サラウンドチャンネル(モノラル)
RS:右サラウンドチャンネル

LFE: Low Frequency Effect(超低音の効果音)チャンネル

((( ))):実際にLFE信号が入ってきたときに点灯します。

「6,1再生検出信号」の入ったソースが再生されると「**LS**」「**S**」「**RS**」の3つのインジケーターが点灯します。

③ アナログ信号レベルインジケーター(➡ P.54)

OVER:アナログ入力信号のレベルが高すぎる時に点灯します。

ATT:INPUT ATTモードがONのときに点灯します。

④ TAPE2インジケーター (➡ P.54)

TAPE2 MONITOR機能がONのときに点灯します。

⑤ スピーカーインジケーター (➡ P.85)

現在選択されているスピーカーシステムが点灯します。

⑥ キャラクター文字表示部

ボリュームレベルやリスニングモードなどの情報を表示します。

⑦ デジタルフォーマットインジケーター

(➡ P.89 ～ P.91)

入力信号を示すインジケーター

DD DIGITAL
ドルビーデジタル信号入力時に点灯

dts
dts信号入力時に点灯

MPEG
MPEG-2 AAC信号入力時に点灯

実際に行われている処理を示す

THX
HOME THXモード選択時に点灯

EX
EXマトリックス処理を行っている時に点灯

ES
ESデコード(DTSディスクリートまたはDTSマトリックス)処理している時に点灯

EX、ES信号が入力されても実際にEX、ES処理がされていないときは点灯しません。入力信号がEX、ES信号かどうかは②プログラムフォーマットインジケーターで示されます。

DISC
DTSディスクリート6.1処理している時に点灯

MTRX
DTSマトリックス6.1処理している時に点灯

DD PRO LOGIC II
DDプロロジックII処理している時に点灯

Neo :6
Neo：6処理している時に点灯

2ch PLAYBACK
再生出力がフロント2ch(設定によってはサブウーファーも含む)のみの場合と、ヘッドホン挿入時に点灯

映像機器の接続について

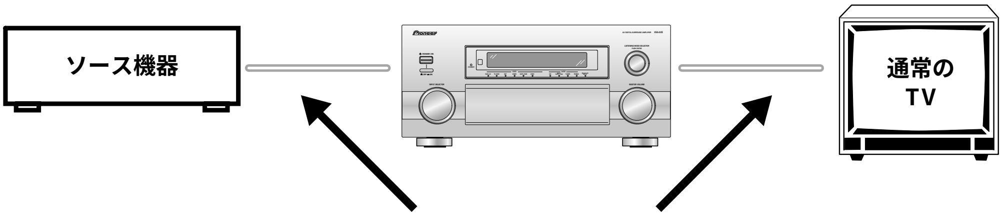
映像機器を接続するには何点かの注意事項があります。ソース機器入力とモニター出力との関係は以下の表のようになります。詳細はさらに下の事例をご覧ください。
（コード／ケーブルに関する詳細は次ページにあります）

IN＼OUT	コンポジット	S	コンポーネント	D
コンポジット	○	×	×	×
S	×	○	×	×
コンポーネント	×	×	○	○
D	×	×	○	○

ソース機器をコンポジットまたはSビデオコードで接続する場合

ソース機器ー本機ーモニターTVと接続するコード／ケーブルは必ず同じ種類のコードで統一してください。

例えば、DVDプレーヤーをSビデオコードで接続した場合、モニターTVをコンポジットコードで接続しても映像は出力されません。



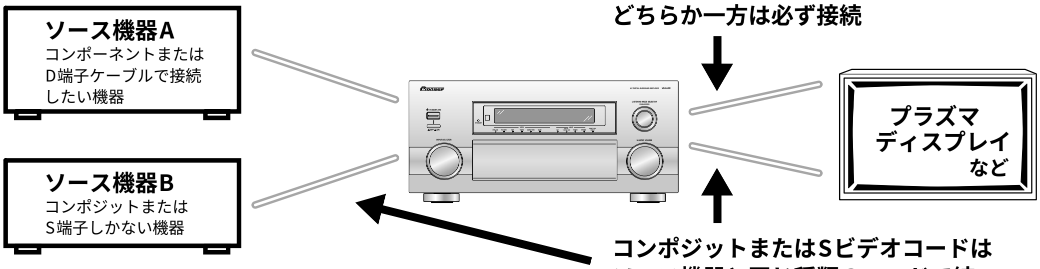
ソース機器をコンポーネントまたはD端子ケーブルで接続する場合

コンポーネント端子ーD端子間は信号の変換がされますので、どちらか一方のみの接続で問題ありません。

例えば、DVDプレーヤーをコンポーネントケーブルで接続しても、モニターTVはD端子ケーブルで接続することが可能です。但し工場出荷設定（リアパネルの端子の脇に表記）と違う端子に機器を接続する場合は入力設定の変更が必要です。（➡ P.75）

ソース機器の映像出力端子が機器によってバラバラな場合

下記の組合わせで考えます。



メモ

- 録画機器用の映像出力端子（OUT）の信号はモニター出力と同じです。
- 接続方法や入力信号の種類により、オーバーレイ表示（モニターＴＶの下側に操作内容などを示す表示）が表示されなくなる場合があります。

リアパネルの全体図

デジタル出力端子（➡ P.27）

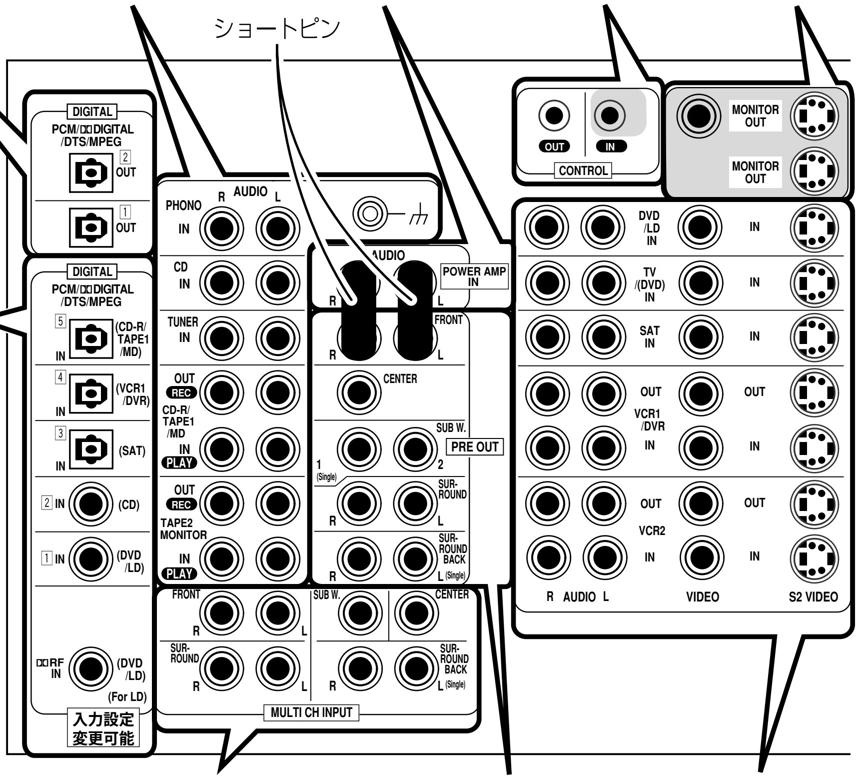
アナログ音声入力端子（➡ P.26）

POWER AMP IN端子（➡ P.86）

CONTROL IN/OUT端子（➡ P.87）

MONITOR OUT端子（➡ P.22）

ショートピン



デジタル入力端子（➡ P.27）

端子に表示された機器と違う機器を接続するときは入力設定が必要です。
（➡ P.74）

ショートピンは抜かないで下さい。
（➡ P.86）

MULTI CH INPUT端子（➡ P.23 P.26）

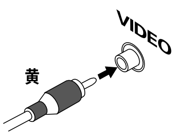
PRE OUT端子（➡ P.86）

AV機器入出力端子（➡ P.22 P.25）

接続コード/ケーブルについて　（コード／ケーブルは全て別売りです）

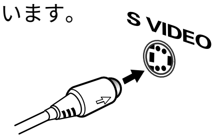
■ビデオコード

一般的な映像用コードで、コンポジットフォーマットの映像信号を伝送します。



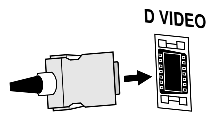
■Sビデオケーブル

映像信号のY とC の2 つの信号（色差信号）からなり、コンポジットよりも高品位な映像品質を楽しむのに適しています。



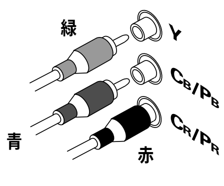
■D端子ケーブル

映像色差信号とフォーマット識別制御信号を、1 つのコネクタで接続できるケーブルです。コンポーネント映像ケーブルと同等の映像品質を楽しめます。



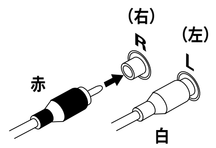
■コンポーネント映像ケーブル

映像信号のY、C_B/P_B、C_R/P_R の3つの信号（色差信号）からなり、Sビデオケーブルよりも高品位な映像品質を楽しむのに適しています。（ビデオコード3本での接続も可能です）



■オーディオコード

オーディオ機器の接続に使用します。

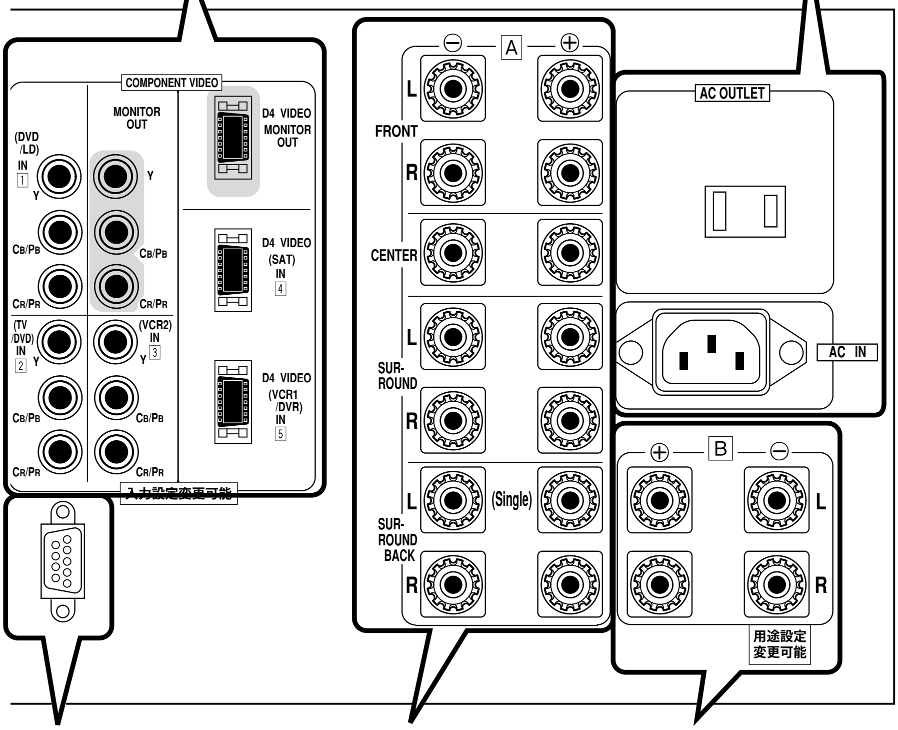


注意 **機器の接続、変更を行う場合は必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。**

COMPONENT VIDEO入/出力端子
(➡ P.22 P.24)
端子に表示された機器と違う機器を接続するときは入力設定が必要です。(➡ P.75)

AC OUTLET
AC IN
(➡ P.31)

注意
必ず一番最後に接続してください。



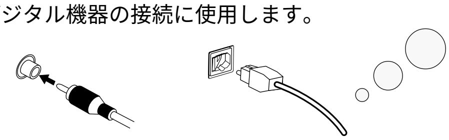
RS-232C端子
将来の為の端子です。

スピーカー端子A(メインシステム)
(➡ P.28)

スピーカー端子B(➡ P.84)
別エリアでのステレオ再生(➡ P.84)
フロントスピーカーのBi-Amp接続用(➡ P.84)

■同軸ケーブル/光ファイバーケーブル

デジタル機器の接続に使用します。

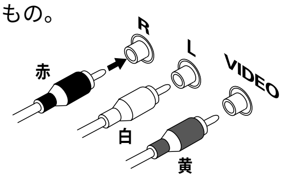


同軸ケーブル(またはビデオコード)　**光ファイバーケーブル**

- 接続の際は端子の向きを合わせてください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉らなくなることがあります。
- 長さは3m以下のものを使用してください。
- プラグにホコリが付着したときは、柔らかい布で拭いてから接続してください。

■AVコード

オーディオコードとビデオコードの一体化したもの。

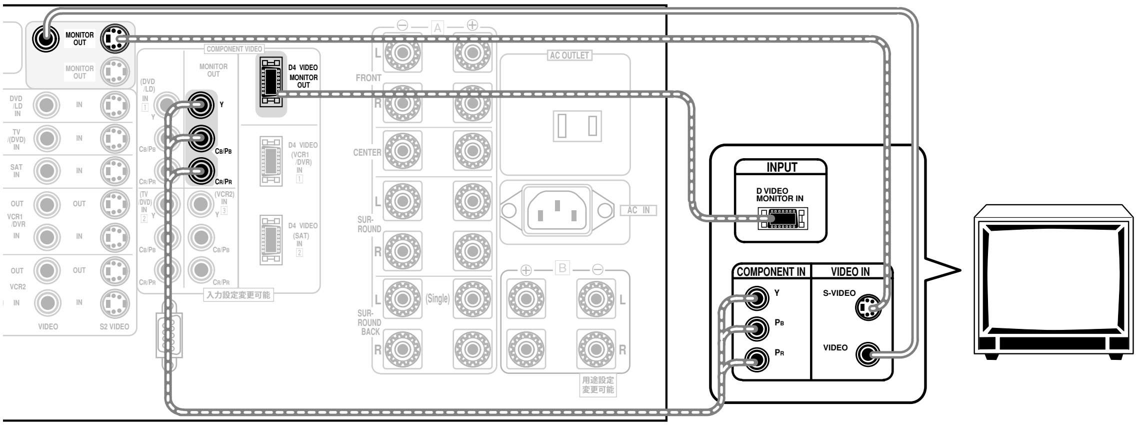


メモ

本機リアパネルのS端子にはS2 VIDEOと書かれていますが、S、S1、S2と書かれた機器全てと接続が可能です。
また同様に本機のD端子にはD4 VIDEOと書かれていますが、D1、D2、D3、D4と書かれた機器全てと接続が可能です。

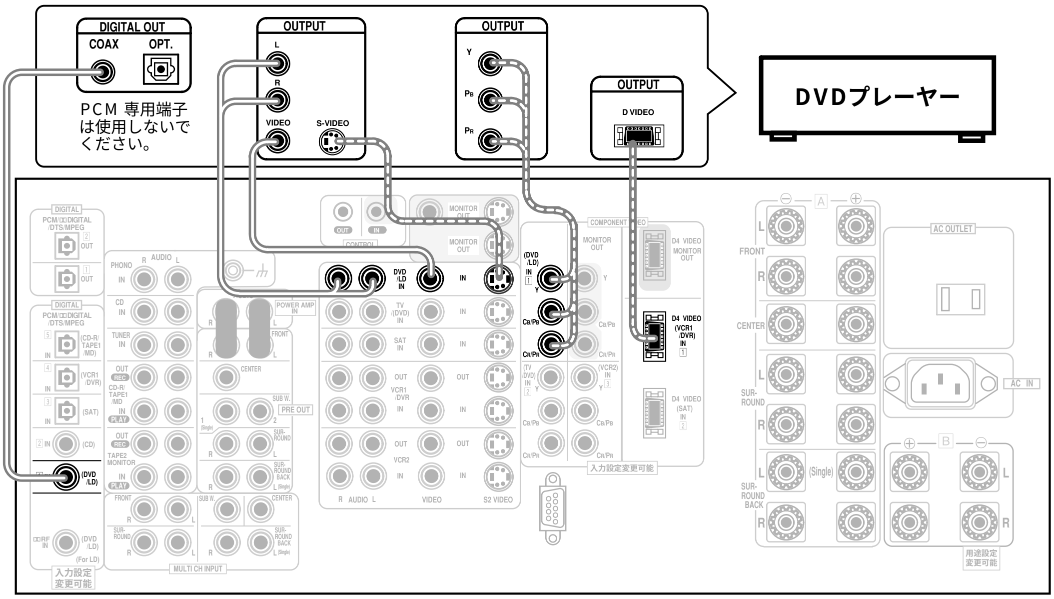
TV（モニター）の接続

「映像機器の接続について」（➡ P.19 ）をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コード/ケーブルについて」（➡ P.20　P.21 ）をご覧ください。



DVDプレーヤーの接続

「映像機器の接続について」（➡ P.19 ）をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コード/ケーブルについて」（➡ P.20　P.21 ）をご覧ください。
コンポーネント端子やD　端子で接続するときに、端子脇の表記とは異なる端子を使用する場合は、「コンポーネントビデオ入力の設定」が必要です（➡ P.75 ）。
同軸ケーブルや光ファイバーケーブルでデジタル接続するときに、下図と異なる場合は「デジタル入力の設定」が必要です（➡ P.74 ）。



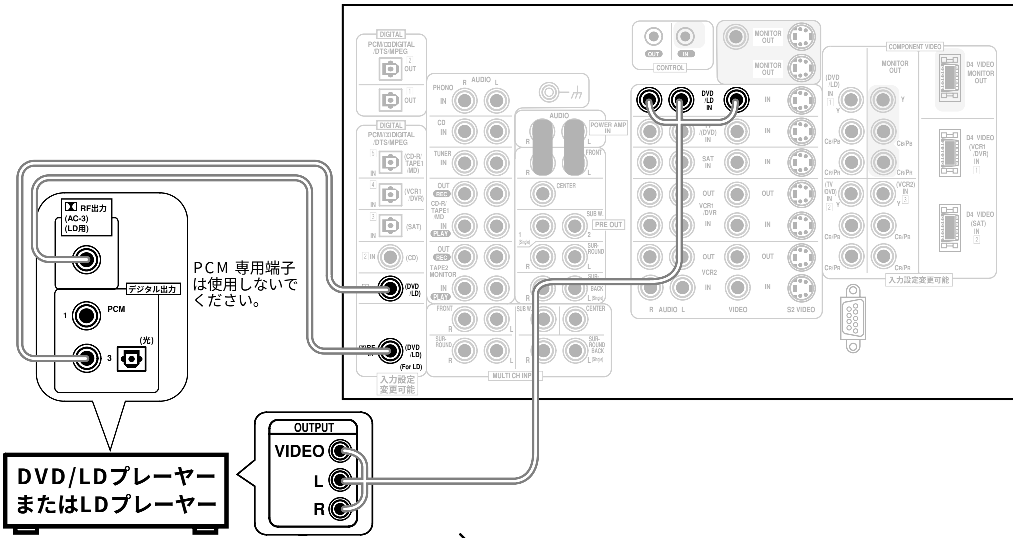
メモ

コンポーネント端子やD 端子で接続するときは、ＤＶＤ プレーヤー側でコンポーネントビデオの出力設定が必要な場合があります。

DVD/LDコンパチブルプレーヤーまたはLDプレーヤーの接続

DVD/LDプレーヤーまたはLDプレーヤーにDD RF出力端子がある場合は、DD RF端子も接続します。これは、ドルビーデジタルLDソフトの再生に必要です。また、LDのアナログオーディオ信号はデジタル出力されませんのでアナログオーディオ接続も行ってください。

同軸ケーブルや光ファイバーケーブルでデジタル接続するときに、下図と異なる場合は「デジタル入力の設定」が必要です(➡ P.74)。



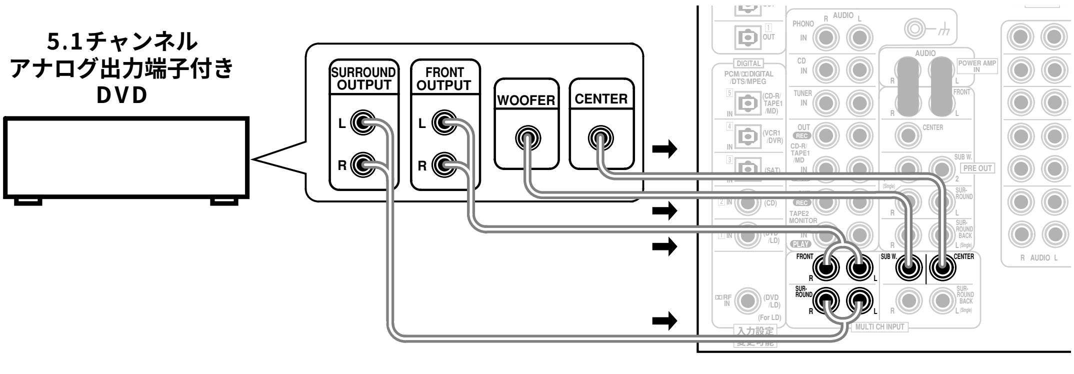
メモ

- DD RF端子の接続は同軸ケーブルで行います。

DVDオーディオプレーヤーの接続

DVDプレーヤーに5.1chアナログ出力端子がある場合は、本機のMULTI CH INPUT端子と接続してDVDオーディオ再生を行うことができます。DVDオーディオ再生するには入力モードの切り換えが必要です。詳しくは「DVDオーディオ(マルチチャンネル入力)の再生」(➡ P.52)をご覧ください。

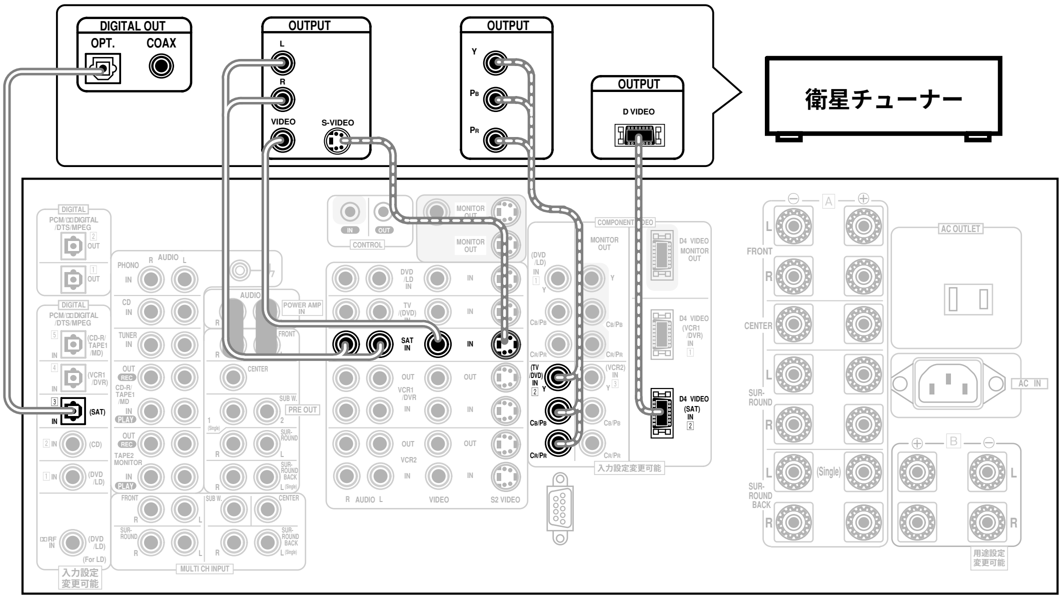
また、DVDオーディオを7.1chスピーカーシステムで快適に再生するための設定もあります。「マルチチャンネル入力関連の設定」(➡ P.79)もあわせてご覧ください。



ホームシアター入門
各部名称
接続
音場補正
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

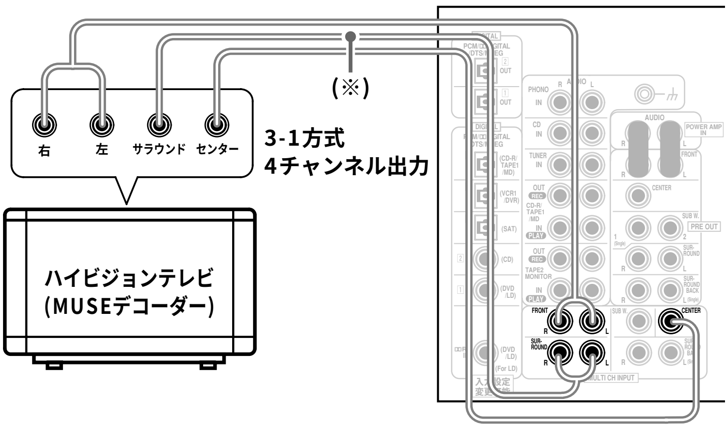
BS/CSチューナーの接続

「映像機器の接続について」(➡ P.19)をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コード/ケーブルについて」(➡ P.20 P.21)をご覧ください。
コンポーネント端子やD　端子で接続するときに、端子脇の表記とは異なる端子を使用する場合は、「コンポーネントビデオ入力の設定」が必要です(➡ P.75)。
同軸ケーブルや光ファイバーケーブルでデジタル接続するときに、下図と異なる場合は「デジタル入力の設定」が必要です(➡ P.74)。



ハイビジョンテレビ(またはMUSEデコーダーの3-1方式4チャンネル放送)との接続

本機裏面のMULTI CH IN端子に、オーディオコード(別売)で接続します。
この端子に接続した機器の音声を再生するには、入力モードの切り換えが必要です。詳しくは「ＤＶＤオーディオ(マルチチャンネル入力)の再生」(➡ P.52)をご覧ください。



メモ

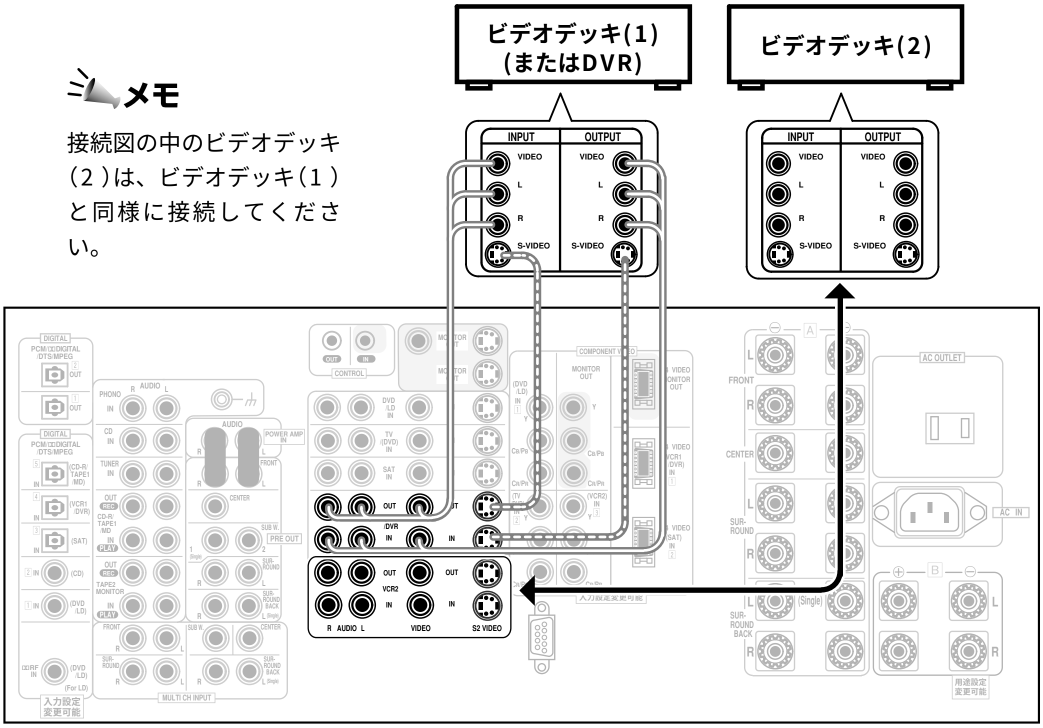
サラウンドの接続(※)は1Ｐ→2Ｐの分岐コード(モノラル→ステレオ)をお使いください。
(ハイビジョンテレビ(ＭＵＳＥデコーダー)側にサラウンド右／左の出力がある場合は、通常のステレオオーディオコードをお使いください。)

ビデオ機器の接続

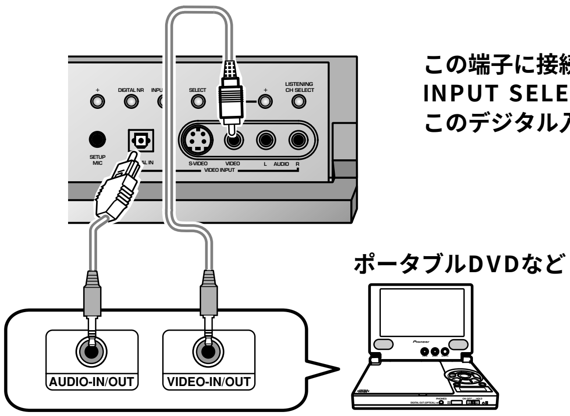
「映像機器の接続について」(➡ P.19)をご覧になり、どの方法で接続するかを選択してください。
各接続コード/ケーブルや画質については「接続コード/ケーブルについて」(➡ P.20 P.21)をご覧ください。
コンポーネント端子やD　端子で接続するときに、端子脇の表記とは異なる端子を使用する場合は、「コンポーネントビデオ入力の設定」が必要です(➡ P.75)。
録画をすることを前提とする場合は、ソース機器と録画機器の映像信号をコンポジットかS２のどちらかに統一して接続する必要があります。また音声信号についてもアナログ接続する必要があります。

メモ

接続図の中のビデオデッキ（２）は、ビデオデッキ（１）と同様に接続してください。



■前面（「VIDEO」入力）の接続



この端子に接続された機器を再生するときは INPUT SELECTORをVIDEOにします。
このデジタル入力端子はVIDEO入力専用です。

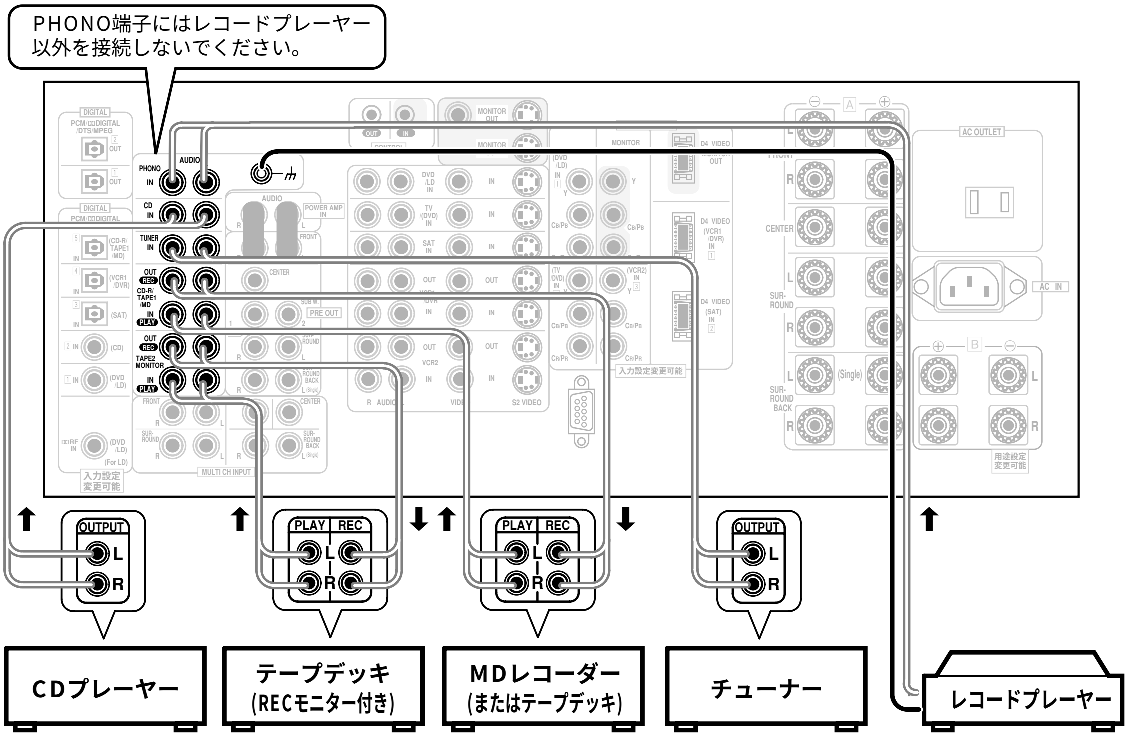
メモ

ポータブルＤＶＤを接続するときはミニプラグを使用します。

ホームシアター入門
各部名称
接続
音場補正
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

オーディオ機器のアナログ接続

デジタル出力のあるCDプレーヤーやMDレコーダーでは、さらに「デジタル接続」（➡ P.27 ）もできます。



TAPE2 MONITORに接続されたテープデッキを聞くときは54ページをご覧ください。

⏚端子はアナログプレーヤー等を接続した場合の雑音の低減を図るためのものです。

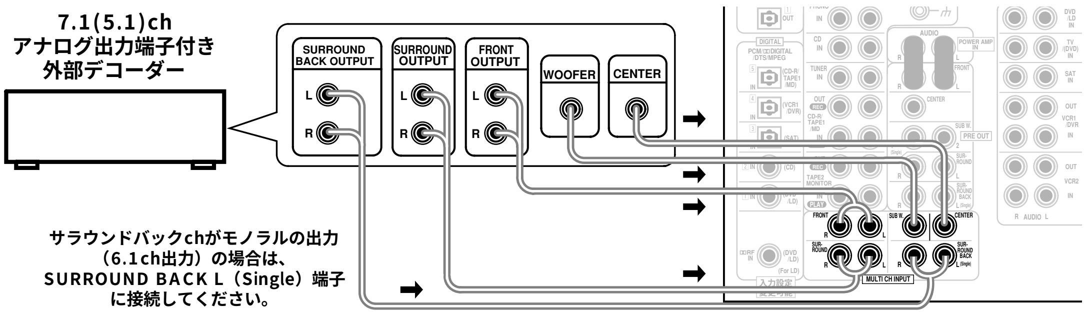
レコードプレーヤーにアース端子が付いている場合は、必ず⏚端子に接続してください。

メモ カセットデッキを設置する場所によっては、再生したときに雑音などが発生する場合があります。これはアンプのトランスによるリーケージフラックス（漏れ磁束）の影響によるものです。このようなときには、設置する場所を変えるか、アンプから離して設置してください。

注意 PHONO端子にはレコードプレーヤー以外接続しないでください。大音量を出力し、スピーカー等を破壊する恐れがあります。また、イコライザ内蔵レコードプレーヤーを接続する際はPHONO端子ではなくCD端子等をお使いください。

外部デコーダーのアナログ接続

マルチチャンネルアナログ出力端子（5.1chまたは7.1ch）を持つ外部デコーダーとの接続には、本機のMULTI CH INPUT端子を使用します。この端子に接続した機器の音声を再生するには、入力モードの切り換えが必要です。詳しくは「DVDオーディオ（マルチチャンネル入力）の再生」（➡ P.52 ）をご覧ください。

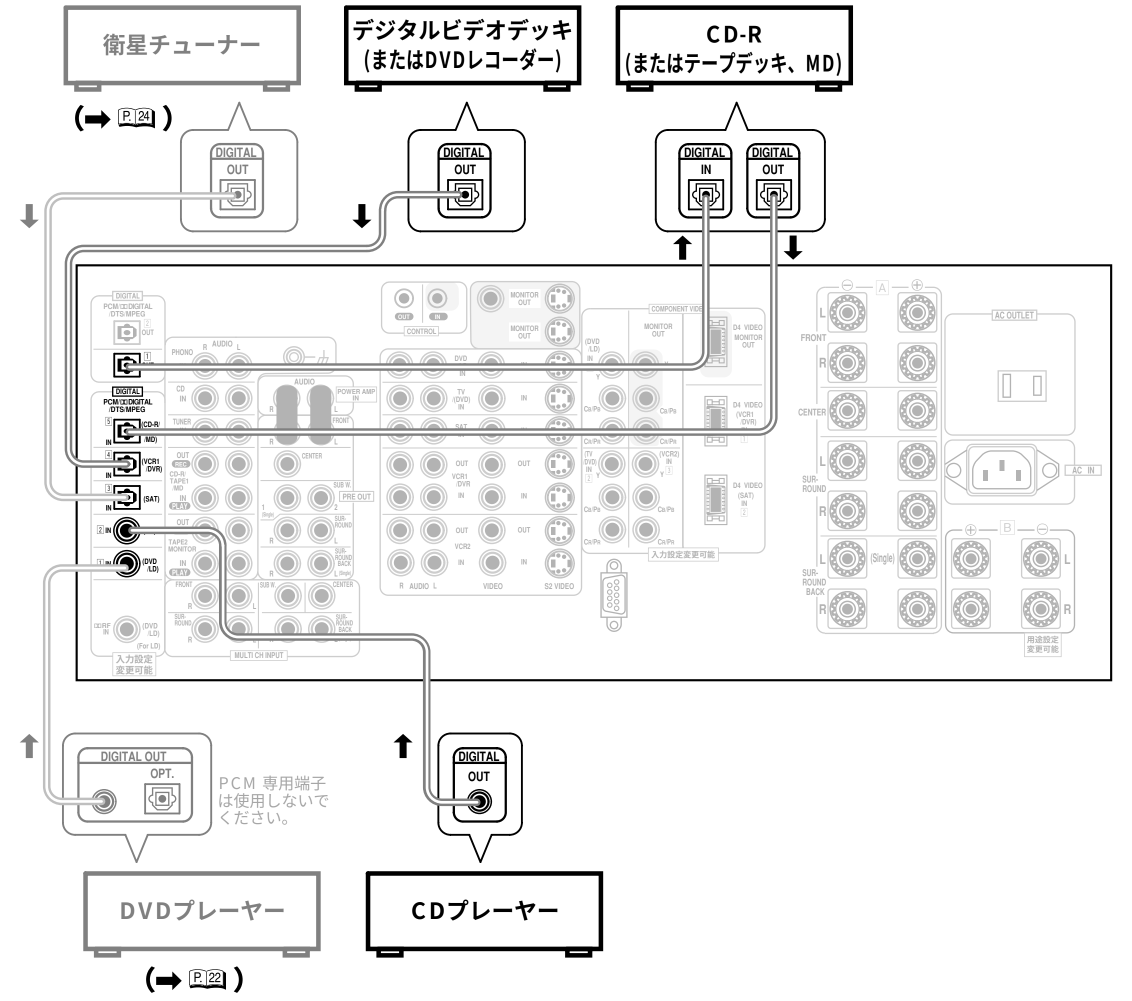


デジタル機器の接続

ドルビーデジタルやDTSソフトを再生するには、デジタル接続が必要です。接続は同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルで行います（1つの機器に対してどちらか一方のみで接続します）。

メモ

PCM/DDDIGITAL/DTS/MPEG OUT端子はデジタル入力された信号を出力しますので、デジタル録音をするには光デジタル入力を持つデジタル録音機器と接続してください。

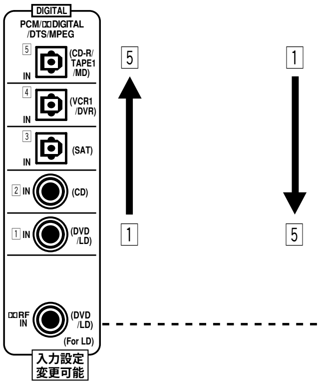


メモ

どのデジタル入力端子をどの機器に使用するかは自由に変更することができます。ただし、工場出荷時の設定（右図）と異なる接続を行う場合は「Digital-In Select（デジタル入力の設定）」（➡ P.74）にて設定の変更を行ってください。

- Digital-1～5には[TUNER]、[PHONO]、[VIDEO]を選ぶことができません。
- DDRF INには[TUNER]、[PHONO]、[VIDEO]、[CD]、[CD-R]を選ぶことができません。

リアパネル

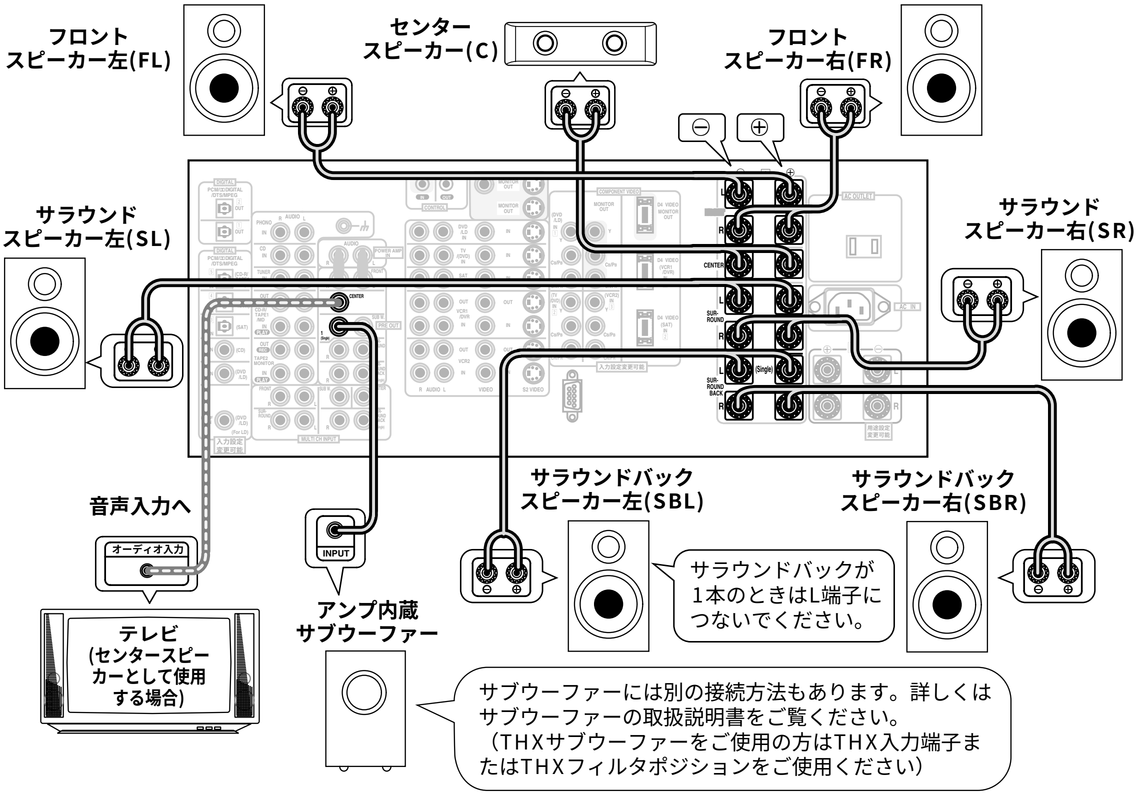


デジタル入力の設定

IN 1	DVD/LD
IN 2	CD
IN 3	SAT
IN 4	VCR1/DVR
IN 5	CD-R/TAPE/MD
DDRF IN	DVD/LD

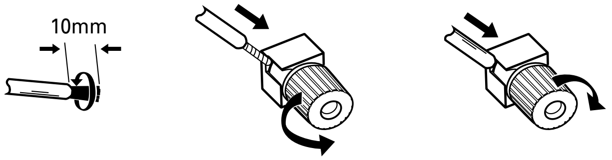
スピーカー端子A（メインスピーカーシステム）の接続

メインスピーカーシステムの接続にはスピーカー端子A を使います。本機でサラウンドを楽しむためには、7 本のスピーカーとサブウーファーを接続することをおすすめします。

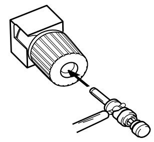


■**SPEAKER（スピーカー）端子**

① 線をねじる。　② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。　③ スピーカー端子を締めつける。



バナナプラグを接続することもできます（詳しくはプラグの説明書をお読みください。）



注意

- **公称インピーダンスが6Ω～16Ωのスピーカーをご使用ください。**
- スピーカーと本機の⊕および⊖端子どうしを正しく接続してください。
- スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじり、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がリアパネルに接触したり、⊕ および⊖ が接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

メモ

また、以下のようなときはスピーカー端子Bの接続も必要になります。

- メインのリスニングルーム以外の場所（キッチンなど）でも聴きたいとき。（この場合はステレオ再生になります）
- フロントスピーカーをBi-Ampで使いたいとき。

スピーカー端子Bの接続については「スピーカーシステムA/Bの使いこなし」（➡ P.84）をご覧ください。

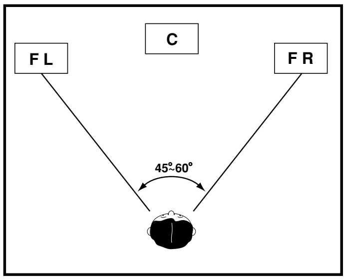
スピーカーの配置について

スピーカーの配置はマルチチャンネルサラウンド再生において重要な役割を果たします。
一般家庭における各スピーカーの配置の例は以下の通りです。以下の図を参考にしながらリスニングルームに合わせたスピーカーの配置をお試しください。(「THXの推奨するスピーカー配置」➡ P.82)

メモ スピーカーを床に直接設置すると、建物に直接振動が伝わり音質が変わってしまったりします。また、柔らかすぎる棚の上なども音質に影響がありますので、専用スタンドやコンクリートブロックなどの使用をおすすめします。

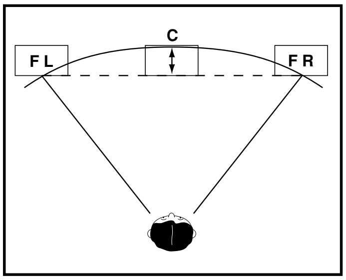
フロント ＆ センター

リスニングポイントからの角度



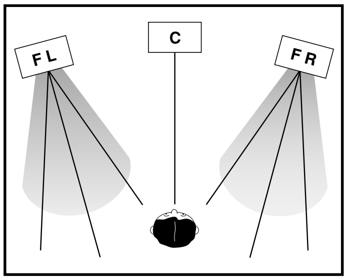
センター(C)を使用する場合は広めに、センター(C)を使用しない場合は狭く配置することをおすすめします。(上図の範囲)

奥行き



センター(C)はフロント(FL/FR)と同一面からフロントまでの距離を超えない位置に。フロントよりも前方だと音場感を損ねます。

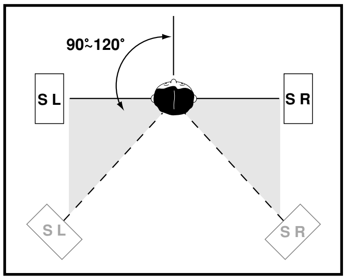
スピーカーの向き



中抜け感を防ぐために多少内振りに。但し、あまり内振りにしすぎると拡がり感などを損ねます。

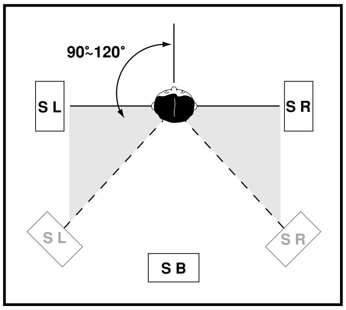
サラウンド ＆ サラウンドバック

サラウンドバック無しの場合

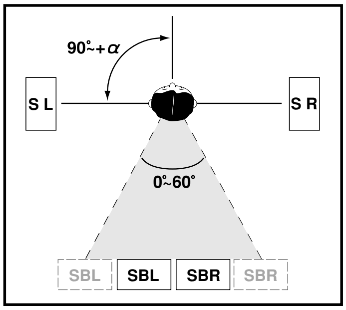


サラウンドスピーカー(SL/SR)は耳の位置より上方60cm～1mでやや下振りにします。DVDオーディオ用の配置と両立したいときは後方寄りに配置します。
SLとSRが真正面で向き合わないように多少左右に振ったりしてみてください。

サラウンドバック1本の場合



サラウンドバック2本の場合



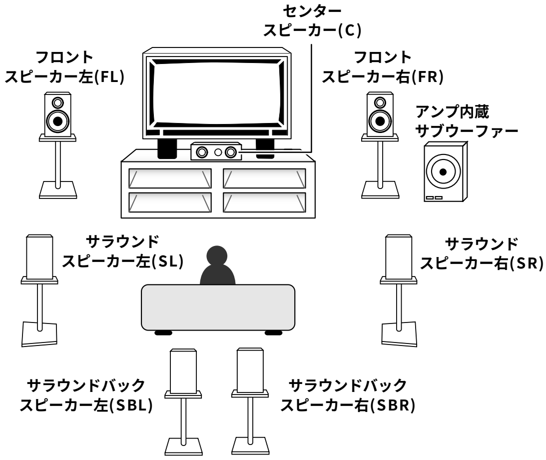
サラウンドバックスピーカー(SB/SBL/SBR)も耳の位置より上方60cm～1mでやや下振りにします。サラウンドバック2本の場合はSBLとSBRを隣接させリスニングポジションから等距離に設置(設定)するとHOME THXモードの効果が最大限発揮されます。(➡ P.82)
また、DVDオーディオ用の配置と両立したいときは右ページの「DVDオーディオ用スピーカー配置」をご覧ください。

メモ 6.1chの場合はHOME THXの新しいリスニングモード(THX Ultra2 CinemaとTHX MusicMode)は使用できません。

サブウーファー

特に制限はありませんが、他のスピーカーの低音出力との打ち消し合いが起こらないような場所に配置してください。また、壁の近くに設置すると建物との共振により低音が極端に増強される場合がありますのでご注意ください。

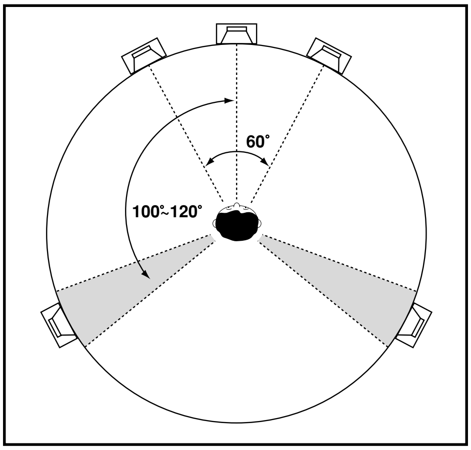
モニターTVとスピーカーの位置関係



フロントスピーカーはテレビから等距離になるようにします。センタースピーカーはモニターＴＶ画面に近い方がセリフなどが自然に聞こえます。但し、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のスピーカーを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。

注意　センタースピーカーをテレビの上側に置くときは、適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

ＤＶＤオーディオ用スピーカー配置

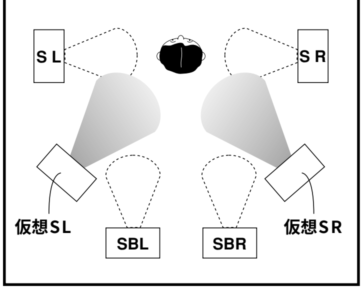


DVDオーディオ用理想スピーカー配置
（ITU-R BS.775-1方式）

国際規格制定団体ＩＴＵ-Ｒが定めた音響条件の勧告に基づく配置法です。ＤＶＤオーディオのマルチchソースのミキシング・スタジオでは、基本的にこの配置法を採用していますが、サラウンドスピーカーを１３５°の位置に想定して収録している場合もあります。

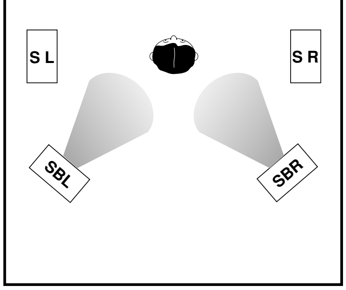
サラウンドバック２本の場合は「マルチチャンネル入力関連の設定」(➡ P.79)により左ページのスピーカー配置とＤＶＤオーディオ用スピーカー配置を両立することができます。下図を参照して最適なモードに設定してください。

[S→S＆SB]



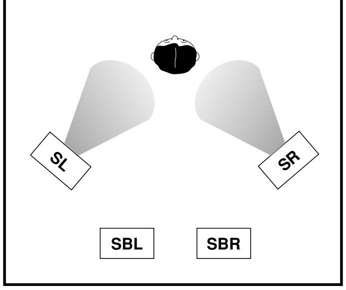
Ｓ（サラウンド）とＳＢ（サラウンドバック）から同じ音を出力することにより、その合成仮想音源をＤＶＤオーディオ再生時のサラウンドスピーカーとして使用します。

[S→SB]



ＳＢ（サラウンドバック）をＤＶＤオーディオ再生時のサラウンドスピーカーとして使用します。

[Through]



Ｓ（サラウンド）をＤＶＤオーディオ再生時のサラウンドスピーカーとして使用します。

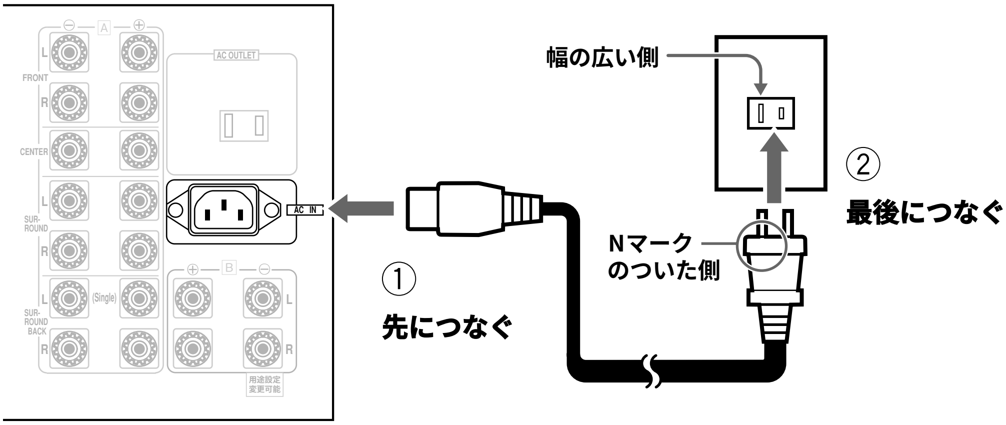
電源コードの接続

全ての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント（AC 100V）に接続します。

電源コードのつなぎかた

本機の電源コードは極性管理されています。音質向上のため、極性を合わせることをお薦めします。下図のように電源プラグのNマークのある側をコンセントの幅の広い方（アース側）に合わせて差し込んでください。

警告
- **本機の電源コードは着脱式になっていますが、付属しているコード（電流容量15A、機器側3Pプラグインソケット方式）以外の電源コードはご使用にならないでください。**
- 本機のAC INLETのアース端子は本機のシャーシに接続されていません。



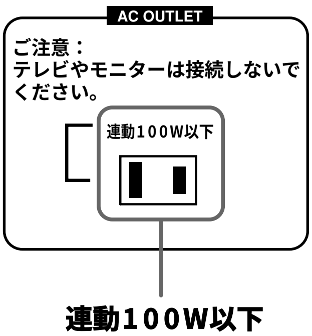
メモ
- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。

予備コンセント（AC OUTLET）の接続

[連動100W以下]

本機の電源スイッチのON/STANBY（OFF）の切換に連動して、接続した機器の電源をON/OFFできます。接続した機器の消費電力が100Wを超えないようにしてください。

注意
- 消費電力がパネルに表示されているワット数を超えるような電気器具（暖房、アイロン、テレビ、トースター、ドライヤーなど）は絶対に接続しないでください。機器の故障や火災の恐れがあります。
- テレビは接続しないでください。
  表示されている消費電力が本機のパネル表示値より少なくても、電源を入れたときに大きな電流が流れる場合があります。



音場補正（Surround Setup）について

従来のサラウンドに関する設定「スピーカーシステム（各スピーカーの有り/無し/低域再生能力）の設定」、「スピーカーまでの距離設定」、「スピーカー出力レベルの設定」に「視聴環境の周波数特性の補正」を加えた4つの設定（補正）を音場補正（Surround Setup）と呼びます。本機のオートセットアップ機能を使うと、これらの設定を自動で行うことができます。初めて音場補正を行う場合は、オートセットアップ機能による設定をおすすめします（➡ P.10 ～ P.13 ）。

音場補正の設定項目の詳細と効果

スピーカーシステムの設定

これはソースに含まれる音声成分の全てを再生するための基本設定です。この設定が正しく行われないと、サウンドトラックの特定チャンネルに収録された音声が再生されなかったり、低域成分が欠落してしまう、などの不具合が発生する場合があります。スピーカー接続の有り/無しや低域再生能力の大小、クロスオーバー周波数などを設定し、上記の問題を回避します。

スピーカーまでの距離の設定

実際には距離を設定することで各チャンネル間の遅延（ディレイ）を算出・補正しています。マルチチャンネル再生では特に重要で、音の定位感や移動感を正確に再現するために必要です。測定用のマイクを使用して実測した場合は、電気的な遅延現象（特にサブウーファーに多く見受けられる）をも測定します。よって、メジャー等を使った物理的な距離測定とは違う値が設定される場合もあります。

スピーカー出力レベルの設定

リスニングポジションでの各チャンネルの音量レベルを一定に合わせる設定です。「スピーカーまでの距離設定」と同様に、音の定位感や移動感を正確に再現することが目的です。この設定が正しく行われないと、いわゆる「バランスの悪い音」になってしまいます。これまでは聴感での設定が一般的でしたが、この方法では正確な設定は不可能です。プロのスタジオ・エンジニアは、ミキシング作業前に必ず専用の音圧測定器で測定を行い、バランスの微調整を施します。本機では、ＭＣＡＣＣによって、このプロレベルの精密な調整がだれでも簡単に出来るようになりました。

視聴環境の周波数特性の補正

「視聴環境の周波数特性の補正」とは、リスニングポイントでの視聴環境トータルの周波数特性（以下、Ｆ特）の補正を意味します。全チャンネルに同じ種類のスピーカーを使用しても、リスニングポイントでは音色が違って聞こえます。これは、設置場所・設置方法・壁面・内装、など様々な影響により実際のＦ特が違ってしまうためです。
本機の「視聴環境の周波数特性の補正」では、リスニングルーム固有のＦ特まで含めた補正をすることで、各チャンネルの音のつながりが飛躍的に向上させ、これまでにない実像感やリアルな移動感を再現します。スタジオや映画館などにおいてはこの補正は絶対に欠かせないものです。これがホームシアターとの大きな差でしたが、当社の研究により、一般家庭環境におけるＦ特の補正には最も有効であるエンベロープ補正方式を採用し、この差を埋めることを可能としました。
全チャンネルをフラット特性にする「ALL CH ADJ」と、フロントスピーカーの特性に合わせ込む「FRONT ALIGN」の2種類の補正カーブを用意しました。

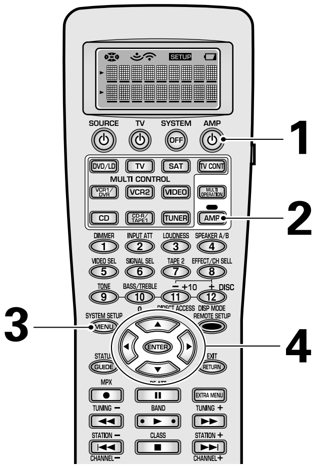
メモ

一度登録した設定内容は本機に記憶されるため、システムを使用するたびに設定し直す必要はありません。ただし、スピーカーシステムの構成や配置を変更したり、新しくスピーカーを追加したときには、設定し直す必要があります。

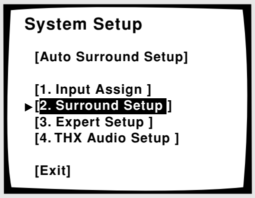
Surround Setup（音場補正）

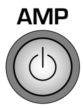
■ **操作を行う前には必ず本機の主電源ボタンをON(▬)にしてください。**

設定項目の選択



以下はOSD画面（テレビ画面）です

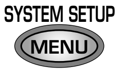
4


1 

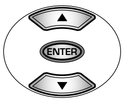
本機の電源を入れ、テレビの電源も入れる。
テレビは本機の出力映像が表示されるようにしておきます。

2 

リモコンをアンプ操作モードにする。

3 

システムセットアップにする。
テレビ画面にセットアップメニューが表示されます。

4 

「2.Surround Setup」を選んで決定する。
音場補正のメニュー画面になります。
「Exit」を選んで、決定するとシステムセットアップを終了します。

5 **35ページ～41ページに記載されている音場補正の設定項目の手順に従って設定を行う。**
この場合、各項目の手順2へお進みください。

メモ

- システムセットアップの全ての項目は1つの項目を終了すると、自動的に次の項目が選択されます。

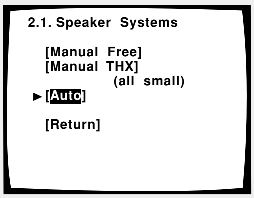
メモ

本機には「Surround Setup」の他に「Input Assign」、「Expert Setup」、「THX Audio Setup」がありますので、必要に応じて設定を行ってください。詳しくは「システムセットアップの設定項目一覧」（➡ P.73 ）をご覧ください。

「Surround Setup」の全ての項目を自動で設定する場合は「ホームシアター入門 step2」（➡ P.10 ）をご覧ください。

自動設定（[Auto]による設定）

「Surround Setup」の個別の項目を自動で設定することができます。次ページ以降をご覧になり、自動設定を行う項目については[Auto]を選択してください。その場合は以下の手順に従ってください。



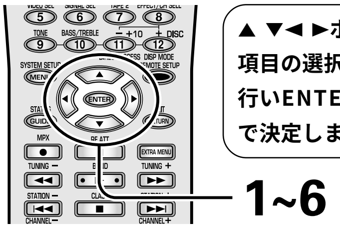
1. 自動測定の準備をする。
・付属のマイク内蔵リモコンを接続して、リスニングポジションに配置してください。
・測定中は静かにしてください。
・スピーカーとリスニングポジションの間にある障害物を取り除いてください。
・サブウーファーを接続している場合は電源を入れてボリュームを上げておいてください。

2. [Start]を選んでENTERボタンを押す。
・自動設定をキャンセルする場合は[Cancel]を選んでENTERボタンを押してください。

3. 測定が終了し、測定結果を確認後 [RETURN]を選んでENTERボタンを押す。
・Surround Setup（音場補正）のメニュー画面になります。

Check（音場補正の設定確認）

音場補正の各項目の設定内容を一通り確認することができます。



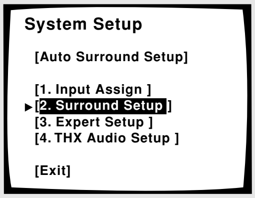
▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

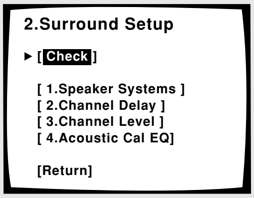
① AMP ➡ ② SYSTEM SETUP MENU

以下はOSD画面（テレビ画面）です

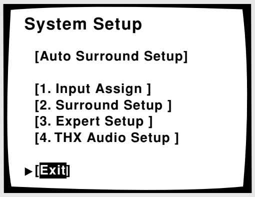
1



2



6



1　[2.Surround Setup]を選択して決定する。

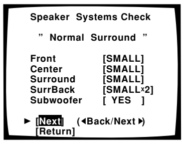
Surround Setup(音場補正)のメニュー画面になります。

2　[Check]を選択して決定する。

音場補正の設定確認になります。

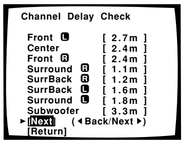
3　ENTERボタンを押して、以下の順に確認する。

音場補正の設定内容が、ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。



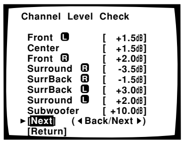
スピーカーシステム
➡ P.35

➡ ENTER



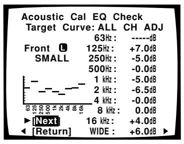
スピーカーまでの距離
➡ P.38

➡ ENTER



スピーカー出力レベル
➡ P.39

ENTER



視聴環境の周波数特性
➡ P.41

➡ ENTER

Acoustic Cal EQは2種類の補正カーブ（ALL CH ADJとFRONT ALIGN）について各チャンネルの設定内容が順次表示されます。

4　確認画面を終了するときは▲ ▼ ボタンで[Return]を選択して決定する。

Surround Setupメニュー画面に戻ります。

5　▲ ▼ ボタンで[Return]を選択して決定する。

6　▲ ▼ ボタンで[Exit]を選択して決定する。

メモ

- １つ前の画面や先の画面を表示したいときは ◄ または ► を押します。
- 途中で確認画面を終了するときは▲ ▼ ボタンで[Return]を選びENTERボタンを押します。

Speaker Systems（スピーカーシステムの設定）

この設定はソースに含まれる音声成分の全てを再生するために必要な基本設定です。

- **スピーカーシステム(Speaker System Select)の選択**

本機は、スピーカーシステム全体をどのように使用するかを選択できる「バーサタイルスピーカーコンフィグレーション」機能を搭載し、フロントスピーカーのバイアンプ接続にも対応しています。[Normal Surround]か[FRONT Bi-Amp(5.1)]の2つのスピーカーシステムから選択します。

[Normal Surround]：
一般的な設定です。スピーカー端子Ⓐだけを使用してメインのシステムを接続したときはこの設定を選びます(**バイワイヤ接続**もこの設定です)。スピーカー端子Ⓑに別エリアでのステレオ再生用システムを接続することも可能です。

[FRONT Bi-Amp(5.1)]：
バイワイヤ対応のフロントスピーカーに対し、**バイアンプ接続**をしたときはこの設定を選びます。ただし、最大5.1ch(サラウンドバックスピーカー無し)でしか設定できません。

- **スピーカーの有/無、低域再生能力の大／小の設定**

この設定をしないと音声成分の一部が欠落してしまう場合がありますので、お手持ちのスピーカーシステムや視聴環境などに合わせて正しく設定してください。サラウンドバックスピーカーは1本(×1)か2本(×2)かも設定します。

サブウーファー以外

[LARGE](大)：低音域を再生する十分な能力がある場合。
[SMALL](小)：そのチャンネルの低音域をフロントまたはサブウーファーから出力する場合。
[NO](無)：接続しない場合（NOに設定されたチャンネルの音声はほかのスピーカーから出力されます）

サブウーファー

[YES](有)：サブウーファーを接続する場合。
[PLUS]：LFE成分とフロント・センターchの低音域を、両方ともサブウーファーから出力する場合。ただし、アナログ入力ではリスニングモードによってサブウーファー出力が無い場合もあります。
（フロントスピーカーがSMALL設定の場合、この設定は選択できません。）
[NO](無)：サブウーファーを接続しない場合
（フロントスピーカーがSMALL設定の場合、この設定は選択できません。）

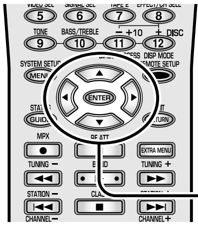
以下の組み合わせが設定可能です。

フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	サブウーファー
SMALL	**SMALL** / NO	**SMALL**	**SMALL** (×1,×2) / NO	**YES** 全ての低域成分を再生する場合
		NO	NO	
LARGE	LARGE / SMALL / NO	LARGE	LARGE (×1,×2) / SMALL (×1,×2) / NO	*YES / PLUS / NO * 5.1ch収録のLFE成分と、SMALL設定されたチャンネルの低域成分を再生する場合
		SMALL	SMALL（×1,×2）/NO	
		NO	NO	

太字：工場出荷時の設定

- **クロスオーバー周波数(Crossover)の設定**

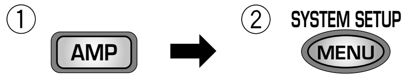
SMALL(小)に設定したチャンネルの何Hz以下の低音域を他のスピーカーで再生するのか、またLFE信号の何Hz以下の低音域を再生するのかを設定します。



▲▼◄►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

1~10

ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



以下はOSD画面(テレビ画面)です

1

```
System Setup
 [Auto Surround Setup]
 [1. Input Assign ]
▶[2. Surround Setup ]
 [3. Expert Setup ]
 [4. THX Audio Setup ]
 [Exit]
```

2

```
2.Surround Setup
 [ Check ]
▶[ 1.Speaker Systems ]
 [ 2.Channel Delay ]
 [ 3.Channel Level ]
 [ 4.Acoustic Cal EQ]
 [Return]
```

3

```
2.1. Speaker Systems
▶[Manual Free]
 [Manual THX]
        (all small)
 [Auto]
 [Return]
```

4

```
2.1. Speaker Systems
         Manual Free
 Speaker System Select
◄[ Normal Surround ]►
 (▼Next)
```

5
6

```
2.1. Speaker Systems
         Manual Free
 " Normal Surround "
▶Front        ◄[LARGE]►
 Center        [LARGE]
 Surround      [LARGE]
 SurrBack      [LARGE×2]
 Subwoofer     [ YES  ]
 (▼NEXT)
```

1 [2.Surround Setup」を選択して決定する。

Surround Setup(音場補正)のメニュー画面になります。

2 [1.Speaker Systems]を選択して決定する。

スピーカーシステムの設定になります。

3 設定方法を選んで決定する。

[Manual Free]:手動ですべてを設定します。この場合は手順4へお進みください。

[Manual THX]:THXの推奨によりすべてsmallで設定されるので、SurrBackの接続した本数のみを設定します。この場合は手順5へお進みください。

[Auto]:マイクを用いた測定により自動設定します。この場合は[Normal Surround]に切り換えてから[Next]を選んで決定し「自動設定」(➡ P.33)をご覧ください。

4 設定するスピーカーシステムを◄ ►ボタンで「Normal Surround」を選択し▼ボタンで手順5に進みます。

5 設定するスピーカーを選択する。

手順3で[Manual THX]を選んだ場合、SurrBack以外は選択できません。

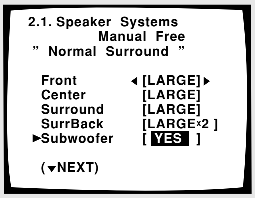
6 設定するスピーカーを◄ ►ボタンで[LARGE]、[SMALL]、[YES]、[NO]、[PLUS]のいずれかに設定する。

設定するスピーカーによって選べる内容が異なります。設定内容については前ページの説明をご覧ください。

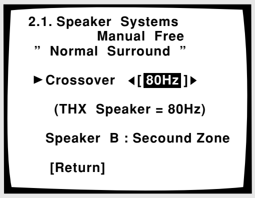
7 それぞれのスピーカーに手順5〜6を繰り返す。

以下はOSD画面（テレビ画面）です

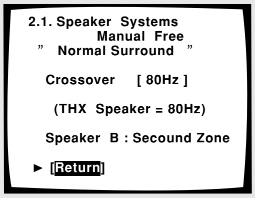
8



9



10



[Manual THX]を選んだ場合は画面が異なります。

8 Subwooferの設定が済んだら▼ボタンで手順9へ進む。

FrontをSMALLで設定しているときはSubwooferはYESで固定されるので、この場合はSurrBackの設定が済んだら▼ボタンで手順9へ進んでください。
手順3で[Manual THX]を選んだ場合、Crossoverは[80Hz]で固定されますので、SurrBackの設定が済んだら手順10へ進みます。

9 Crossoverを◄ ►ボタンで[50Hz]、[80Hz]、[100Hz]、[150Hz]、[200Hz]のいずれかに設定する。

スピーカーBの表示は、手順4で設定するスピーカーシステムに合わせて自動で切り換わります。

10 [Return]を選んで決定する。

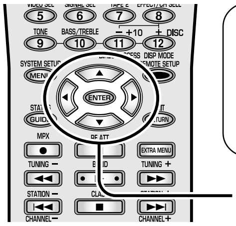
スピーカーシステムの設定を終了します。
次ページの「Channel Delay」に進みます。この場合、38ページ手順2へ進みます。

メモ

- [AUTO]で測定を行うときは、エアコンやファンヒーターなど、低周波騒音が出る機器の電源を一時的にOFFにしてから測定を行ってください。
- サブウーファーをPLUSにした場合、サブウーファーの低域成分とフロントの低域成分の打ち消しが発生し、十分な低音の効果が発揮されないことがあります。このような場合は、まずスピーカーの設置場所や向きを変えてみてください。それでも解消されない場合は実際に音を出しながらサブウーファーをYESにしたり、フロントスピーカーを小（SMALL）にしてみて比較し、最適な設定にしてください。
- THX Ultra2規格準拠のサブウーファーなど周波数特性が超低域まで伸びているスピーカーを使用される方は「Ultra2サブウーファーの設定」（➡ P.81）もご覧ください。
- サラウンドバックchを無し（NO）に設定すると、再生チャンネル数（➡ P.44）は自動的に「5.1ch」に固定されます。一度無し（NO）に設定すると、有り（LARGEまたはSMALL）にしても「5.1ch」のままなので、サラウンドバックスピーカーから音を出すためには「再生チャンネル数の切り換え」が必要になります。

Channel Delay（スピーカーまでの距離の設定）

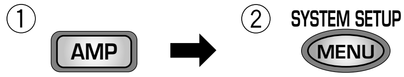
リスニングポジション（視聴位置）からスピーカーまでの距離を設定することにより、各チャンネルの再生にディレイタイムが付加され、リスニングポジションで適切なサラウンド効果を得ることができます。マニュアルで設定する場合は、それぞれのスピーカーから視聴位置までの距離を測り、ここで指定してください。本機は、指定された距離から自動的にディレイタイムを算出します。



▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

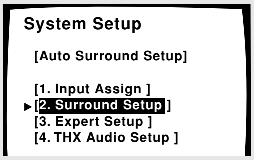
1~7

ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

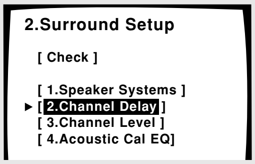


以下はOSD画面（テレビ画面）です

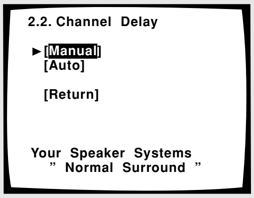
1



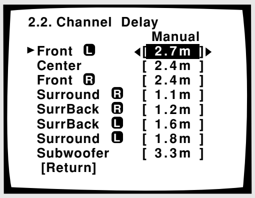
2



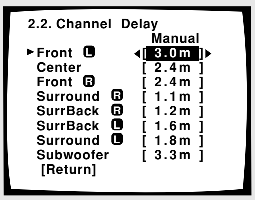
3



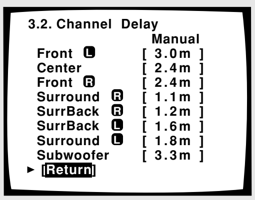
4



5



7



1 **[2.Surround Setup]を選んで決定する。**
Surround Setup（音場補正）のメニュー画面になります。

2 **[2.Channel Delay]を選んで決定する。**
スピーカーまでの距離の設定になります。

3 **設定方法を選んで決定する。**
[Manual]：手動ですべてを設定します。この場合は手順4へお進みください。
[Auto]：マイクを用いた測定により自動設定します。詳しくは「自動設定」（➡ P.33）をご覧ください。

4 **設定するスピーカーを選択する。**

5 **設定するスピーカーまでの距離を◄ ►ボタンで設定する。**
0.1m〜9mの範囲内において0.1m間隔で設定できます。

6 **それぞれのスピーカーに手順4〜5を繰り返す。**

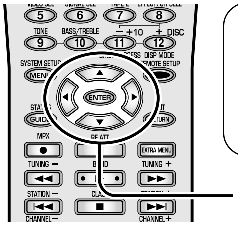
7 **[Return]を選んで決定する。**
スピーカー まで距離の設定を終了します。
次ページの「Channel Level」に進みます。この場合、39ページ手順2へ進みます。

メモ

サラウンドバックスピーカーを2本接続した場合は、設置および設定をリスニングポジションから等距離にしますと、HOME THXモードの効果が最大限に発揮されます。

Channel Level（スピーカー出力レベルの設定）

リスニングポジション（視聴位置）での各チャンネルの音量レベルが一定に揃うように調整します。3 つの設定方法のうち、[Manual]、[Semi Auto]については実際に出力されるテストトーンを耳で確かめながら手動で各スピーカーの出力レベルを調整します。



▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

以下はOSD画面（テレビ画面）です

1

```
System Setup
  [Auto Surround Setup]

  [1. Input Assign ]
▶ [2. Surround Setup]
  [3. Expert Setup ]
  [4. THX Audio Setup ]

  [Exit]
```

2

```
2.Surround Setup
  [ Check ]

  [ 1.Speaker Systems ]
  [ 2.Channel Delay ]
▶ [ 3.Channel Level ]
  [ 4.Acoustic Cal EQ]

  [Return]
```

3

```
2.3. Channel  Level

 ▶ [Manual]
   [Semi  Auto]
   [Auto]

   [Return]

 Your  Speaker  Systems
  " Normal  Surround "
```

4 5

```
2.3. Channel  Level
                     Manual
Front  L           ◄ [ +1. 5dB] ►
Center               [ +1. 5dB]
Front  R             [ +2. 0dB]
Surround  R          [  -3. 5dB]
SurrBack  R          [  -1. 5dB]
SurrBack  L          [ +3. 0dB]
Surround  L          [ +2. 0dB]
Subwoofer            [+10. 0dB]
 [Return]
```

7

```
2.3. Channel  Level
                     Manual
Front  L             [ +1. 5dB]
Center               [ +1. 5dB]
Front  R             [ +2. 0dB]
Surround  R          [  -3. 5dB]
SurrBack  R          [  -1. 5dB]
SurrBack  L          [ +3. 0dB]
Surround  L          [ +2. 0dB]
Subwoofer            [+10. 0dB]
 [Return]
```

ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① AMP ➡ ② SYSTEM SETUP MENU

1 **[2.Surround Setup]を選んで決定する。**
Surround Setup（音場補正）のメニュー画面になります。

2 **[3.Channel Level]を選んで決定する。**
スピーカー出力レベルの設定になります。

3 **設定方法を選んで決定する。**
[Manual]：テストトーンを再生するスピーカーを手動で切り換えて調整します。この場合は手順4 へお進みください。
[Semi Auto]：テストトーンを再生するスピーカーが自動で切り換わります。この場合は次ページの「[Semi Auto]で調整する」の手順3へお進みください。
[Auto]：マイクを用いた測定により自動設定します。詳しくは「自動設定」（➡ P.33）をご覧ください。

～ご注意～
テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に0 d B になり、数秒後にテストトーンが再生されます。

4 **調整するスピーカーを選択する。**

5 **◄ ►ボタンでレベルを調整する。**
各チャンネルのテストトーンが同じ音量に聴こえるように調整してください。

～ご注意～
サブウーファーからのテストトーンは周波数が低いため実際のレベルよりも小さく聞こえる場合があります。

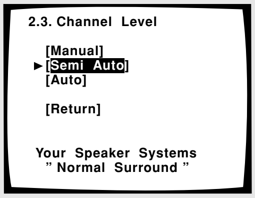
6 **それぞれのチャンネルに手順4～5を繰り返す。**

7 **[Return]を選んで決定する。**
スピーカー出力レベルの設定を終了します。
次ページの「Acoustic Cal EQ」に進みます。この場合、41ページ手順2へ進みます。

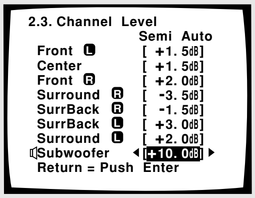
[Semi Auto]で調整する

以下はOSD画面(テレビ画面)です

3



4



3　[Semi Auto]を選んで決定する。

テストトーンの再生されるスピーカー(調整するスピーカー)が2、3秒ごとに自動で切り換わります。

〜ご注意〜

テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に0 d B になり、数秒後にテストトーンが再生されます。

4　調整したいスピーカーからテストトーンが出力されているときに◀ ▶ボタンを押してレベルを調整する。

−10〜+10dBの範囲で調整することができます。
各チャンネルのテストトーンが同じ音量に聴こえるように調整してください。

〜ご注意〜

サブウーファーからのテストトーンは周波数が低いため実際のレベルよりも小さく聞こえる場合があります。

5　ENTERボタンを押して設定を終了する。

スピーカー出力レベルの設定を終了します。
次ページの「Acoustic Cal EQ」に進みます。この場合、41ページ手順2へ進みます。

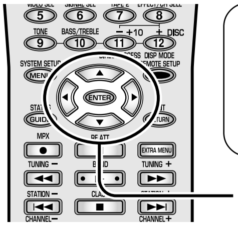
メモ

- 音圧計をお持ちの場合は、音圧レベルをCウェイト/スローモードで75dB SPLに調整してください。
- リモコンやフロントパネルのEFFECT/CH SEL.ボタン、+/−ボタンでも各スピーカーのレベルを設定できます(テストトーンは出ませんのでソースを再生して調整を行ってください)。この方法では、リスニングモードの3つのグループ(STANDARD/HOME THX、ADVANCED CINEMA/ADVANCED CONCERT、STEREO)とマルチチャンネル入力モードで別々に設定できますが、オートセットアップや本ページに記載された方法で設定を行うと、すべてのモードがその値で統一されます。

Acoustic Cal EQ（視聴環境の周波数特性の補正）

視聴環境のトータルな周波数特性を補正（均一化）します。補正カーブには[ALL CH ADJ]と[FRONT ALIGN]の2種類があります。それぞれの内容については「アコースティックキャリブレーションEQのON/OFF」（➡ P.49）をご覧ください。この項目はマイク内蔵リモコンを用いた測定により、2 種類の補正カーブをすべて自動で調整します。

メモ 各周波数帯と音声の分布については「各種音声の周波数分布について」（➡ P.92）をご覧ください。



▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

1~6

ここから読む場合は、リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① AMP ➡ ② SYSTEM SETUP MENU

1 [2.Surround Setup]を選んで決定する。
Surround Setup（音場補正）のメニュー画面になります。

2 [4.Acoustic Cal EQ]を選んで決定する。
視聴環境の周波数特性の補正になります。

3 [ALL ADJ & FRONT ALIGN]を選んで決定する。
「自動設定」（➡ P.33）をご覧ください。

4 自動設定終了後に[Return]を選んで決定する。
視聴環境の周波数特性の補正を終了します。

5 もう一度[Return]を選んで決定する。
System Setupのメニュー画面になります。

6 [Exit]を選んで決定する。
System Setupが終了して、ボリュームが元の位置に戻ります。

以下はOSD画面（テレビ画面）です

1

System Setup
[Auto Surround Setup]
[1. Input Assign]
► [2. Surround Setup]
[3. Expert Setup]
[4. THX Audio Setup]
[Exit]

2

2.Surround Setup
[Check]
[1.Speaker Systems]
[2.Channel Delay]
[3.Channel Level]
► [4.Acoustic Cal EQ]
[Return]

3

2.4. Acoustic Cal EQ
Auto
► [ALL ADJ & FRONT ALIGN]
[Return]
Your Speaker Systems
" Normal Surround "

5

2.Surround Setup
[Check]
[1.Speaker Systems]
[2.Channel Delay]
[3.Channel Level]
[4.Acoustic Cal EQ]
► [Return]

6

System Setup
[Auto Surround Setup]
[1. Input Assign]
[2. Surround Setup]
[3. Expert Setup]
[4. THX Audio Setup]
► [Exit]

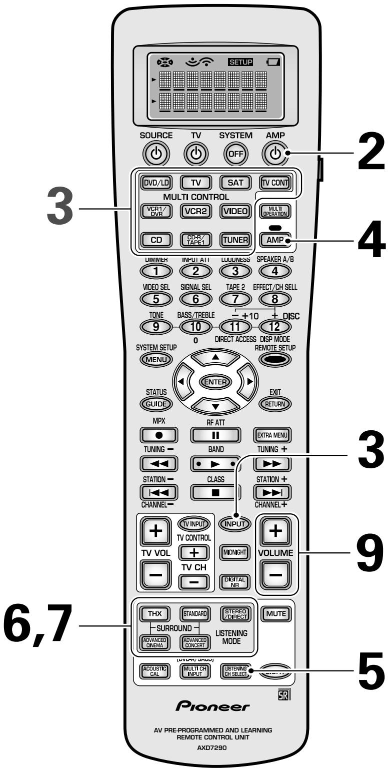
メモ

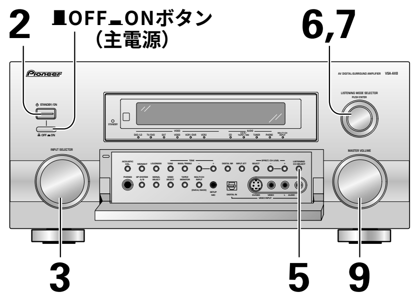
- スピーカー設定でSMALLに設定されたチャンネルは、63Hzの調整が行われません。
- 設定後、アコースティックキャリブレーションEQはALL CH ADJモードで自動的にONになります。（P.49）

ホームシアター入門
各部名称
接続
音場補正
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

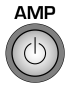
■ 操作を行う前には必ず本機の主電源ボタンをON(▬)にしてください。

基本再生





1 再生する機器の電源を入れる。

2 

本機の電源を入れる。

3 

再生する機器を選ぶ。

ボタンを押すたびに(本体の場合は、INPUT SELECTORを右に回すと)入力が順次に切り換わります。リモコンの他機器操作ボタンで直接選択することもできます。
入力信号設定はAUTOに設定されています。
必要に応じて入力信号の種類を選びます。
「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(➡ P.43)

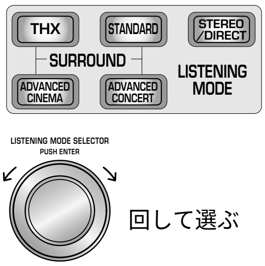
4 

リモコンをアンプ操作モードにする。

5 

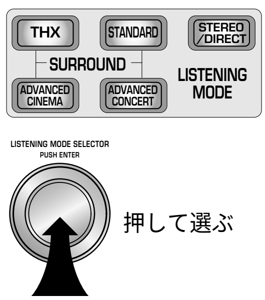
再生したいチャンネル数を選ぶ。

詳しくは「再生チャンネル数の切り換え」(➡ P.44)をご覧ください。

6 

好みのリスニングモードのタイプを選ぶ。

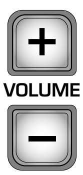
本体はLISTENING MODE SELECTORを回すとリスニングモードが順次に切り換わります。ディスプレイの上段に各タイプの名称が表示されます。

7 

手順6で選んだタイプのボタン(本体はLISTENING MODE SELECTOR)を押して好みのリスニングモードを選ぶ。

再生しているソースや選択されたチャンネル数などに応じて更にモードが選択できます。
ディスプレイの下段にモードの名称が表示されます。
詳しくは「リスニングモードの種類と効果」(➡ P.45)をご覧ください。

8 手順1の再生機器の再生を開始する。

9 

音量を調節する。

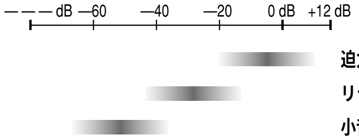
メモ

- 前面の入力端子に接続した機器を選択するには入力を「VIDEO」にします。
- 本機は、ドルビーデジタル、DTS、PCM(サンプリング周波数 fs:32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHzおよび96kHz)、MPEG-2 AACのデジタル信号に対応しています。これ以外のデジタル信号は再生できないことがありますので、その場合はアナログ接続してANALOGを選択してください。詳しくは「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(➡ P.43)をご覧ください。

音量について

再生するソフトや使用するスピーカーによって多少違いますが、表示と音量はおおよそ右図のようになります。

音量レベル表示



迫力ある音量で映画などを楽しむとき
リラックスした雰囲気で音楽を聴くとき
小音量できくとき

96kHz/24ビットフォーマットディスクの再生について

本機では、DTS 96/24やPCM96kHz(24ビット/20ビット/16ビット)フォーマットのソフトを高音質(すべて96kHzで処理)で再生することができます。ただし、「便利な音声再生用機能」(➡ P.50)と「Re-EQフィルターの設定」(➡ P.83)はOFFにしてください。

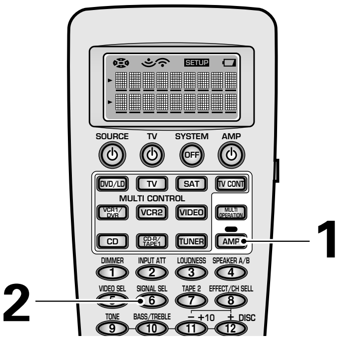
DTS 96/24 5.1chソフト：センターとサラウンドスピーカーを接続し、STANDARDモード(再生チャンネル数はAUTOまたは5.1)を選択してください。

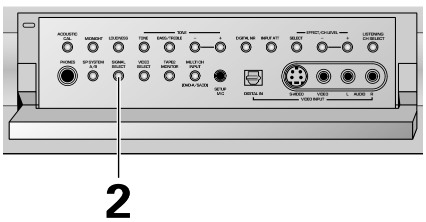
96kHz 2chソフト(DTSまたはPCM)：STEREOモードを選択してください。

- ディスプレイに96kHzと表示されていないときは48kHzで処理が行われています。
- DTS 96/24フォーマットはお手持ちのDVDプレーヤーが96kHzデジタル出力に対応していなくても、DTS対応であれば本機を通して再生することができます。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

ANALOG/DIGITAL信号の切り換え

本機では各入力についてアナログとデジタルの入力信号を切り換えることができます。





1 AMP **リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 SIGNAL SEL 6 **再生したい入力信号を選択する。**

SIGNAL SELECTボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

→ AUTO → ANALOG → DIGITAL → ◻◻RF → (AUTOへ戻る)

AUTOにしたときは、◻◻ RF→DIGITAL→ANALOGの優先順位で自動的に入力信号を選択します。(◻◻ RFは◻◻ RF端子が割り当てられている入力ファンクションを選んでいるときのみ選択することができます)

- SIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択した状態で DTS対応のLDを再生すると、 DTSの原信号がそのまま再生されるため、ノイズが発生します。入力信号は必ず、DIGITALを選択してください。
- DVDプレーヤーの機種によっては、再生できるデジタル信号に制限があります(DTS信号を出力しないなど)。詳しくは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

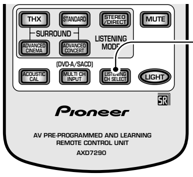
メモ

- すべてのデジタル入力端子がいずれも割り当てられていない機器については、SIGNAL SELECTは、ANALOGに固定されています。
- カラオケ機器のマイク音声、およびアナログオーディオのみ収録されているLDの音声はデジタル出力からは出力されません。このような音声を再生するには必ずANALOGを選択してください。

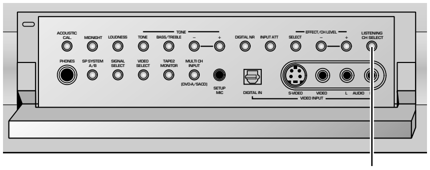
再生チャンネル数の切り換え

本機では再生するチャンネル数を以下の3つの中から選ぶことができます。設定内容は以下の通りです。

- 5.1ch： 最大5.1chでの再生を行います。（サラウンドバックスピーカーから音は出ません）
- 7.1ch： 最大7.1chでの再生を行います。5.1chソース再生時は、選べるリスニングモードの数が変わります（➡ P.45 P.46）。
- AUTO： 入力信号の種類、サラウンドバックスピーカーの接続、選択しているリスニングモードのタイプに合わせて各モードに最適なチャンネル数で再生します。



1



1

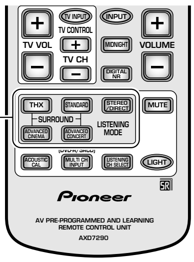
1  **LISTENING CH SELECTボタンを押して再生チャンネル数を選ぶ。**

メモ

- 再生チャンネル数の選択によってリスニングモードの選択肢が変わります（➡ P.45 P.46）。
- 「スピーカーシステムの設定」（➡ P.35）でサラウンドバックスピーカーが無しで設定されているときは、「5.1ch」に固定され、「7.1ch」と「AUTO」は選択することができません。
- 再生チャンネル数を設定した後で「スピーカーシステムの設定」（➡ P.35）を変更すると、再生チャンネル数が自動で切り換わることがありますのでご確認ください。
- 再生チャンネル数は入力ファンクションごとに設定されます。
- ステレオモードを選んでいるときは切り換えができません。

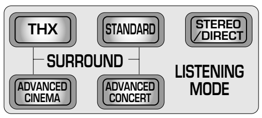
リスニングモードの選択

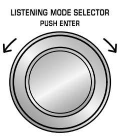
1,2



1,2



1 

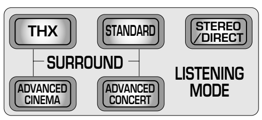


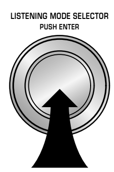
回して選ぶ

好みのリスニングモードのタイプを選ぶ。

本体はLISTENING MODE SELECTORを回すとリスニングモードのタイプが順次に切り換わります。

ディスプレイの上段に各タイプの名称が表示されます。

2 



押して選ぶ

手順1 で選んだタイプのボタン（本体はLISTENING MODE SELECTOR）を押して好みのリスニングモードを選ぶ。

ソースの種類や選択された再生チャンネル数などに応じて、モードの選択肢が変わる場合があります。

ディスプレイの下段にモードの名称が表示されます。

詳しくは「リスニングモードの種類と効果」（➡ P.45）をご覧ください。

リスニングモードの種類と効果

本機のリスニングモードは5つのタイプに分かれています。モードの切換方法については、「リスニングモードの選択」、「再生チャンネル数の切り換え」(➡ P.44)をご覧ください。
本書では特に注記の無い限り、「6.1再生検出信号」の記録されたソースも、5.1chソースとして扱います。

STANDARDモード

ソフトに忠実なデコード(2chソースはマトリクス・サラウンド・デコード)をするモードですが、入力信号の種類や再生チャンネル数によって複数のモードの中から選択できる場合もあります(下記ケース1 、2)。その他のケースでは、自動的に最適な処理が選択されます。

ケース1： 2chソース(またはドルビーサラウンドソース)の場合

サラウンド化するためのマトリクス・デコード方式を以下の5つの中から選択することができます。
ディスプレイにはデコード名称が表示されます。
各モードの技術詳細は「技術資料」(➡ P.89 〜 P.91)をご覧ください。

ꝹPRO LOGIC II MOVIE
5.1ch化します。映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンド・エンコード作品をこのモードで視聴するとより効果的です。サラウンドｃｈへのダイアローグの漏れ込み(クロストーク)が少なく、ドルビーデジタル5.1に迫るセパレーションや移動感などが得られます。

ꝹPRO LOGIC II MUSIC
5.1ch化します。音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース(CDなど)を再生するときに効果的です。サラウンドｃｈは定位よりも包囲感を重視しています。

ꝹPRO LOGIC
4.1ch化します。ビデオテープやTV放送など、ソースのクオリティを問わずご使用いただけます。

Neo:6 CINEMA
6.1ch化します。映画再生に適したモードで、2chを6.1chソースと同じような雰囲気でお楽しみいただけます。これはセパレーション特性を重視したデコードによるものです。

Neo:6 MUSIC
6.1ch化します。フロントからは原音をそのまま再生するため音質の変化が無く、音楽再生に適したモードといえます。また、センターとサラウンド、サラウンドバックｃｈ から出力される音声が音場にナチュラルな拡がり感を加えます。

ケース2： 5.1chソースで再生チャンネル数を7.1chに設定している場合

7.1ｃh化するための処理方式を以下の2 つの中から選択することができます。(このときディスプレイには、デコード名称に加え、+SXまたは+TXと表示されます)

SX （Studio eXtention)
映画製作スタジオや映画館で5.1ch再生を行うときは、サラウンドバックの位置にあるスピーカーからもサラウンドchの音声が出力されます。SX方式はこの音場を再現するためのモードです。

TX （Technical eXtention)
ソースに忠実なデコード処理を行い、通常の5.1chソースについてはサラウンドバックch成分を生成します。最大7.1ch再生となり、定位感、移動感、臨場感がより向上します。再生されるソースの種類によってはディスプレイが変化する場合があります。

再生チャンネル数をAUTOに設定している場合

「6.1ch再生検出信号」の記録されたソースを再生している場合と、Neo:6処理を選択している場合は最大7.1ch再生となり、それ以外では最大5.1ch再生となります。

HOME THXモード

HOME THX とは、映画のサウンドトラックを一般家庭でもリアルに再現するためにルーカスフィルム社が開発したシステムで、映画館と家庭のリスニングルームの差異を補完する様々な技術が駆使されています。 あらゆるソフトに効果的ですが、ドルビーデジタル、DTS収録のソフトの再生には特に威力を発揮します。
忠実なデコード(2chソースはマトリクス・サラウンド・デコード)処理の後、THX処理を加えます。入力信号の種類や再生チャンネル数によって複数のモードの中から選択できる場合もあります(下記ケース1、2)。

その他のケースでは、自動的に最適な処理が選択されます。

ディスプレイにはTHX処理名称が表示されます。

ケース1： 2chソース(またはドルビーサラウンドソース)の場合

サラウンド化するためのマトリクス・デコード方式を以下の3つの中から選択することができます。(各モードの詳細説明はSTANDARDモードをご覧ください)
いずれのモードもディスプレイの表示は数秒後にTHX処理名称(**THX CINEMA**)に切り換わります。

DD PRO LOGIC II MOVIE

DD PRO LOGIC

Neo:6 CINEMA

ケース2： 5.1chソースで再生チャンネル数を7.1chに設定している場合

7.1ch化するためのTHX処理方式を以下の4つの中から選択することができます。

THX CINEMA
あらゆるソフトの再生に適します。

THX SURROUND EX
ドルビー研究所とルーカスフィルム社とで共同開発した再生フォーマットです。SURROUND EX マトリックス処理により、サラウンドch成分からサラウンドバックchを生成します。
SURROUND EX方式にて劇場公開された映画ソフトに最適です。ただし、DTSソースはESデコード処理によりサラウンドバックchを生成するため、ディスプレイには「DTS-ES + THX」と表示されます。

THX ULTRA2 CINEMA (THX ULTRA2)
従来よりある5.1chの映画ソフトに最適な、新しい再生フォーマットです。5.1ch再生が標準だった頃のソースに SURROUND EX マトリクス処理を行なってしまうと、かえって後方・側方の音場感が狭く感じてしまうものもありますが、このモードでは定位感と広がり感を同時に実現させ、SURROUND EX 公開映画にも匹敵する音場を生み出します。
(サラウンドバックスピーカー１本設定の場合、このモードは選択できません。)

THX MUSICMODE
ＤＶＤなどで発売されている５．１ｃｈの音楽ソフトに適した、新しい再生フォーマットです。音楽ソースは映画ソースと異なり、劇場公開されることを前提にしていません。 よってミックスダウンの段階より想定される再生環境が異なります。映画再生に適したスピーカー配置でも音楽ソースの音場効果が最大限再現されるよう、あらゆるノウハウが組込まれています。
(サラウンドバックスピーカー１本設定の場合、このモードは選択できません。)

再生チャンネル数をＡＵＴＯに設定している場合

「6.1ch再生検出信号」が記録されているソースの場合 .... 自動的にTHX SURROUND EXモードを選択
5.1chソースでサラウンドバックスピーカーが2本の場合......... 自動的にTHX ULTRA2 CINEMAモードを選択
その他の場合 .... 自動的にTHX CINEMAモードを選択

STEREO（ステレオ）モード

左右のフロントスピーカーからステレオ音声（2ch）で再生するモードです。
ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースは2chにダウンミックスして再生します。

- **STEREO**
  音場補正（Surround Setup）での各設定を反映し、「便利な音声再生用機能」（➡ P.50）の効果を加えてステレオ再生することができます。
- **DIRECT**
  2chソースを原音に忠実な高品位ステレオ再生します。「スピーカーシステムの設定」（➡ P.35）と「スピーカー出力レベルの設定」（➡ P.39）における設定は反映されます。
  ただし、サブウーファーがPLUS設定でもアナログ入力の場合はサブウーファー出力はありません。

メモ

- 「DIRECT」を選択しているときに、「アコースティックキャリブレーションEQ」（➡ P.49）や「便利な音声再生用機能」（➡ P.50）をONにすると、自動的に「STEREO」に切り換わります。

ADVANCED CINEMAモード

あらゆる映画ソースの再生に適したオリジナルのサラウンドモードです。以下6つの中からお好きなモードを選択することができます。忠実なデコード（2chソースはマトリクス・サラウンド・デコード）処理の後オリジナルの処理を加えます。（2chソース入力時は、各モードに最適なサラウンド化方式が自動的に割り当てられます。）

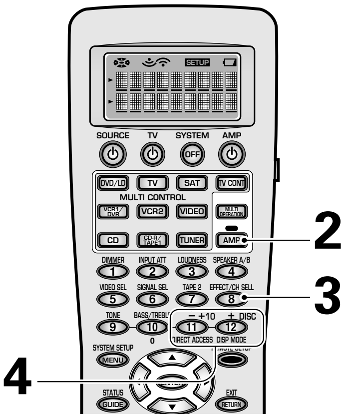
- **ACTION**
  包み込むような空間での反射音を再現します。大きい音がしっかり定位し、躍動感、スピード感が楽しめます。アクションシーンや戦闘、爆発シーンの迫力が、包み込むように再現され、映画の迫力や臨場感を、あますところなく楽しんでいただけます。アクション系の映画の再生に効果的です。
  （2chソースのサラウンド化のデコード方式：**Neo:6 CINEMA**）
- **SCI-FI （Science Fiction）**
  広い空間に音が抜けていくイメージです。セリフと効果音の分離が良いため、ＳＦ映画などのＳＥ（特殊効果音）の多いソースに効果的です。
  （2chソースのサラウンド化のデコード方式：**DD PRO LOGIC II MOVIE**）
- **DRAMA**
  サラウンドスピーカーからの音が一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで、落ち着いた雰囲気で映画を楽しんでいただけます。幅広い範囲でサラウンド効果が楽しめ、直接音もしっかりと響きます。ストーリー性重視の映画の再生に効果的です。
  （2chソースのサラウンド化のデコード方式：**DD PRO LOGIC II MOVIE**）
- **MUSICAL**
  ほとんど球に近い理想の空間での反射音を再現します。宇宙空間に漂う未来のコンサートホールのイメージです。音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生に効果的です。
  （2chソースのサラウンド化のデコード方式：**Neo:6 MUSIC**）
- **MONOFILM**
  古い映画やテレビ放送のほとんどの割合を占めるモノラル信号も含めすべてのソースに適したマルチチャンネルサラウンドモードです。
  （2chソースのサラウンド化のデコード方式：**DD PRO LOGIC**）
- **X-D THEATER （Xは再生モードに合わせて5または7と表示されます）**
  2chで収録された音声を、5chまたは7chのサラウンド効果で再生できます。ドルビーサラウンドソフト再生時は特に効果的です。
  （2chソースのサラウンド化のデコード方式：**DD PRO LOGIC**）

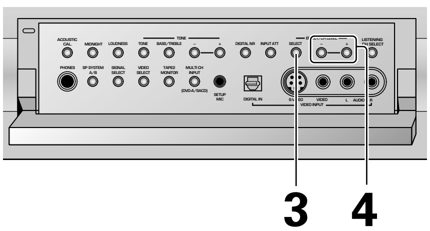
ADVANCED CONCERTモード

あらゆる音楽ソースの再生に適したオリジナルのサラウンドモードです。以下6つの中からお好きなモードを選択することができます。忠実なデコード（2chソースはマトリクス・サラウンド・デコード）処理の後オリジナルの処理を加えます。（2chソース入力時は、各モードに最適なサラウンド化方式が自動的に割り当てられます。）

- **CLASSICAL**
  大型のコンサートホールをシミュレートしています。クラシック系の音楽に適しています。反射音の遅延時間帯が長く、さらに残響音を加えることでコンサートホール特有の美しい響きと、オーケストラの迫力が楽しめます。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：なし。DSP処理でサラウンド化します。）
- **CHAMBER**
  石（コンクリート製）のコンサートホールをシミュレートしています。残響音豊かな本格的コンサートホールの響きを楽しむことができます。クラシック音楽などで自然な広がりを感じていただけます。
  （2chソースのサラウンド化のデコード方式：なし。DSP処理でサラウンド化します。）
- **JAZZ**
  一般的なジャズクラブをシミュレートしています。音の響きが強くなるのが特徴です。反射音のほとんどが100ms以下で、目の前で演奏しているような迫力と定位感を楽しめます。
  （2chソースのサラウンド化のデコード方式：**Neo:6 CINEMA**）
- **ROCK**
  中規模コンサートホールをシミュレートしています。楽器の分離感と臨場感があり、重低音に迫力のあるサラウンドを楽しめます。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：**DD PRO LOGIC II MUSIC**）
- **DANCE**
  フロアの床面が正方形をしているクラブをシミュレートしています。音の響きが強いのが特徴です。反射音の遅延時間はほとんどが50ms以下で、迫力あるDANCE MUSICが楽しめます。
  （2chソースのサラウンド化のデコード方式：**DD PRO LOGIC II MUSIC**）
- **X-CH STEREO （Xは再生モードに合わせて5または7と表示されます）**
  標準のステレオ（2ch）音声を加工することなく、5本または7本のスピーカーにて再生しますのでお部屋のどの場所にいてもステレオ感をお楽しみいただけます。（2chソースのサラウンド化のデコード方式：なし。ステレオ音声のまま最大7本のスピーカーにて再生します。）

ADVANCEDモードの効果を調整する





1 **ADVANCED CINEMAモードまたはADVANCED CONCERTモードに設定する。**（➡ P.44）

2 AMP **リモコンをアンプ操作モードにする。**

3 EFFECT/CH SELL 8 **エフェクトレベルの設定にする。**

4 − 11 + 12 **エフェクトレベルの効果を調整する。**

エフェクトレベルは10～90の範囲で調整することができます。

メモ

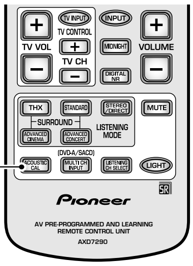
- 工場出荷時の設定は70に設定されています。
- 本体でエフェクトレベルを調整する場合は、フロントパネルのEFFECT/CH LEVELのSELECTボタンを何度か押してディスプレイに「EFFECT」を表示させ、＋/－ボタンを押して調整します。
- X-CH STEREOモードを選択しているときはエフェクトレベルは調整できません。

アコースティックキャリブレーションEQのON/OFF

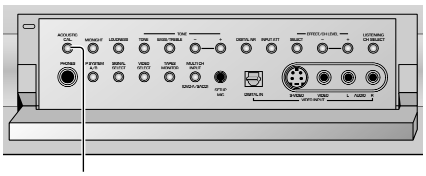
「視聴環境の周波数特性の補正」(➡ P.41)での設定をON/OFFします。自動設定を行っても、以下の設定がOFFになっていると、アコースティックキャリブレーションEQの効果は発揮されません(自動設定後は自動的に「ALL CH ADJ」でONになります)。設定のONには「ALL CH ADJ」と「Fch ALIGN」の2つのモードがあります。詳細は以下の通りです。

ALL CH ADJ：部屋の特性を含めて、サブウーファーを除いた全てのチャンネルの周波数特性をフラットに補正します。全てのチャンネル間の再生音のつながりが良くなり、サラウンドなどの音場のバランスが改善されるため、ワンランク上の臨場感、迫力をお楽しみ頂けます。

Fch ALIGN：フロント左/右(FL/FR)とサブウーファーを除いた全てのチャンネルの周波数特性を、フロントchの特性に合わせます。フロントchについてはスピーカー本来の性能をそのまま引き出し、他のチャンネルはフロントchの特性に合わせることで、チャンネル間のつながりと音場のバランスを改善します。



1



1

1



アコースティックキャリブレーションE Q をONにする。

ボタンを押すたびにアコースティックキャリブレーションEQが以下のように切り換わります。

→ OFF → ALL CH ADJ → Fch ALIGN →

ALL CH ADJまたはFch ALIGNのときはMCACCインジケーターが点灯します。

メモ

- アコースティックキャリブレーションEQのON/OFFは全てのファンクションに共通で切り換わります。
- MULTI CH INモードでは、使用できません。
- STEREO DIRECTモード(➡ P.47)を選択しているときにアコースティックキャリブレーションEQをONにすると、DIRECTモードは自動的に解除されます。
- 工場出荷時はOFFに設定されていますが、音場補正のオート設定を行うとALL CH ADJモードで自動的にONします。

MCACC(Multi Channel ACoustic Calibration system)とは

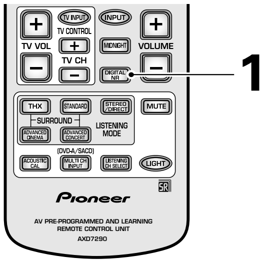
パイオニアのアンプとしての設計思想であるマルチチャンネルステレオフォニック思想(➡ P.6)を深化させる上で、実際の制作現場の技術者へのヒアリングを国内外問わず、徹底的に行ってきました。その中から、特に映画制作のスタンダードを確立したルーカスフィルム社と、音楽レコーディング業界の最高峰エアースタジオ社(ロンドン)の技術陣営との対話から、特にこれまで現実が困難であったアコースティックな環境補正を行うために、「一般家庭でも簡単かつ高精度にスタジオと同等の調整を行えること」を目標として、当社研究所で4年の歳月をかけて開発したのが、MCACC(Multi Channel ACoustic Calibration system)です。この機能により、本機ではスタジオ環境に近似した高精度な音場の自動解析処理と最適補正を可能としました。

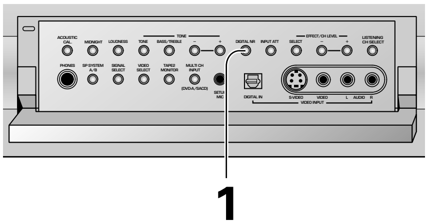
便利な音声再生用機能

STEREO DIRECTモード（P.47）のときに、これらの機能をONにすると、DIRECTモードは自動的に解除されます。

デジタルノイズリダクション機能（ノイズの低減）

DIGITAL NRをONにすると、カセットテープやビデオテープなど、雑音が多く含まれるソフトのノイズを低減することができます。





1 

DIGITAL NRをONにする。

ボタンを押すたび、DIGITAL NRがONまたはOFFに切り換わります。

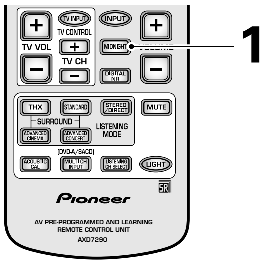
メモ

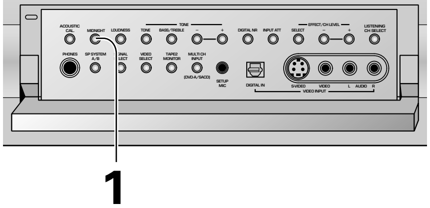
- 以下の場合は、DIGITAL NRをONにしてもノイズが十分に低減されないことがあります。
  - 突然のノイズ
  - 極端に大きいノイズ
  - 高い周波数成分を非常に多く含む信号
  - もともとノイズの少ない録音状態の良い信号
- 各音源に対し、DIGITAL NRは以下のような改善効果があります。
  ステレオ再生時
  - アナログ入力時.................. 10～18dB
  - デジタル入力...................... 10～15dB
  - AM/FMチューナー .... 10～15dB

  ADVANCED、STANDARD、96kHz再生時
  .... 6～10dB
- HOME THX、MULTI CH INモードでは使用できません。

ミッドナイトリスニング機能（小音量での快適なサラウンド再生）

音量を小さくすると、サラウンド効果が弱くなったり、微小な音やセリフなどが聴きとりにくくなることがあります。ミッドナイトリスニング機能は、ボリュームレベルやソースに応じて様々な補正を行いますので小音量でも全体のバランスが良い状態で映画などをお楽しみいただけます。





1 

ミッドナイトリスニング機能をONにする。

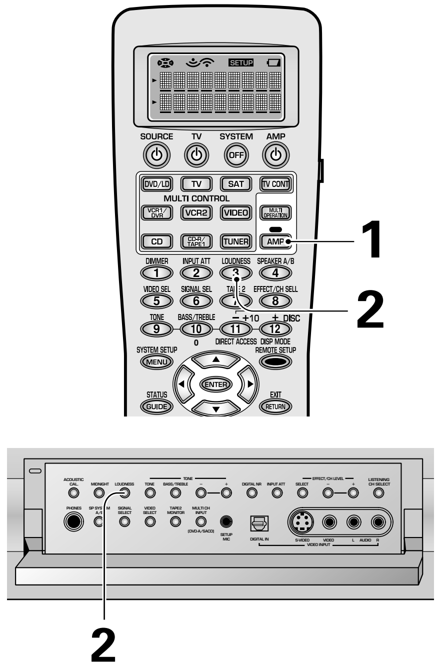
ボタンを押すたびに、ミッドナイトリスニング機能がONまたはOFFに切り換わります。

メモ

- この機能は音量が－20dB以下のときに効果があり、音量に合せてサラウンド効果も自動調整されます。
- HOME THX、MULTI CH INモードでは使用できません。
- ラウドネス機能、トーンコントロール機能との併用はできません。

ラウドネス機能（小音量時の高低音域の補正）

ラウドネス機能はボリュームレベルに応じて、低音域、高音域のレベルを適正値に補正します。



1 

リモコンをアンプ操作モードにする。

2 

ラウドネス機能をONにする。

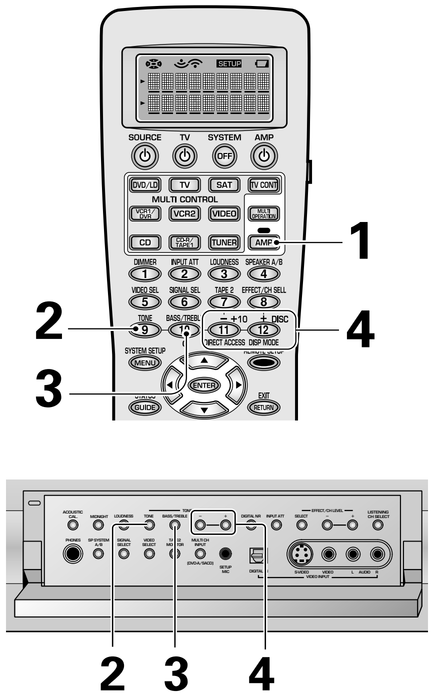
ボタンを押すたびに、ラウドネス機能がONまたはOFFに切り換わります。

メモ

- HOME THX、MULTI CH INモードでは使用できません。
- ミッドナイトリスニング機能、トーンコントロール機能との併用はできません。

トーンコントロール機能（好みに応じた高低音の調整）

トーンコントロール機能をONにすると、低音、高音がお好みによって調整できます。



1 

リモコンをアンプ操作モードにする。

2 

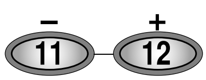
トーンコントロールモードをONにする。

ボタンを押すたびにトーンコントロールモードがONまたはBYPASSに切り換わります。

3 

低音か高音を選ぶ。

ボタンを押すたびに低音（BASS）と高音（TREBLE）が切り換わります。

4 

調整する。

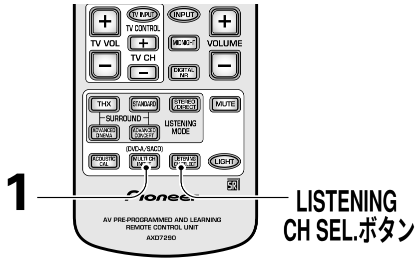
メモ

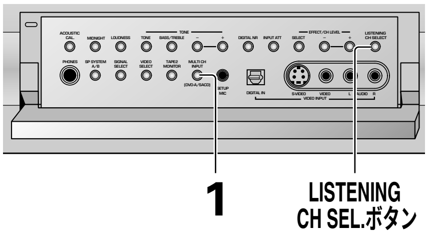
- トーンは、－6～＋6dBの範囲で調整できます。
- HOME THX、MULTI CH INモードでは使用できません。
- ミッドナイトリスニング機能、ラウドネス機能との併用はできません。

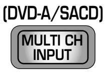
DVDオーディオ（マルチチャンネル入力）の再生

MULTI CH IN端子に接続した機器の各チャンネルの音声を、すべてアナログ処理のまま忠実に高SN比にて再生します。映像は入力ファンクション選択で選ばれている機器の映像が映ります。

- センタースピーカーが無し（NO）に設定されているとき（➡ P.35 ）は、センターchの成分を左右のスピーカーに振り分けて再生します。
- センタースピーカー**以外**が**無し**（NO）に設定されているとき（➡ P.35 ）は、そのチャンネルの音声はどのスピーカーからも出力されません。





1 

マルチチャンネル入力にする。

ボタンを押すたび、ONとOFFが切り換わります。

ON ⟷ OFF

メモ

- マルチチャンネル入力信号にはリスニングモードの効果を加えることはできません。リスニングモードを切り換えるとマルチチャンネル入力モードは「OFF」になります。
- 「アコースティックキャリブレーションEQ」（ P.49 ）や「便利な音声再生用機能」（ P.50 ）をONにすることはできません。
- 入力ファンクションごとにマルチチャンネル入力モードを設定することができます。
- マルチチャンネル入力モードは入力ファンクションごとにラストメモリーされます。

マルチチャンネル入力の2ch/8ch切り換え

マルチチャンネル入力モード時に入力チャンネルを2chか8chに切り換えることができます。2chにするとFRONT端子に入力された信号だけを再生し、残りのチャンネルの出力をミュートするため、さらに高SN比にて再生できます。

DVDオーディオ（マルチチャンネル入力）の再生をより快適にお使いいただくために、「マルチチャンネル入力関連の設定」（➡ P.79 ）をご覧ください。

1 マルチチャンネル入力モード時にLISTENING CH SEL.ボタンを押す。

ボタンを押すたび2chと8chが切り換わります。

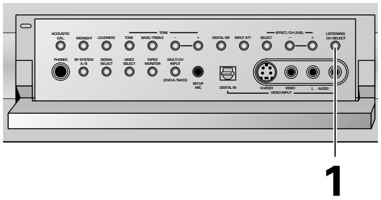
DUAL MONO（デュアルモノ）の再生と設定

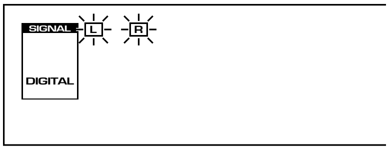
モノラルの音声チャンネルを２つ持つデジタル信号のことを１＋１デュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声をどのスピーカーから出力するかを設定します。この設定は、例えば以下のようなMPEG-2 AACやドルビーデジタルの1+1デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

・ BSデジタル放送のモノラルの二か国語放送や音声多重放送など
  ステレオの二か国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。

・ ２か国語放送などをDVDレコーダーのデュアルモノラルモードで録画したもの
  録画モードの名称は機器によって異なります。詳しくはDVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ch1 ： チャンネル1の音声のみを再生する場合。
ch2 ： チャンネル2の音声のみを再生する場合。
ch1/ch2 ： チャンネル1／チャンネル2の音声をそれぞれ左／右のフロントスピーカーから分けて再生する場合。





デュアルモノ信号を検出するとⓁとⓇが数秒点滅します。その後ch1選択時はⓁ、ch2選択時はⓇ、ch1/ch2選択時はⓁⓇが点灯します。

1



フロントパネルのLISTENING CH SELECTボタンを5秒以上押し続けてデュアルモノの設定を変更する。

ボタンを押し続けることで以下のように切り換わります。

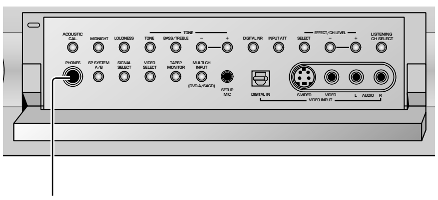
DUAL : ch1 → DUAL : ch2 → DUAL: ch1/ch2 → DUAL : ch1

聞きたいチャンネルが表示されているときに指を離してください。

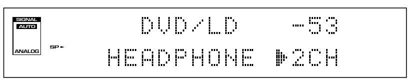
メモ

- 工場出荷時の設定はDUAL ch1に設定されています。

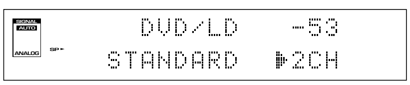
ヘッドホンを使う



ヘッドホン端子



↓



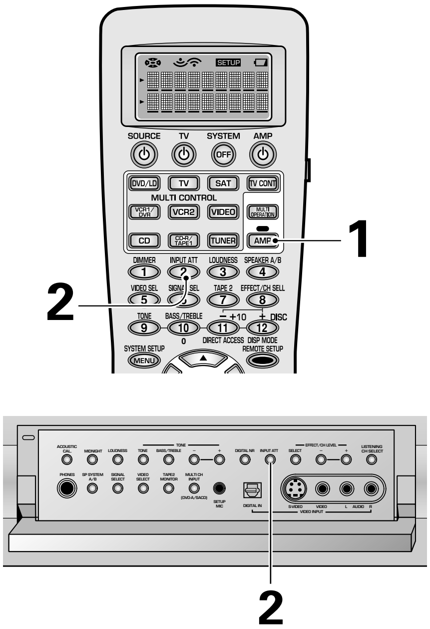
1 **ヘッドホンのプラグをヘッドホン端子に差し込む。**

メモ

- ヘッドホンを差し込むとスピーカーから音は出なくなります。
- 各リスニングモードの効果は2chにダウンミックスされますが、2chソースに対してマトリクスデコードによるサラウンド処理は行いません。
- ショートピン（➡P.20）が抜けているときはヘッドホンからも音が出ません。

インプットアッテネーターを使う

インプットアッテネーターは、アナログの過大信号入力により音声が歪んだとき(OVERインジケーターが頻繁に点灯するとき)にＯＮにします。ＯＮにすることで入力信号のレベルが下がり、歪みを低減させることができます。



1 

リモコンをアンプ操作モードにする。

2 

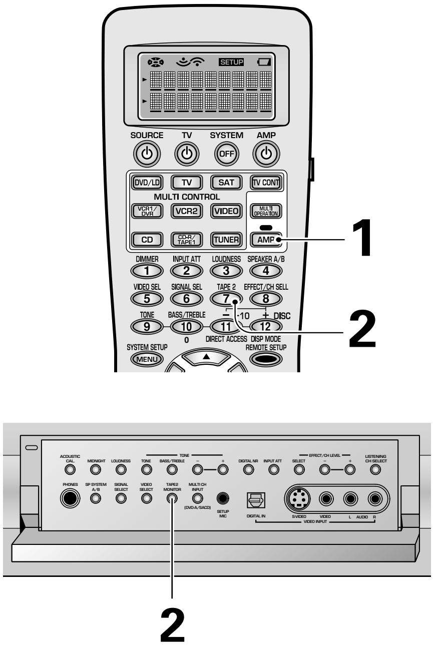
インプットアッテネーターをONにする。
ボタンを押すたび、インプットアッテネーターがONまたはOFFに切り換わります。

メモ

- A/Dコンバーターへの過入力を防止する機能ですので、デジタル入力信号や、すべてアナログで処理を行うモードを選択しているときにはこの機能のON/OFFは関係ありません。

録音モニター(TAPE 2 MONITOR)の再生

録音モニター付きのカセットデッキをTAPE 2 MONITOR端子に接続すると、録音しながら録音されている音声を聴くことができます。TAPE2 MONITORの再生モードにすると、ソース機器の再生音から録音されている音声に切り換わります。このときディスプレイの「TAPE2」インジケーターが点灯します。



1 

リモコンをアンプ操作モードにする。

2 

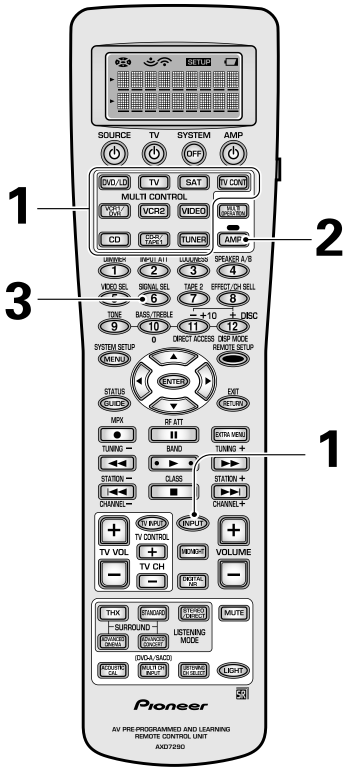
TAPE2 MONITORの再生モードにする。
ボタンを押すたび、TAPE2 MONITORの再生モードONまたはOFFに切り換わります。

メモ

- TAPE2 MONITORがONのとき、入力信号は自動的にANALOGが選択されます。
- TAPE2とともにTAPE1やVCRにも同時録音する場合、TAPE2 MONITORボタンを押してしまうと、TAPE2 MONITOR端子に接続された機器の出力がTAPE1やVCRに録音されるので音が劣化する可能性があります。

本機を使った録音/録画

オーディオ機器からの音声やビデオ機器からの映像、音声を本機を使って録音/録画する方法について説明します。ソース機器と録音・録画機器の接続は「接続」(➡ P.25 P.26)をご覧ください。



1 

録音または録画したいソースを選ぶ。

ボタンを押すたびに(本体の場合は、INPUT SELECTORを右に回すと)入力が順次に切り換わります。

2 

リモコンをアンプ操作モードにする。

3 

入力信号を選択する。

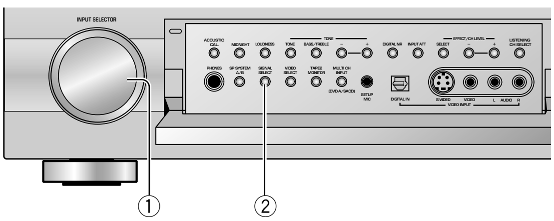
デジタル録音するときは、DIGITALを選択します。詳しくは「ANALOG/DIGITAL信号の切り換え」(➡ P.43)をご覧ください。

4 **録音機器の録音またはビデオデッキ(DVDレコーダー)の録画を開始する。**

5 **録音または録画するソースを再生する。**

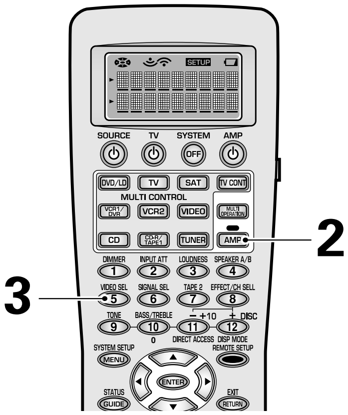
メモ

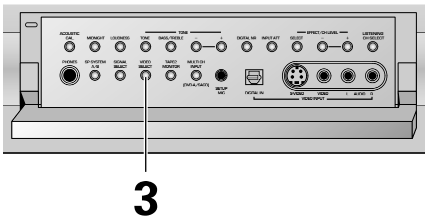
- **音声はアナログ－デジタル変換していませんので、接続する信号の種類を合わせてください。**
- **映像はコンポジットまたはSビデオで接続し、ソース機器と録画機器のコードの種類を合わせてください。**
- 「オートセットアップ(➡ P.11)時、および「音場補正(➡ P.32)」時には録音・録画を行わないでください。
- 各録音信号に、本機の音量、チャンネルレベル、「便利な音声再生用機能」(➡ P.50)、リスニングモードの設定は、反映されません。
- デジタル出力については、再生はできても信号の種類やコピーガード、録音機器の仕様などにより録音できないものがあります。この場合はアナログ接続で録音してください(➡ P.26)。
- MULTI CH INPUTに入力された音声は、フロントchのみ録音することが可能です。
- DVDなどのビデオソフトの中にはコピーガードが設定されていて録画できないものがあります。
- TAPE2の再生信号をCD-R/TAPE1に接続した機器で録音する場合、①CD-R/TAPE1以外の入力ファンクションを選択し、②TAPE2 MONITORをONにしてください。



別のファンクションの映像を見る（ビデオセレクト）

ビデオセレクト機能は、お好みの音楽ソースを聞きながら別の機器のビデオ映像などを同時に見ることができる機能です。





1 **音楽ソースを再生する。**
（「基本再生」➡ P.42）

2  **リモコンをアンプ操作モードにする。**
リモコンがアンプ操作モードに切り換わります。

3  **映像のみを再生したいビデオ入力を選択する。**
ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。

→ DVD/LD → TV/DVD → SAT → VIDEO → VCR 1/DVR → VCR 2 → OFF →

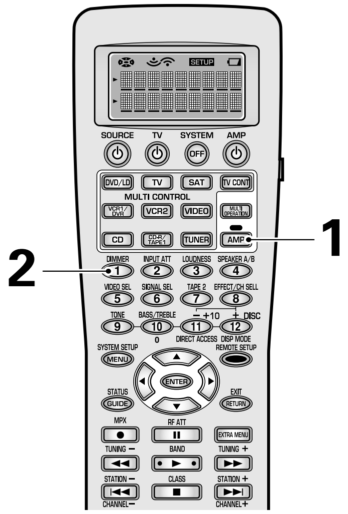
3 **手順4で選択したビデオ入力機器を再生する。**
（「基本再生」➡ P.42）

メモ

- ビデオセレクト機能は、本機の電源を切ったり、入力ファンクションを切り換える（または他機器操作ボタンを押す）とキャンセルされます。
- OFFではビデオ回路の電源もOFFになるため、画面には何も表示されません。
- VIDEO系とAUDIO系の入力ファンクション間を切り換えると、画面にノイズが出ることがありますが、これはビデオ回路の電源ON/OFFも自動的に行っていることによるものです。

ディスプレイの明るさを調整する

リモコンのDISPLAY DIMMERボタンを使って、フロントパネルディスプレイの明るさを調整できます。



1  **リモコンをアンプ操作モードにする。**
リモコンがアンプ操作モードに切り換わります。

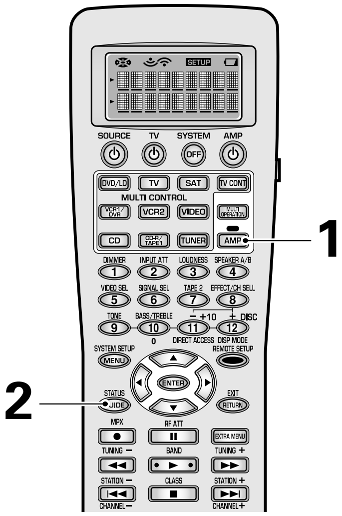
2  **好みの明るさに調整する。**
ボタンを押すたびにディスプレイの明るさを4段階に調整できます。
一巡すると、普通の明るさに戻ります。

メモ

- 調整値に関わらず、操作時は一時的に明るく表示します。

各種設定内容の確認(ステータス画面)

リモコンの「STATUS」ボタンを押すことで、現在の各種設定内容を確認することができます。確認はOSD画面(テレビ画面)と本体のディスプレイの両方に表示されます。各種設定内容の確認は各入力ごとに確認することができます。



1 

リモコンをアンプ操作モードにする。
リモコンがアンプ操作モードに切り換わります。

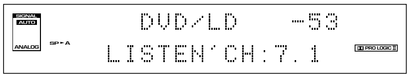
2 

設定内容を確認する。
OSD画面とディスプレイに以下の内容が表示されます。ディスプレイは以下のように2秒ごとに切り換わって表示します。

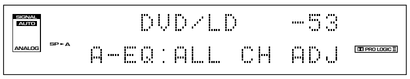
OSDの表示例

LISTEN'CH SEL	:	7.1ch
ACOUS. CAL EQ	:	ALL ADJ
DIGITAL NR	:	OFF
MIDNIGHT	:	OFF
LOUDNESS	:	OFF
TONE CONTROL	:	OFF
INPUT ATT	:	OFF
TAPE2 MONITOR	:	OFF
VIDEO SELECT	:	DVD/LD

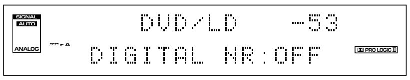
ディスプレイの表示例



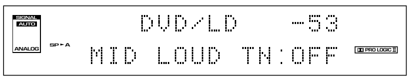
• 再生チャンネル数



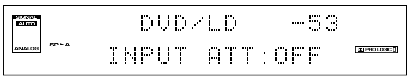
• アコースティックキャリブレーションEQ



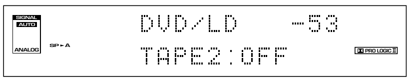
• デジタルノイズリダクション機能



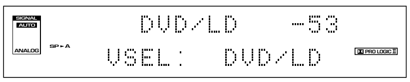
• ミッドナイトリスニング機能
• ラウドネス機能
• トーンコントロール機能



• インプットアッテネーター



• テープ2モニター



• ビデオセレクト

メモ

• ステータス表示中にSTATUSボタンを押すと、通常表示に戻ります。

他機器を操作するためのリモコン設定

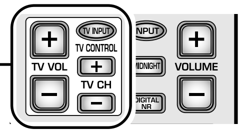
付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品（DVDプレーヤーなど）や他社の機器（ビデオデッキ、テレビなど)を操作することができます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出して簡単に本機のリモコンで操作できるようになります（Preset Recall）。プリセットコードが登録されていない場合、または本機のリモコンで操作できる機能を追加したい場合は、その操作のリモコンコードを直接登録（学習）することができます（Learning）。

メモ

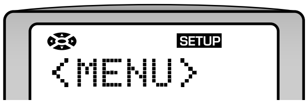
・ケーブルTVチューナーとモニターTVなどを登録したいときは、モニターTVをTV CONT、ケーブルTVチューナー（ソース機器）をTVに登録すると便利です。

・リモコンが他機器の操作モードになっていても、TV CONTに登録された機器はTV CONTROLボタンでいつでも操作することができます。

TV CONTROL ボタン



リモコン設定操作ガイド



各種リモコン設定中（➡ P.58 〜 P.72 ）、リモコンディスプレイの左上部に左記のマークが表示されたときはそのボタンを使用して設定作業を行うことを意味しています。

Preset Recallセットアップモード（プリセットコード呼び出し）

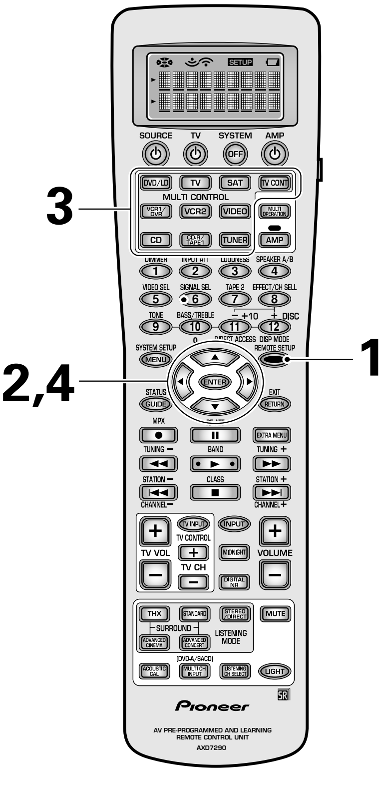
ここでは、本機のリモコンの他機器操作ボタンに、操作したい他機器のプリセットコードを登録します。

メモ

・1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。

・リモートセットアップモードを解除したいときは、Remote Setupボタンを押してください。

・リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



1

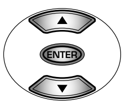


3秒間
押し続ける

リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「ＳＥＴＵＰ」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

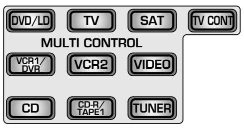
2



「Preset」を選んで決定する。

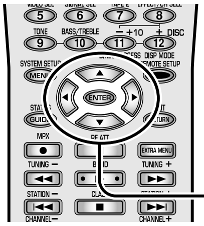
リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

3



プリセットコードの登録をしたい他機器操作ボタンを選択する。

操作する機器と他機器操作ボタンとの名称を一致させておくことをおすすめしますが、異なる名称の機器を登録することも可能です（ＴＶボタンにＬＤプレーヤーのプリセットコードを登録するなど）。異なる名称の端子（入力ファンクション）に機器を接続しているときは、その端子に対応する他機器操作ボタンを選択してください。



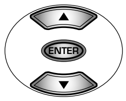
▲ ▼◀ ▶ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

4~8

メモ

・いくつかのリモコンコードはＥＸＴＲＡ ＭＥＮＵ内に登録されている場合もあります。EXTRA MENUボタンを押した後、▲▼ボタンを押して確認してください。（Blank1などと表示されている領域空領域となっています）

4



登録したい機器の種類を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに<MAKER>が表示されます。

5 **登録したい機器のメーカーを選ぶ。**

同じメーカー内にプリセットコードが複数ある場合は－1、－2と続いて表示されます。

6 **選択した機器にリモコンを向けてENTERボタンを押す。**

リモコンからその機器の電源ＯＮ／ＯＦＦ信号が送られた後に、リモコンのディスプレイに<OK？>が表示されます。

機器の電源がON/OFFした場合

その機器のプリセットコードが呼び出されました。「ＹＥＳ」を選んで、手順7へお進みください。

機器の電源がON/OFFされなかった場合

呼び出されたプリセットコードがその機器のリモコンコードと一致していない可能性があります。同一メーカーで機器のプリセットコードが複数ある場合は「NO」を選んで決定した後に、別の番号を使って手順5からやり直してください。

メモ

・選択した機器に向けてＥＮＴＥＲボタンを押さないと、機器の電源はON/OFFしません。
・選択した機器にＳＴＡＮＤＢＹ/ＯＮモードがない場合は、正しく設定できていても電源はＯＮ／ＯＦＦしません。この場合はそのまま手順7 へ進み、その後に実際に操作できるかどうか試してみてください。
・表示されている全ての番号を押しても電源がＯＮ／ＯＦＦまたは操作できない場合は「Learningセットアップモード」（➡ P.60 ）で登録してください。

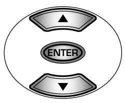
7



プリセットコードの登録を決定する。

「COMPLETE」と表示され、Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。
手順2 ～6 を繰り返し、その他の機器も設定します。

8



「Exit」を選んで決定する。

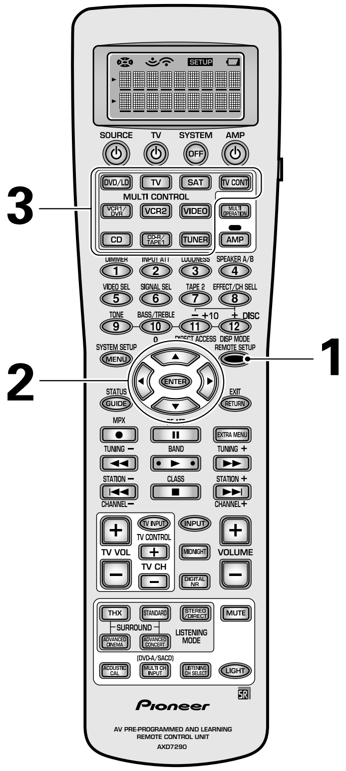
リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

Learningセットアップモード(他機器のリモコンコードを本機のリモコンに登録する)

本機のリモコンで操作したい他機器のプリセットコードが登録できない場合は、以下の手順で他機器のリモコンコードを本機のリモコンに登録(学習)することができます。プリセットコードを設定しただけでは使用できない操作についても、以下の手順で本機のリモコンに追加登録(学習)することができます。

メモ

- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、Remote Setupボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



1

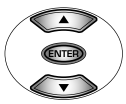


3秒間
押し続ける

リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「S E T U P」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

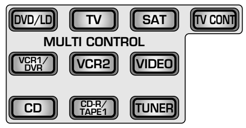
2



「Learning」を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

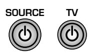
3



リモコンコードの登録をしたい他機器操作ボタンを選択する。

操作する機器と他機器操作ボタンとの名称を一致させておくことをおすすめしますが、異なる名称の機器を登録することも可能です(TVボタンにLDプレーヤーのボタンを登録するなど)。異なる名称の端子(入力ファンクション)に機器を接続しているときは、その端子に対応する他機器操作ボタンを選択してください。

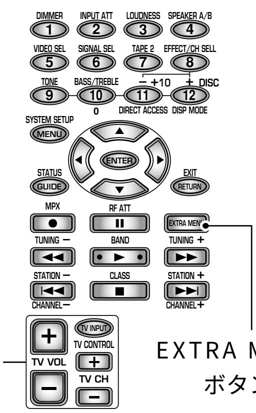
4



登録したい操作ボタンを選択する。

選択された他機器操作ボタンと選択された操作ボタンを表示後、「LEARN」が点滅表示されます。

手順3でTV CONTを選択した場合のみTV CONTROLボタンにも登録することができます。



TV CONTROL
ボタン

EXTRA MENU
ボタン

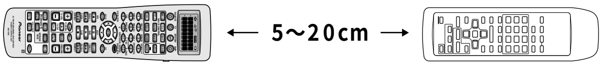
メモ

- EXTRA MENUボタンには最大10のリモコンコードを登録することができます。EXTRA MENUボタンを押した後、▲▼ボタンで空領域(Blank1)などを選択しENTERボタンで決定します。



5 **「LEARN」が点滅している間に他機器のリモコンを下図のように本機のリモコンに向け、他機器リモコンの登録したい操作ボタンを押す。**

① 本機と他機器のリモコンを互いに下のように向けます。



② 登録したい操作のボタンを押します。「O K 」が表示された後、<Continue?>が表示されます。

・「Select Key」が点滅している場合は手順4からやり直してください。

6 **登録を続ける場合は、以下の手順を行います。**

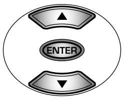
同じ他機器操作ボタンに別のリモコンコードを追加登録するには

「Yes」を選んで決定した後に、手順4～5を繰り返します。

別の他機器操作ボタンにリモコンコードを登録するには

「No」選んで決定した後に、手順2～6を繰り返します。

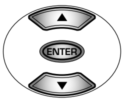
7



「Exit」を選んで決定する。

Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

8



「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

メモ

・手順5で「NG」と表示されたり、登録後に実際に操作できない場合は下記の方法を試してみてください。（リモコンコードによっては正しく登録できないものもあります）

手順5でリモコン同士の距離を変えてみる

リモコンコードが正しく認識される場合があります。

・手順5で「FULL」と表示されたときは、メモリに十分な空き容量が無いことを示しているので以下の方法を試してみてください。

必要に応じて別のボタンの設定をクリアしてから登録し直してください。「リモコンの設定クリア」(➡ P.71)

・EXTRA MENUボタンのBlank1などに登録した場合は、その機能の名称に変更しておくことをおすすめします。詳しくは「キーラベル」(➡ P.69)をご覧ください。

他機器のリモコン操作

- 以下のリモコン操作を行うには、あらかじめ操作したい機器のリモコンコードを登録しておく必要があります。詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定」(➡ P.58)をご覧ください。
- **実際に操作を始める前に操作したい機器の他機器操作ボタンを押して、リモコンをその機器の操作モードにしてください。各機器の詳しい機能については、それぞれの取扱説明書をお読みください。**
- 機種によっては操作できないボタンもあります。
- EXTRA MENUに登録されたリモコンコードは、EXTRA MENUボタンを押した後、▲▼ボタンで操作コードを選択しENTERボタンを押して送信します。

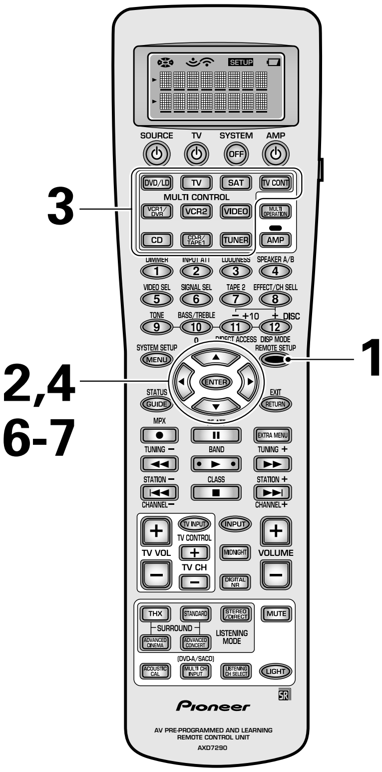
ボタン	DVD DVDレコーダー LD	テレビ	BSデジタルチューナー内蔵テレビ BSデジタルチューナー	CATV	VTR (ビデオデッキなど)	CD/CD-R/MD/TAPE	TUNER
⏻	電源のON/OFF	電源のON/OFF	電源のON/OFF	電源のON/OFF	電源のON/OFF	電源のON/OFF	電源のON/OFF
►	再生	BS9	緑		再生	再生	BAND
■	停止		DTV on		停止	停止	CLASS
❚❚	一時停止				一時停止	一時停止	RF ATT
►►	早送り	BS11	黄	ページを1つ上げる	早送り	早送り	TUNING＋
◄◄	早戻し	BS7	赤	ページを1つ下げる	早戻し	早戻し	TUNING－
►►❙	次のチャプター(トラック)の頭出し	チャンネルを1つ上げる	チャンネルを1つ上げる	チャンネルを1つ上げる	チャンネルを1つ上げる	トラックの頭出し	STATION＋
❙◄◄	前のチャプター(トラック)の頭出し	チャンネルを1つ下げる	チャンネルを1つ下げる	チャンネルを1つ下げる	チャンネルを1つ下げる	トラックの頭出し	STATION－
●	[DVDレコーダー] 録画	BS5	青		録画	[CD-R/MD/TAPE] 録音	MPX
RETURN	[DVD/DVDレコーダー] 設定画面などで1つ前に戻る		設定画面などで1つ前に戻る	Exit			
GUIDE	[DVD/DVDレコーダー] トップメニュー画面を表示		番組表を表示	番組表を表示			
MENU	[DVD/DVDレコーダー] 各種メニュー画面を表示	各種メニュー画面を表示	BSメニュー/番組ナビを表示	各種メニュー画面を表示			
◄►▲▼	各種メニュー画面を操作	各種メニュー画面を操作	各種メニュー画面を操作	各種メニュー画面を操作		ダブルテープデッキの操作	▲▼(TUNE+/–) ◄►(STATION+/–)
ENTER	操作を決定	操作を決定	操作を決定	操作を決定			
数字ボタン(1〜9)	チャプター(トラック)のダイレクト選択	チャンネルのダイレクト選択	[BSチューナー内蔵TV] BSデジタルチャンネルのダイレクト選択 [BSデジタルチューナー] チャンネルのダイレクト選択	チャンネルのダイレクト選択	チャンネルのダイレクト選択	トラックのダイレクト選択	放送局のダイレクト選択
数字ボタン10	チャプター(トラック)のダイレクト選択 0	チャンネルのダイレクト選択　10	[BSチューナー内蔵TV] BSデジタルチャンネルのダイレクト選択　0 [BSデジタルチューナー] チャンネルのダイレクト選択　0	チャンネルのダイレクト選択　0	チャンネルのダイレクト選択　10	トラックのダイレクト選択 10	放送局のダイレクト選択 0
数字ボタン(11)	*チャプター(トラック)のダイレクト選択 +10	チャンネルのダイレクト選択　11 または+10	チャンネルのダイレクト選択　・		チャンネルのダイレクト選択　11 または+10	[CD/CD-R/MD] トラックのダイレクト選択 >10	DIRECT ACCESS
数字ボタン(12)	[DVD] Search Mode [DVDレコーダー] ディスクナビゲーター画面を表示 [LD] A面とB面の切り替え	チャンネルのダイレクト選択　12	選択したチャンネルの決定	選択したチャンネルの決定	チャンネルのダイレクト選択　12	[CD/CD-R] DISC	Disp Mode

* DVDプレーヤーによっては10以上を選ぶとき＋10方式ではなく、ENTER方式で番号を決める機種がありますが、その機種も本機リモコンでは＋10ボタンで操作することができます。

Direct Functionモードを設定する

ダイレクトファンクションは他機器操作ボタンを押したときに、本機の入力ファンクションを同時に切り換えるかどうかを設定する機能です。OFFにすると入力ファンクションは切り換わらず、操作ボタンの機能だけが切り換わります。
本機に接続されている機器と、本機の入力切換動作が必要ない機器(直接テレビに接続されているなど)と区別できるようにするためのモードです。工場出荷時はすべてONになっています。

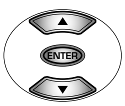
メモ
- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、Remote Setupボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



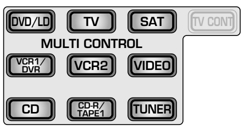
1 

3秒間
押し続ける

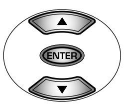
リモートセットアップモードにする。
リモコンのディスプレイに「SETUP」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2 

「DirctFnc」を選んで決定する。
リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

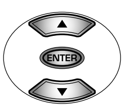
3 

設定したい他機器を選択する。
<Direct Func>が表示されます。

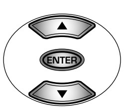
4 

「On」か「Off」か「＊Exit＊」を選んで決定する。
「On」：ダイレクトファンクションをONに設定します。
「Off」：ダイレクトファンクションをOFFに設定します。
「Exit」：ダイレクトファンクションの設定を終了します。
Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

5 **続けてその他の機器の設定を行う場合は、手順2～4を繰り返す。**

6 

「＊Exit＊」を選んで決定する。
Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

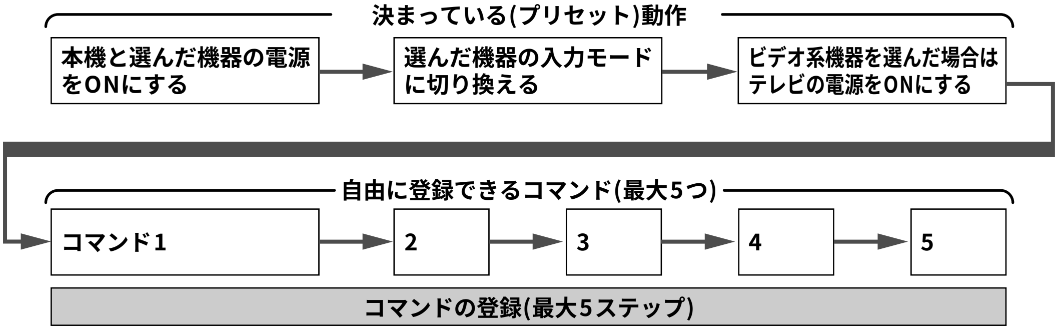
7 

「Exit」を選んで決定する。
リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

ホームシアター入門
各部名称
接続
音場補正
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

マルチオペレーション

マルチオペレーションとは、2つのボタン（MULTI OPERATIONと他機器操作ボタン）を押すだけで、あらかじめ決められている（プリセット）動作と、複数の操作（コマンド）を一度に実行する便利な機能です。各他機器操作ボタンに登録することができます。リモコンからは次のようにコマンドが送信されます。

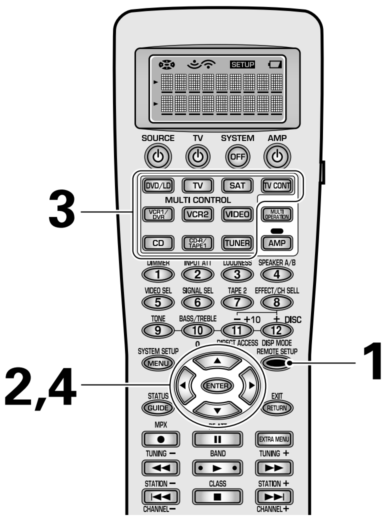


- **登録する他機器操作ボタンでTV CONTROLを選んだときの「決まっている（プリセット）動作」は「テレビの電源をONにする」のみとなります。**
- **「決まっている（プリセット）動作」ではパイオニア以外の機器の電源はONしません。**

マルチオペレーションをプログラムする

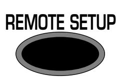
マルチオペレーション機能で実行したい一連の操作をプログラムする方法について説明します。
以下の手順を始める前に、操作したい機器のプリセットコードまたはリモコンコードを本機のリモコンに登録しておく必要があります。詳しくは、「他機器を操作するためのリモコン設定」をご覧ください。（➡ P.58）

メモ
- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、Remote Setupボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



ここではDVD/LDボタンに「DVDを再生する」という操作をプログラムする手順を例にとって説明します。

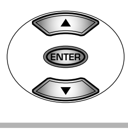
1



3秒間
押し続ける

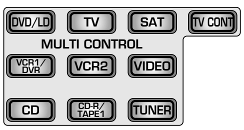
リモートセットアップモードにする。
リモコンのディスプレイに「S E T U P 」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2



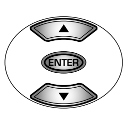
「MultiOpe」を選んで決定する。
リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

3

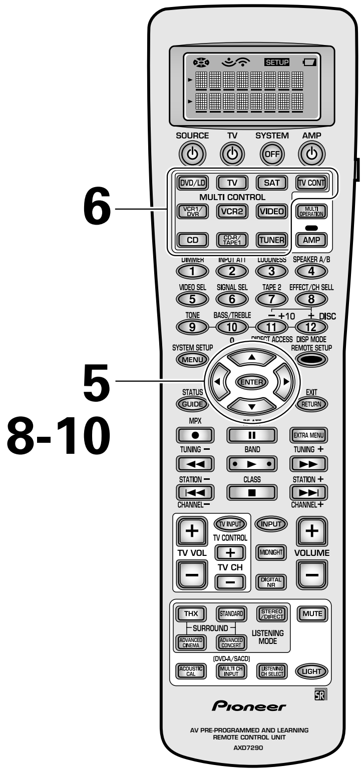


マルチオペレーションをプログラムしたい他機器操作ボタンを選択する。
<MultiOpe>が表示されます。
例）DVD/LDボタンを選択します。

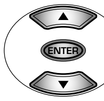
4



「1stCmmnd」を選んで決定する。
現在の設定内容（工場出荷時は「Blank」）が表示された後、「<1st>Change」が表示されます。



5



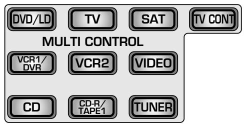
「Change」か「Clear」か「＊Exit＊」を選んで決定する。

「Change」：「Function」が点滅して1つめのコマンドの登録（変更）になります。手順6 へお進みください。

「Clear」：現在登録されているコマンドを消去します。手順8へお進みください。

「Exit」：手順4へ戻ります。

6

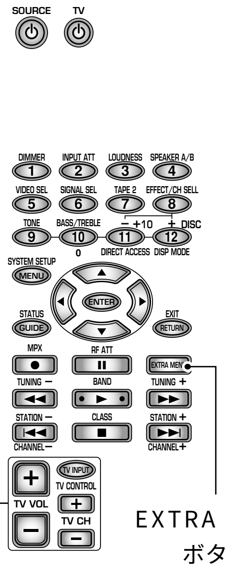


操作したい機器を選択する。

「Key」が点滅します。

例）ＤＶＤ/ＬＤボタンを選択します。

7



TV CONTROL ボタン

EXTRA MENU ボタン

実行したい操作ボタンを選択する。

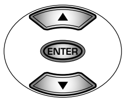
例）►再生ボタンを選択します。

「Complete」と表示された後、コマンド番号選択画面に戻ります。（手順8へお進みください）

手順6でTV CONTを選択した場合のみTV CONTROLボタンにも登録することができます。

EXTRA MENU内のコマンドを選択したいときはEXTRA MENUボタンを押した後、▲▼ボタンでコマンドを選択し、ＥＮＴＥＲボタンで決定します。

8

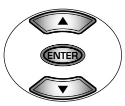


2つめのコマンドを登録したいときは「2ndCmmnd」を選んで決定した後に、手順5～7を繰り返します。

1つの他機器操作ボタンにおいて最大5つまで登録することができます。

3つめのコマンドは「3rdCmmnd」を選び、4つめのコマンドは「4thCmmnd」を選び、5つめのコマンドは「5thCmmnd」を選びます。

9

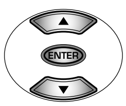


「＊Exit＊」を選んで決定する。

Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

別の他機器操作ボタンにも登録するときは、手順2～9を繰り返してください。

10

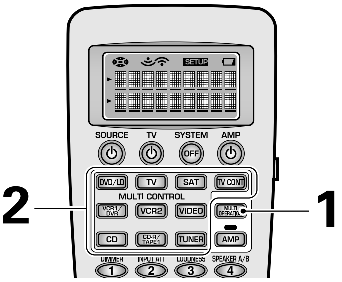


「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

マルチオペレーションを実行する

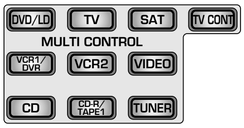
「マルチオペレーションをプログラムする」(➡ P.64)で登録した一連の操作(プリセット動作を含む)を実行する方法について説明します。



1 

マルチオペレーションモードにする。

リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

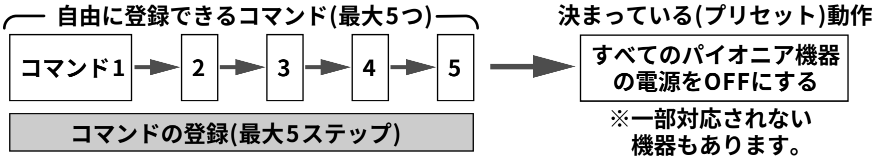
2 

操作したい他機器を選択する。

プリセット動作と、このボタンに登録されているコマンドが実行されます。

システムオフ

システムオフ(SYSTEM OFF)とは、5つまで自由に登録できる操作(コマンド)と、本機を含めたすべてのパイオニアの機器の電源OFFを、ワンタッチで実行する便利な機能です。リモコンからは次のようなコマンドが送信されます。

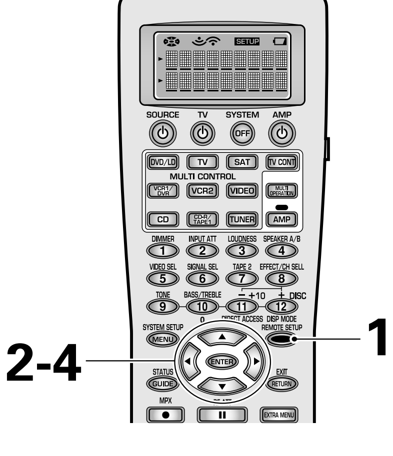


システムオフをプログラムする

システムオフ機能で実行したい一連の操作をプログラムする方法について説明します。
以下の手順を始める前に、操作したい機器のプリセットコードまたはリモコンコードを本機のリモコンに登録しておく必要があります。(詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定」をご覧ください。(➡ P.58)

メモ
- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、Remote Setupボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。

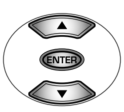
ここでは「DVDの再生を停止する」という操作をプログラムする手順を例にとって説明します。



1 

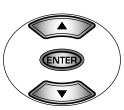
リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「S E T U P 」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2 

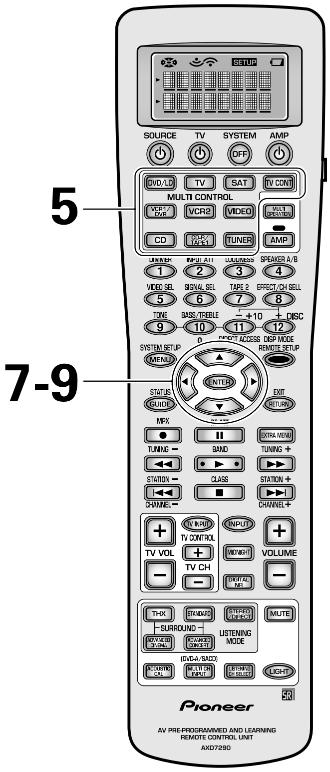
「SysOff」を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに<System Off>が表示されます。

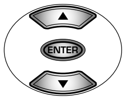
3 

「1stCmmnd」を選んで決定する。

現在の設定内容(工場出荷時は「Blank」)が表示された後、「<1st>Change」が表示されます。



4



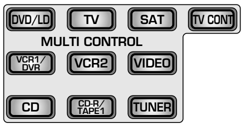
「Change」か「Clear」か「＊Exit＊」を選んで決定する。

「Change」：「Function」が点滅して1つめのコマンドの登録(変更)になります。手順5 へお進みください。

「Clear」：現在登録されているコマンドを消去します。手順7へお進みください。

「Exit」：手順3へ戻ります。

5

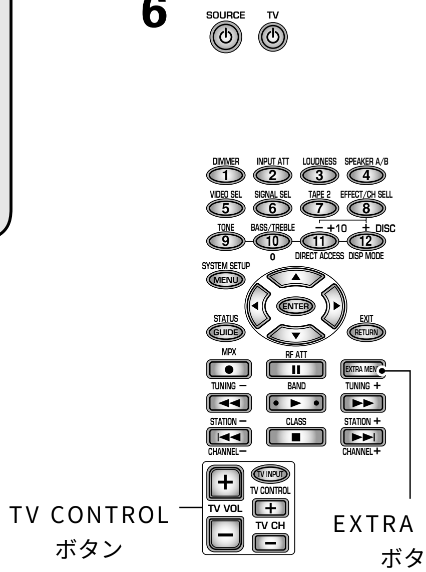


操作したい他機器を選択する。

「Key」が点滅します。

例) D V D / L Dボタンを選択します。

6



実行したい操作ボタンを選択する。

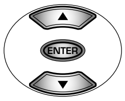
例)■停止ボタンを選択します。

「Complete」と表示された後、コマンド番号選択画面に戻ります。(手順7へお進みください)

手順5でTV CONTを選択した場合のみTV CONTROLボタンにも登録することができます。

EXTRA MENU内のコマンドを選択したいときはEXTRA MENUボタンを押した後、▲▼ボタンでコマンドを選択し、ENTERボタンで決定します。

7

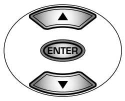


2つめのコマンドを登録したいときは「2ndCmmnd」を選んで決定した後に、手順4〜6を繰り返します。

最大5つまで登録することができます。

3つめのコマンドは「3rdCmmnd」を選び、4つめのコマンドは「4thCmmnd」を選び、5つめのコマンドは「5thCmmnd」を選びます。

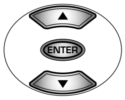
8



「＊Exit＊」を選んで決定する。

Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

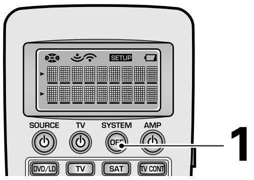
9

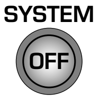


「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

システムオフを実行する



1 

システムオフを実行する。

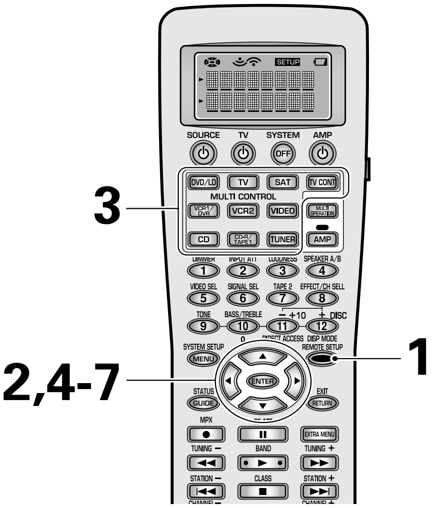
「システムオフをプログラムする」(➡ P.66)で登録されたコマンドが実行された後、パイオニア機器の電源がOFFになります。

ファンクションネーム

リモコンディスプレイに表示される入力ファンクション名を変更することができます。例えばDVD/LDの入力端子にDVRを接続したとき、リモコンディスプレイ表示はDVD/LDですが再生しているのはDVRということになります。このようなときに、ディスプレイ表示をDVD/LDからDVRに変更できる便利な機能です。各入力ファンクション(他機器操作ボタン)ごとに接続された機器やメーカー名などを入力すれば、どこの入力ファンクション(他機器操作ボタン)にどんな機器が接続されているのかを簡単に確認することができます。

メモ

・1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
・リモートセットアップモードを解除したいときは、Remote Setupボタンを押してください。
・リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



メモ

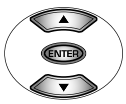
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789(スペース)
!”#$%&’()*+,–./:;<=>?@[\ ]^_`{|}~
►◄■●⏻❚❚|↑↓→← •(スペース)

1 

3秒間
押し続ける

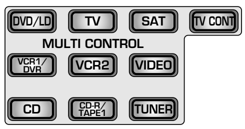
リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「S E T U P 」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2 

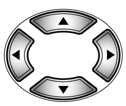
「FuncName」を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

3 

名前を変更したい入力ファンクション(他機器操作ボタン)を選択する。

リモコンディスプレイが入力ファンクション名の変更画面になります。

4 

▲▼ボタンで入力する文字を選んで、◄►ボタンでカーソルを左右に動かす。

入力できる文字は左記のメモの通りです。
最大8文字まで入力することができます。

5 

入力を終了する。

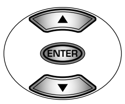
「END」が点滅します。

6 

もう一度ENTERボタンを押し、入力した名前を確認する。

「Complete」と表示されRemote Setupメニューの表示画面に戻ります。別の入力ファンクション名も変更するときは手順2〜6を繰り返してください。

7



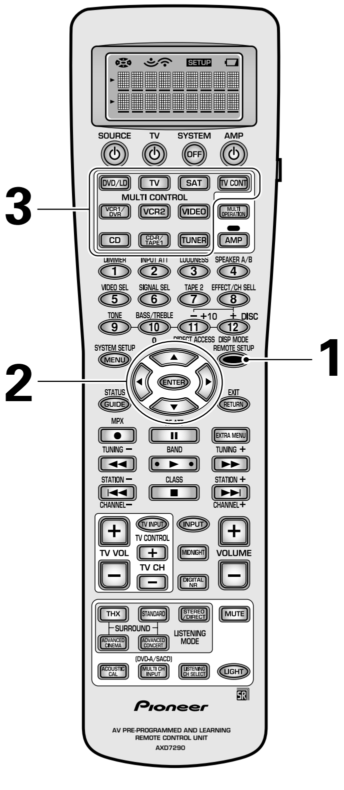
「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

キーラベル

キーラベルとは各ボタンを押したときに、リモコンディスプレイに表示される文字やマークを1文字〜8文字の範囲内でお好みのラベル(ボタンマーク)に付け換えられる機能です。例えばあるボタンにプリセットと異なるコマンドを学習させた場合(➡ P.60)、そのボタンのラベル(ボタンマーク)を付け換えたり変更することにより、そのコマンドがどこのボタンに学習されたのかを簡単に確認することができます。

メモ
- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、Remote Setupボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



1

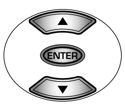


3秒間
押し続ける

リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「ＳＥＴＵＰ」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

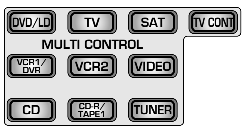
2



「KeyLabel」を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに「Select Function」が点滅します。

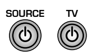
3



ラベルを変更したいボタンのある他機器操作ボタンを選択する。

「Select Key」が点滅します。

4

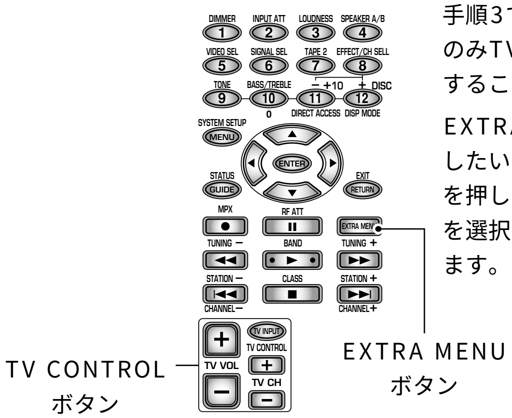


ラベルを変更したい操作ボタンを押す。

リモコンディスプレイが名前変更の画面になります。

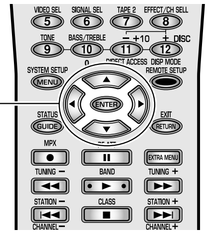
手順3でTV CONTを選択した場合のみTV CONTROLボタンにも登録することができます。

EXTRA MENU内のコマンドを選択したいときはEXTRA MENUボタンを押した後、▲▼ボタンでコマンドを選択し、ENTERボタンで決定します。



ホームシアター入門
各部名称
接続
音場補正
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

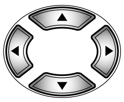
5-8



メモ

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789(スペース)
!”#$%&’()*+,–./:;<=>?@[\ ]^_`{|}~
►◄■●⏻❚❚|↑↓→← •(スペース)

5



入力する文字や記号を▲ ▼ボタンで選び、◄ ►ボタンでカーソルを左右に動かす。

入力できる文字は左記のメモの通りです。
最大8文字まで入力することができます。

6



入力を終了する。

「END」が点滅します。

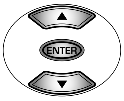
7



もう一度ENTERボタンを押し、入力した名前を確定する。

「Complete」と表示されRemote Setupメニューの表示画面に戻ります。別のボタンのラベルも変更するときは手順2〜7を繰り返してください。

8



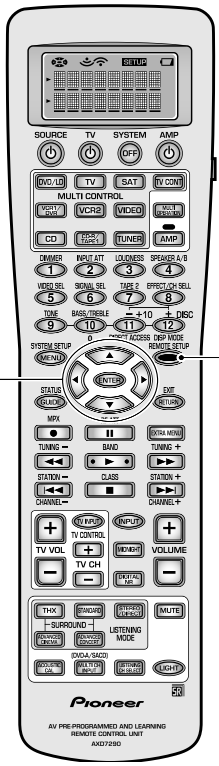
「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

リモコンの明るさ調整（リモコンライト）

リモコンライトの明るさを2段階で調整することができます。

2-4



1

1

REMOTE SETUP

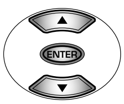


3秒間
押し続ける

リモートセットアップモードにする。

リモコンのディスプレイに「ＳＥＴＵＰ」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

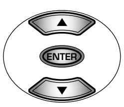
2



「Light」を選んで決定する。

リモコンのディスプレイに<LIGHT>highが表示されます。

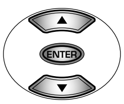
3



「High」か「Low」か「＊Exit＊」を選んで決定する。

「High」：リモコンライトをより明るくします。
「Low」：リモコンライトを通常の明るさにします。
「Exit」：リモコンの明るさ調整を終了します。Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

4



「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

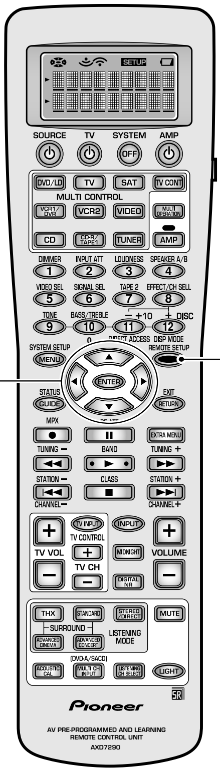
メモ

- 工場出荷時の設定は「Low」です。
- 調整は部屋を暗くした状態で行ってください。

リモコンの設定クリア

本機のリモコンのプリセット、マルチオペレーション設定などをクリアする方法について説明します。

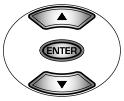
メモ
- 1分間放置するとリモコンのディスプレイは自動的に消えますが、いずれかのボタンを押すとその続きから設定が再開されます。
- リモートセットアップモードを解除したいときは、Remote Setupボタンを押してください。
- リモートセットアップモードを解除しないと、リモコンで本機や他機器を操作することができません。



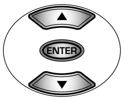
1 

3秒間
押し続ける

リモートセットアップモードにする。
リモコンのディスプレイに「S E T U P 」インジケーターとRemote Setupメニューが表示されます。

2 

「Clear」を選んで決定する。
リモコンのディスプレイに<CLEAR>が表示されます。

3 

リモコンの設定を解除したい項目を選ぶ
「Learning Clear」:「Learningセットアップモード」(➡ P.60)で登録したリモコンコードの設定をクリアします(ボタン1つ)。
「KeyLabel Clear」:「キーラベル」(➡ P.69)によって変更されたラベル(ボタンマーク)をクリアします(ボタン1つ)。
「All Clear」: P.58 〜 P.70 で行ったリモコンに関する全ての設定をクリアし、工場出荷時のメモリ内容に戻します。

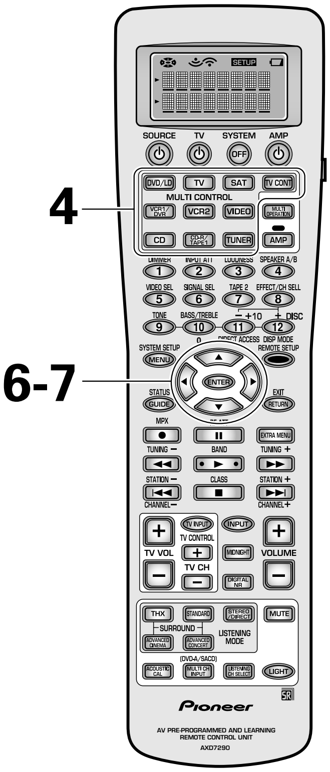
「Learning Clear」を選んで決定する。
「Select Function」が点滅します。
次ページの手順4へお進みください。

「KeyLabel Clear」を選んで決定する。
「Select Function」が点滅します。
手順4へお進みください。

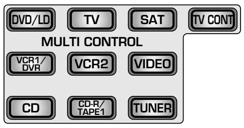
「All Clear」を選んで決定する。
「<CLEAR?>YES」が表示されます。
手順6へお進みください。

「＊Exit＊」を選んで決定する。
リモコンの設定クリアを終了します。
Remote Setupメニューの表示画面に戻ります。

ホームシアター入門
各部名称
接続
音場補正
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料



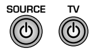
4



設定をクリアしたいボタンのある他機器操作ボタンを選択する。

「Select Key」が点滅します。

5

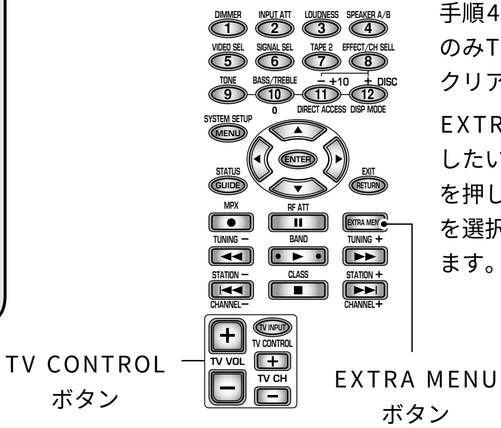


設定をクリアしたい操作ボタンを押す。

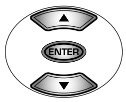
「<CLEAR？> Yes」が表示されます。

手順4でTV CONTを選択した場合のみTV CONTROLボタンの設定をクリアすることができます。

EXTRA MENU内のコマンドを選択したいときはEXTRA MENUボタンを押した後、▲▼ボタンでコマンドを選択し、ENTERボタンで決定します。



6



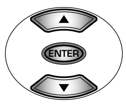
「Yes」か「No」か「＊Exit＊」を選んで決定する。

「Yes」：設定をクリアし、リモコンの設定クリアを終了します。

「No」：設定のクリアを中止し、リモコンの設定クリアを終了します。

「＊Exit＊」：設定のクリアを中止し、リモコンの設定クリアを終了します。Remote Setup メニューの表示画面に戻ります。

7



「Exit」を選んで決定する。

リモートセットアップモードが終了して、リモコンが通常の状態になります。

システムセットアップの設定項目一覧

システムセットアップにするためにはまずリモコンを以下の順番で押してから以下の表をご覧ください。

① AMP ➡ ② SYSTEM SETUP MENU

EXIT RETURN を押すと、すべての設定状態を解除し通常状態に戻ります。

▲▼ 選んで ENTER 決定	▲▼ 選んで ENTER 決定	設定概要	参照ページ
[Auto Surround Setup] (オートセットアップ)	—	音場補正の全項目を自動測定	(➡P.11)
[1.Input Assign] (入力に関する設定)	Digital-In Select (デジタル入力の設定)	デジタル入力端子の割り振り入力ファンクションの変更	(➡P.74)
	C ʼnent Video In (コンポーネント ビデオ入力の設定)	コンポーネントビデオ入力端子の割り振り入力ファンクションの変更	(➡P.75)
[2.Surround Setup] (音場補正) ➡P.33 ～ P.41 で詳しく説明しています。	Speaker Systems (スピーカーシステムの設定)	スピーカーシステムの使用用途、接続の有り無し、低域再生能力などの設定	(➡P.35)
	Channel Delay (スピーカーまでの距離の設定)	各スピーカーまでの距離を入力し、最適なディレイ値に設定	(➡P.38)
	Channel Level (スピーカー出力レベルの設定)	各スピーカーの出力レベルを補正	(➡P.39)
	Acoustic Cal EQ (視聴環境の周波数特性の補正)	出力音声の音色を補正	(➡P.41)
[3.Expert Setup] (エキスパート設定)	OSD Adjustment (OSD[メニュー画面]の設定)	メニュー画面の表示位置(上下左右)調整	(➡P.76)
	Bass Peak Level (超低域音声のピークレベル設定)	超低域音声のリミッター設定「する/解除」の選択と設定値の調整	(➡P.77)
	D-Range Control (ダイナミックレンジコントロール設定)	レンジ圧縮レベルの変更(ドルビーデジタル信号)	(➡P.78)
	Multi-Ch In Select (マルチチャンネル入力関連の設定)	マルチチャンネル入力信号の出力方法の設定	(➡P.79)
	Function Rename (入力ファンクション表示の設定)	入力ファンクションごとの表示文字列の変更	(➡P.80)
[4.THX Audio Setup] (THXオーディオ設定)	Ultra2 SW Setup (Ultra2サブウーファーの設定)	THX Ultra2準拠のサブウーファーに対する低域制御フィルターのON/OFF設定	(➡P.81)
	SurBack SP Position (サラウンドバックスピーカー間の距離の設定)	サラウンドバックスピーカー間の距離の設定	(➡P.82)
	Re-Equalization (Re-EQフィルターの設定)	Re-EQ[ON/OFF]の変更	(➡P.83)
[EXIT] 設定の終了(通常状態へ)			

Input Assign（入力に関する設定）

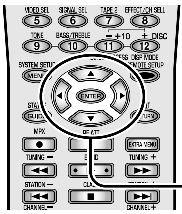
Digital-In Select（デジタル入力の設定）

デジタル入力端子（DIGITAL 1～5とDD RF IN）に接続したデジタル機器が、工場出荷時の設定（右表）と異なるときに設定します。RF IN入力はLDプレーヤーやDVD／LDプレーヤーのDD RF端子に対応します。

- Digital-1～5には[TUNER]、[PHONO]、[VIDEO]を選ぶことができません。
- DDRF INには[TUNER]、[PHONO]、[VIDEO]、[CD]、[CD-R]を選ぶことができません。

IN 1	DVD/LD
IN 2	CD
IN 3	SAT
IN 4	VCR1/DVR
IN 5	CD-R/TAPE1/MD
DDRF IN	DVD/LD

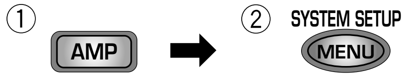
メモ　工場出荷時の各入力端子の設定は右の図の通りです。



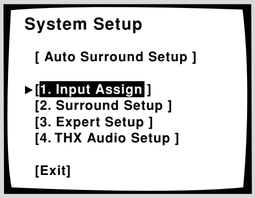
▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

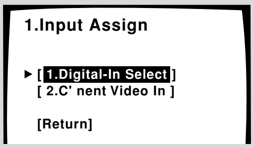
1~6

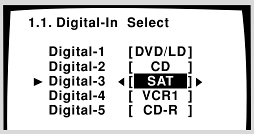
リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

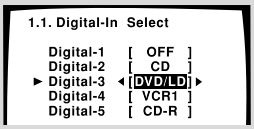


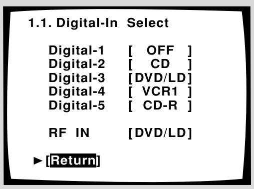
以下はOSD画面（テレビ画面）です

1


2


3


4


6


1 **[1.Input Assign]を選択して決定する。**

入力に関する設定のメニュー画面になります。

2 **[1.Digital-In Select]を選択して決定する。**

デジタル入力の設定になります。

3 **変更したい入力を選択する。**

例えばDIGITAL-3を[SAT]から[DVD/LD]に変更したいときはDIGITAL-3を選びます。

4 **手順3で選んだ入力を◄ ►ボタンで変更する。**

例えばDIGITAL-3を[SAT]から[DVD/LD]に変更したいときは[DVD/LD]を選びます。

5 **他にも工場出荷時の設定ではない接続を行い、入力の変更が必要な場合は、手順3と4を繰り返します。**

6 **「Return」を選択して決定する。**

デジタル入力の設定を終了します。

次ページの「C 'nent Video In」に進みます。この場合、75ページ手順2へ進みます。

メモ　Digital-1～5で、同じ入力を選択することはできません。同じ入力を選択した場合は、元に設定されていた入力がOFFに切り換わります。

C 'nent Video In（コンポーネントビデオ入力の設定）

COMPONENT VIDEO入力端子（コンポーネントまたはD端子）に接続した映像機器が工場出荷時の設定と異なるときにこの設定を行います。

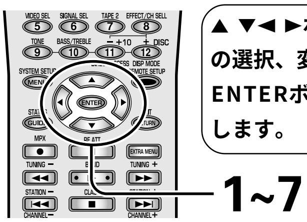
- 選択できる入力は[DVD/LD]、[TV/DVD]、[SAT]、[VCR1]、[VCR2]です。

メモ　工場出荷時の各入力端子の設定は右の図の通りです。

IN 1	DVD/LD
IN 2	TV/DVD
IN 3	VCR2

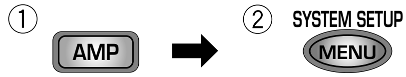
D4 VIDEO

IN 4	SAT
IN 5	VCR1/DVR



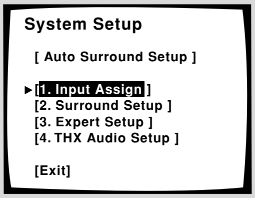
▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

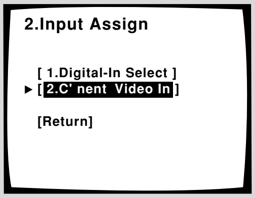


以下はOSD画面（テレビ画面）です

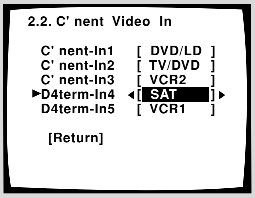
1



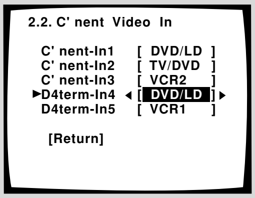
2



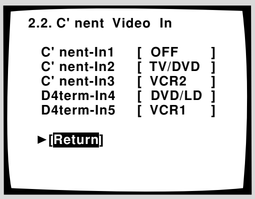
3



4



5



1 **[1.Input Assign]を選択して決定する。**
入力に関する設定のメニュー画面になります。

2 **[2.C 'nent Video In]を選択して決定する。**
コンポーネントビデオ入力の設定になります。

3 **変更したい入力を選ぶ。**
例えばD4term-In4を[SAT]から[DVD/LD]に変更したいときはD4term-In4を選びます。

4 **手順3で選んだ入力を◄ ►ボタンで変更する。**
例えばD4term-In4を[SAT]から[DVD/LD]に変更したいときは[DVD/LD]を選びます。

5 **他にも入力の変更を行う場合は、手順3と4を繰り返します。**

6 **[Return]を選択して決定する。**
コンポーネントビデオ入力の設定を終了します。

7 **もう一度[Return]を選択して決定する。**
「Surround Setup」に進む場合は、36ページ手順1へ進みます。「Expert Setup」に進む場合は、76ページ手順1へ進みます。System Setupを終了したい場合は、「Exit」を選んで決定します。

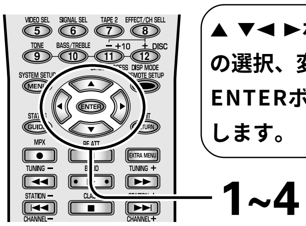
メモ

- C 'nent-In1～3およびD4 term-In4～5で、同じ入力を選択することはできません。同じ入力を選んだときは、先に設定されていた入力がOFFに切り換わります。
- コンポーネントやD端子から入力された信号はSビデオ出力端子、コンポジット出力端子には出力されません。

Expert Setup（エキスパート設定）

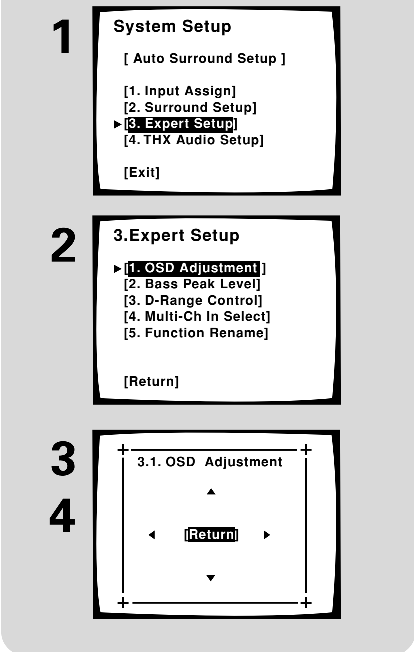
OSD Adjustment（OSD[メニュー画面]の調整）

OSD（オンスクリーンディスプレイ[メニュー画面]）をお手持ちのテレビの中央で表示できるように調整します。OSDに表示される文字が切れないようにする機能です。

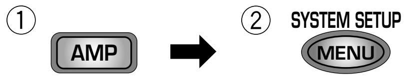


▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

以下はOSD画面（テレビ画面）です



リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



1 **[3.Expert Setup]を選択して決定する。**

エキスパート設定のメニュー画面になります。

2 **[1.OSD Adjustment]を選択して決定する。**

OSD（メニュー画面）の調整になります。

3 **▲ ▼◄ ►ボタンを押して画面内の枠を中央に調整する。**

4 **ENTERボタンを押して決定する。**

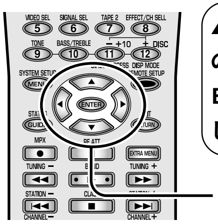
OSD（メニュー画面）の調整を終了します。

次ページの「Bass Peak Level」に進みます。

この場合、77ページ手順2へ進みます。

Bass Peak Level（超低域音声のピークレベル設定）

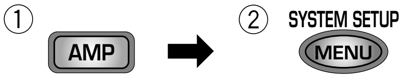
ドルビーデジタルおよびDTS対応のソフトは超低域信号成分（LFEチャンネル）を多く含んでいます。この超低域周波数信号がスピーカーの再生能力を超えると、再生音声に歪みが生じることがあります。ここでは、LFEチャンネルのピークレベルを設定する方法について説明します。ピークレベルを設定することにより歪みを防止します。



1~5

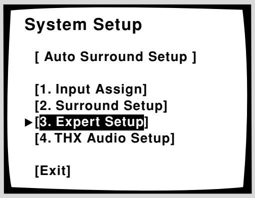
▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

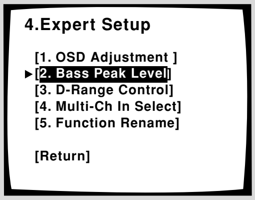


以下はOSD画面（テレビ画面）です

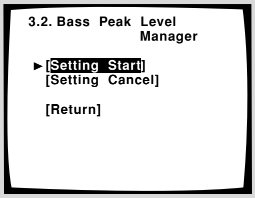
1

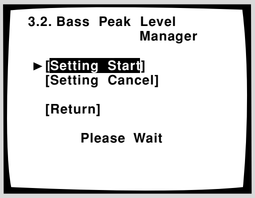


2

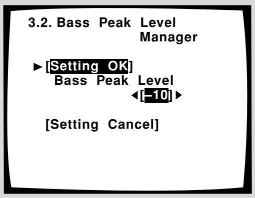


3

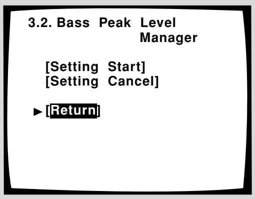




4



5



1 [3.Expert Setup]を選択して決定する。

エキスパート設定のメニュー画面になります。

2 [2.Bass Peak Level]を選択して決定する。

超低域音声のピークレベル設定になります。

3 [Setting Start]か[Setting Cancel]を選んで決定する

[Setting Start]：テストトーンを再生し、設定を行います。
[Setting Cancel]：LFEチャンネルのピークレベルを設定しません。

[Setting Start]を選んだときは

自動的にMASTER VOLUMEが最小（–––）になります。手順4へお進みください。

[Setting Cancel]を選んだときは

手順5へお進みください。

4 テストトーンを◄ ►ボタンで大きくしていき、スピーカーからの音に歪みが生じる手前まで調整する。

サブウーファーで有りまたはPLUSが選択されている場合は、サブウーファーからのみテストトーンが再生されます。
サブウーファーが無しの場合は、サブウーファー以外の大（LARGE）に設定されているスピーカーからテストトーンが再生されます。

5 [Return]が選ばれていることを確認して決定する。

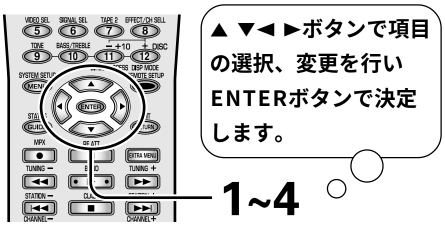
超低域音声のピークレベル設定を終了します。
「D-Range Control」に進みます。この場合、78ページ手順2へ進みます。

メモ

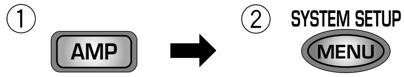
- THX Ultra2準拠のサブウーファーをご使用の場合、バスリミッター機能が内蔵されていますので、この設定は必要ありません。
- MULTI CH IN モードでは、この設定は無効になります。

D-Range Control（ダイナミックレンジコントロールの設定）

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さい音から大きい音までを正しく（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画などを楽しむ場合でも、ダイナミックレンジコントロールを設定することで微小な音も聞き取りやすくなります。ダイナミックレンジコントロールの効果が得られるのは、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソフトだけですが、ほかのソフトでもミッドナイトリスニングモードで同様の効果が得られます。



リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



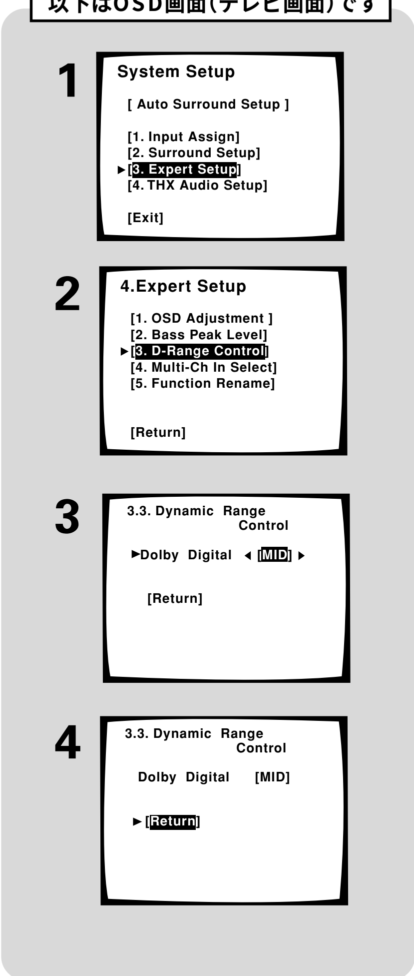
1 **[3.Expert Setup]を選択して決定する。**
エキスパート設定のメニュー画面になります。

2 **[3.D-Range Control]を選択して決定する。**
ダイナミックレンジコントロールの設定になります。

3 **[OFF]、[MID]、[MAX]のいずれかを◄ ►ボタンで選ぶ。**
[OFF]：ダイナミックレンジを圧縮しません。
[MID]：ダイナミックレンジを多少圧縮します。
[MAX]：ダイナミックレンジを最大に圧縮します。

4 **[Return]を選択して決定する。**
ダイナミックレンジコントロールの設定を終了します。
「Multi-Ch In Select」に進みます。この場合、79ページ手順2へ進みます。

以下はOSD画面（テレビ画面）です



メモ

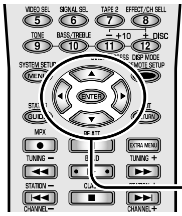
- 大きい音量で楽しむときは、Dynamic Range ControlをOFFにすることをおすすめします。
- さまざまなドルビーデジタル対応ソフトを小音量でお試しください。

Multi-Ch In Select（マルチチャンネル入力関連の設定）

お手持ちの7.1chスピーカーシステムをDVDオーディオ再生と両立させるための設定です。「DVDオーディオ用スピーカー配置」(P.30)を参考にして、サラウンドch入力信号をどのスピーカーから出力させるかを選択します。現在のスピーカー配置に合ったものをお選びください。「スピーカーシステムの設定」(P.35)でサラウンドバックスピーカーを「無し」または「×1」で設定した方は、この項目は選択できません。

[Through]　：基本的に信号が入力されたチャンネルと同じスピーカーから出力されます。
[S→SB]　：サラウンドch入力信号を、サラウンドバックスピーカーからのみ出力します。
[S→S＆SB]：サラウンドch入力信号を、サラウンドとサラウンドバックスピーカーの両方から出力します。

「S→SB」「S→S＆SB」を選択した場合、サラウンドバックchに信号を入力していてもその信号は再生されませんのでご注意ください。

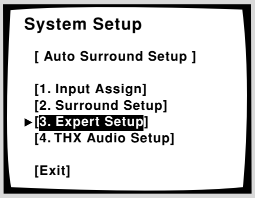


▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

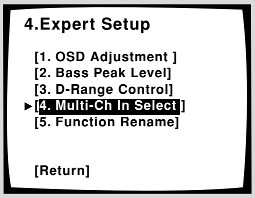
1~4

以下はOSD画面（テレビ画面）です

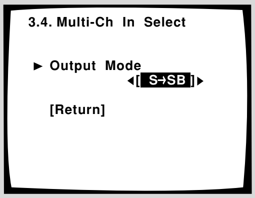
1



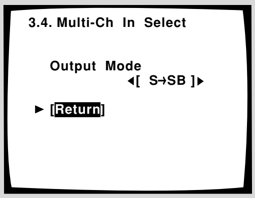
2



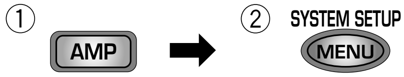
3



4



リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



1　**[3.Expert Setup]を選択して決定する。**
エキスパート設定のメニュー画面になります。

2　**[4.Multi-Ch In Select]を選択して決定する。**
マルチチャンネル入力関連の設定になります。

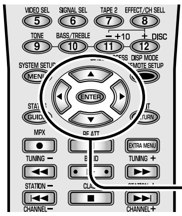
3　**◄ ►ボタンで出力タイプを選ぶ。**
[Through]、[S→SB]、[S→S＆SB]の中から選びます。
詳細は上記説明をご覧ください。

4　**[Return]を選択して決定する。**
マルチチャンネル入力関連の設定を終了します。
「Function Rename」に進みます。この場合、80ページ手順2へ進みます。

ホームシアター入門
各部名称
接続
音場補正
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

Function Rename（入力ファンクション表示の設定）

フロントパネルディスプレイに表示される入力ファンクション名を変更することができます。例えばVCR1/DVRの入力端子にDVRを接続したとき、ディスプレイ表示を接続した機種の型番などに変更できる便利な機能です。各入力ファンクションごとに接続された機器の名称やメーカー名などを入力すれば、どこの入力ファンクションにどんな機器が接続されているのかを簡単に確認することができます。

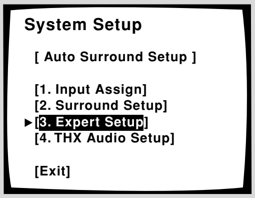


▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

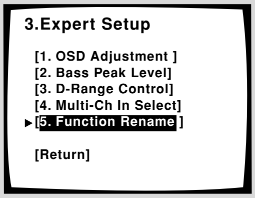
1~8

以下はOSD画面（テレビ画面）です

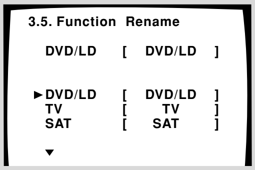
1



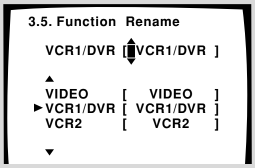
2



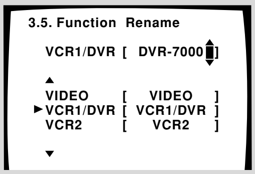
3



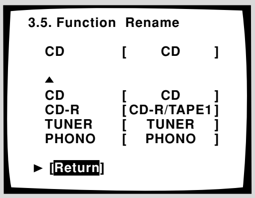
3
4



4
5

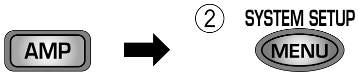


7



リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① → ②



1 **[3.Expert Setup]を選択して決定する。**

エキスパート設定のメニュー画面になります。

2 **[5.Function Rename]を選択して決定する。**

ファンクション表示の設定になります。

3 **名前を変更したいファンクションを選択して決定する。**

文字入力画面になります。
すべてのファンクションは3つの画面に分かれています。
（▲ ▼ボタンで順次切り換わります）

4 **◄ ►ボタンでカーソルを動かして、▲ ▼ボタンで入力する文字を選ぶ。**

入力できる文字は以下の通りです。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789
!"#$%&'()*+,–./:;<=>?@[\ ]^_{|}（スペース）

▲ ▼ボタンを押し続けると文字が高速スクロールします。

5 **手順4を繰り返して入力ファンクション名を入力する。**

6 **ENTERボタンを押して入力ファンクション名を決定する。**

他にも名前を変更したい入力ファンクションがある場合は、手順3〜5を繰り返します。

7 **[Return]を選択して決定する。**

入力ファンクション表示の設定を終了します。

8 **もう一度[Return]を選択して決定する。**

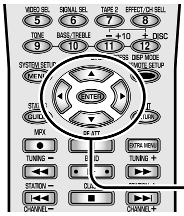
「THX Audio Setup」に進みます。この場合、81ページ手順1へ進みます。

THX Audio Setup（THXオーディオ設定）

Ultra2 SW Setup（Ultra2サブウーファーの設定）

THX Ultra2準拠のサブウーファーなど、超低域再生能力のあるスピーカーを家庭で使用すると建物の共鳴や定在波の発生などにより、極端に低音が響く音質となってしまいます。このようなスピーカーをお使いの方は、この設定でBoundary Gain CompensationをONにすると、低域成分が補正されます。

Boundary Gain Compensationについて、詳しくは「THX」(➡ P.91)をご覧ください。

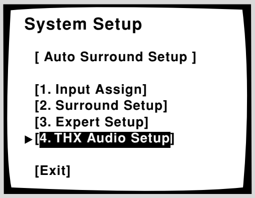


▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

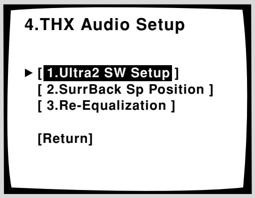
1~5

以下はOSD画面（テレビ画面）です

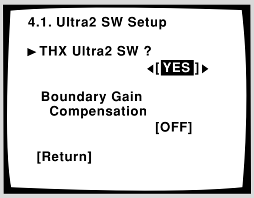
1



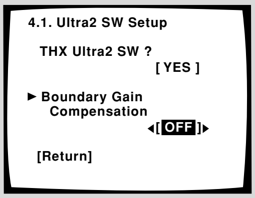
2



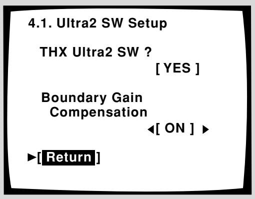
3



4



5



リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。

① AMP ➡ ② SYSTEM SETUP MENU





1 [4.THX Audio Setup]を選択して決定する。

THXオーディオ設定のメニュー画面になります。

2 [1.Ultra2 SW Setup]を選択して決定する。

低域制御フィルターの設定になります。

3 THX Ultra2準拠のサブウーファーをお使いの場合は◄ ►ボタンで[YES]を選び「Boundary Gain Compensation」を選ぶ。

[NO]を選んだ場合、「Boundary Gain Compensation」を選択することはできません。

4 [ON]か[OFF]のどちらかを◄ ►ボタンで選択する

5 [Return]を選択して決定する。

Ultra2サブウーファーの設定を終了します。
「SurBack SP Position」に進みます。この場合、82ページ手順2へ進みます。

メモ 手順3にて[YES]を選ぶと「超低域音声のピークレベル設定」(➡ P.77)はキャンセル（設定無し）になりますのでご注意ください。

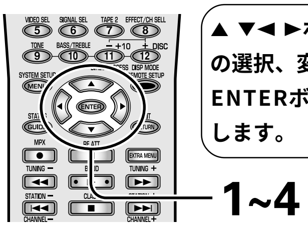
THX Ultra2 準拠のサブウーファーとは

従来のTHX準拠サブウーファーの低域特性は、35Hz以下を12dB/octaveで減衰させています。これは小さい部屋では壁面の影響で空間利得が生じ、35Hz以下の周波数が自然と持ち上がってしまうためです。双方の特性（サブウーファー特性と空間利得）により、20Hzまでフラットな周波数特性となります。

2001年に認可を開始したTHX Ultra2準拠のサブウーファーは20Hzまで低域特性を伸ばしています。よって、リスナーとサブウーファーの位置によっては、低域周波数帯の聴感レベルが極端に大きくなる可能性があります。その場合はこの設定をONにすることにより、壁面の影響によって生じた低域の空間利得を補正し、聴感レベルをフラットにします。

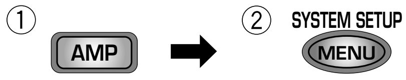
SurBack SP Position（サラウンドバックチャンネル間の距離の設定）

THX Ultra2規格にて新規に開発されたASA（Advanced Speaker Array）技術を用いた、THX Ultra2 CinemaとTHX MusicModeに最適な効果をもたらすための設定です。サラウンドバックスピーカー間の距離が1.2m以上か未満かによって処理を変化させます。THXの推奨するスピーカー配置は下図の通りです。
「スピーカーシステムの設定」（➡ P.35）でサラウンドバックスピーカーを「無し」または「×1」で設定したときは、この項目は選択できません。



▲ ▼◀ ▶ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



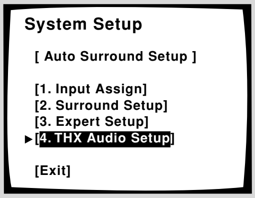
1 **[4.THX Audio Setup]を選択して決定する。**
THXオーディオ設定のメニュー画面になります。

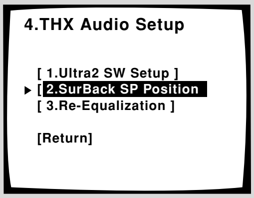
2 **[2.SurBack SP Position]を選択して決定する。**
サラウンドバックチャンネル間の距離の設定になります。

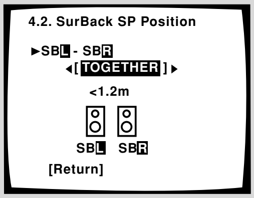
3 **「TOGETHER」か「APART」のどちらかを◀ ▶ボタンで選ぶ。**
「TOGETHER」：サラウンドバックch間の距離が1.2m未満の場合。
「APART」：サラウンドバックch間の距離が1.2m以上の場合。

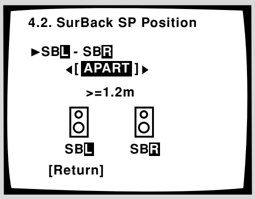
4 **[Return]を選択して決定する。**
サラウンドバックチャンネル間の距離の設定を終了します。
「Re-Equalization」に進みます。この場合、83ページ手順2へ進みます。

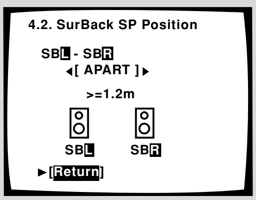
以下はOSD画面（テレビ画面）です

1


2


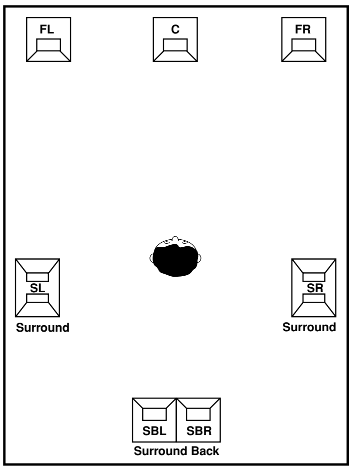
3


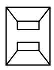


4


THXの推奨するスピーカー配置

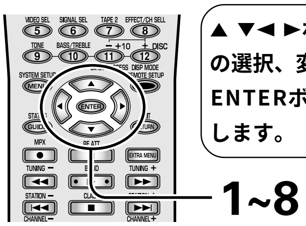
サラウンドバックスピーカーは隣接させ、それぞれリスニングポジションから等距離となるように設置します。




ダイポール型スピーカー

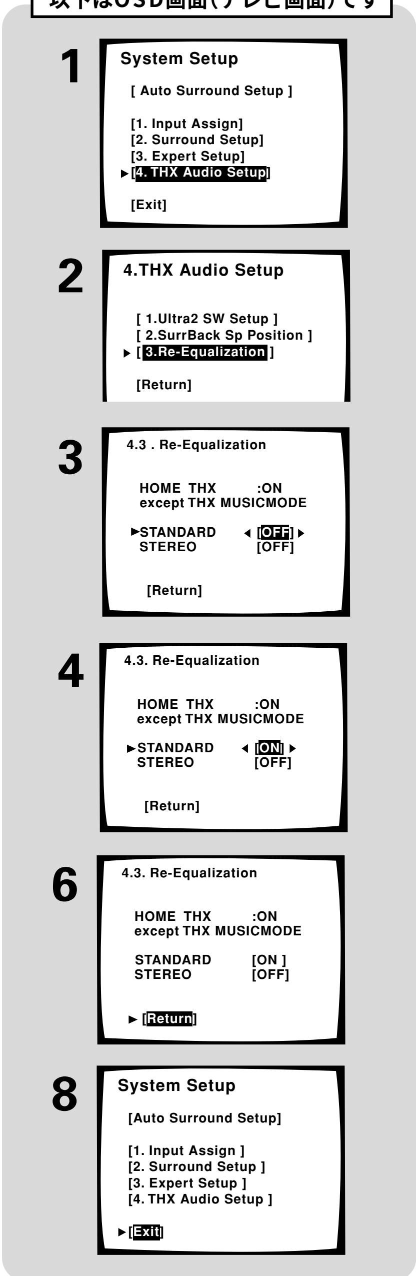
Re-Equalization（Re-EQフィルターの設定）

映画ソースがミックスダウンされるスタジオや映画館は大変広い空間のため、一般家庭とは聞こえ方が異なります。この違いを補正するのがRe-EQフィルターです。Re-EqualizationはTHXにより定められた技術なのでHOME THXモードではONに固定されています。この設定ではSTANDARDモード、STEREOモードに対して、Re-EQフィルターのON/OFFを選択することができます。

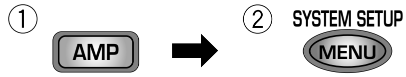


▲ ▼◄ ►ボタンで項目の選択、変更を行いENTERボタンで決定します。

以下はOSD画面(テレビ画面)です



リモコンのボタンを以下の順番で押してから手順1へお進みください。



1 **[4.THX Audio Setup]を選択して決定する。**
THXオーディオ設定のメニュー画面になります。

2 **[3.Re-Equalization]を選択して決定する。**
Re-EQフィルターの設定になります。

3 **Re-EQフィルターを「ON」したいモードを選択する。**

4 **◄ ►ボタンでRe-EQフィルターを「ON」するか「OFF」するかを選択する。**

5 **それぞれのモードに手順3～4を繰り返す。**

6 **[Return]を選択して決定する。**
Re-EQフィルターの設定を終了します。

7 **[Return]を選択して決定する。**
THXオーディオ設定を終了します。
System Setupのメニュー画面に戻ります。

8 **[Exit]を選択して決定する。**
System Setupを終了します。

メモ

- ADVANCED CINEMAモードで聴いているときにはSTANDARDモードについての設定が反映されます。
- Re-EQフィルターをONにすると、サンプリング周波数fs：96 kHzのソフト(DTS 96/24を含む)はfs：48 kHzにダウンサンプリングして再生されます。

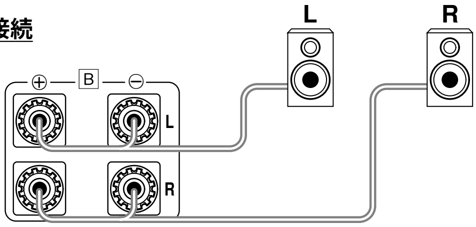
スピーカーシステムA/Bの使いこなし

スピーカー端子B を使うと、さまざまスピーカーシステムを組むことができます。公称インピーダンスが6 Ω〜16Ωのスピーカーをご使用ください。それぞれの接続、設定については以下の説明をご覧ください。

別エリアでのステレオ再生

寝室やキッチンなど、メインのリスニングルームとは別の場所のステレオ再生が可能です。

・接続



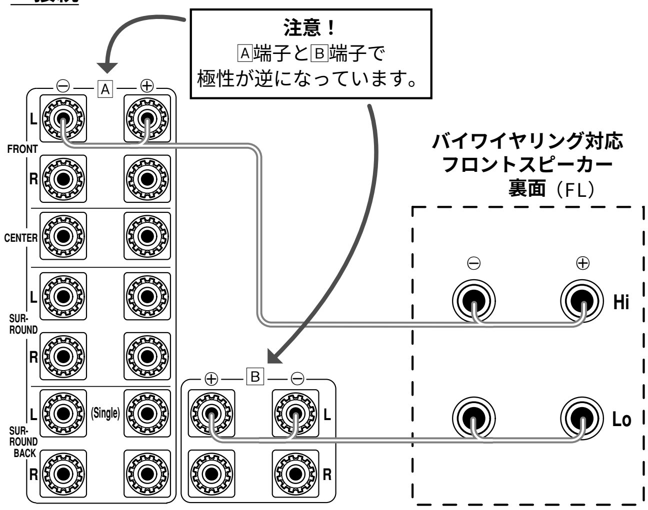
・スピーカーシステムの設定(➡ P.35)
「Normal Surround」を選択してください。

・スピーカーシステムA/B切り換え(➡ P.85)
必要に応じて切り換えてください。切換時の音声出力については次ページ「スピーカーシステムA/B切り換え」をご覧ください。

フロントスピーカーのBi-Amp接続

フロントch用スピーカーがバイワイヤリング対応であれば、さらに高品位なBi-Amp再生が可能です。ただし、この場合は設定(下記参照)が必要でスピーカーシステムも最大5.1chまでとなります。

・接続



・スピーカーシステムの設定(➡ P.35)
「Front Bi-Amp(5.1)」を選択してください。
サラウンドバックchは自動的に「無し」に固定され、最大5.1chのシステムになります。

・スピーカーシステムA/B切換(➡ P.85)
A+B(SP►AB)が通常再生状態となります。
このシステムではサラウンドバックch用の回路をスピーカー端子Bに使用しますので、サラウンドバックchのプリアウト端子は端子Bと同じ出力になります。

スピーカー端子Aのフロントとスピーカー端子Bからは同じ音が出力されますので、Hi/LoはA/Bのどちらとでも接続できます。

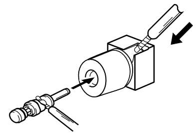
注意 フロントスピーカーのBi-Amp接続をするときはアンプへの悪影響を防ぐため、スピーカーに付属されているHi-Loのショート金具は必ずはずしてください。詳しくはスピーカーの取扱説明書もご覧ください。

メモ

ネットワークが着脱できるスピーカーの場合、ネットワークが外れたままだと効果が得られませんのでご注意ください。

Bi-wire(バイワイヤ接続の場合)

7.1chでシステムを組む場合は、Bi-AmpではなくBi-wire接続にします。スピーカー端子A に、バイワイヤリング対応スピーカーのHiとLoの2本を並列に接続してください。(端子Bは使用しません)

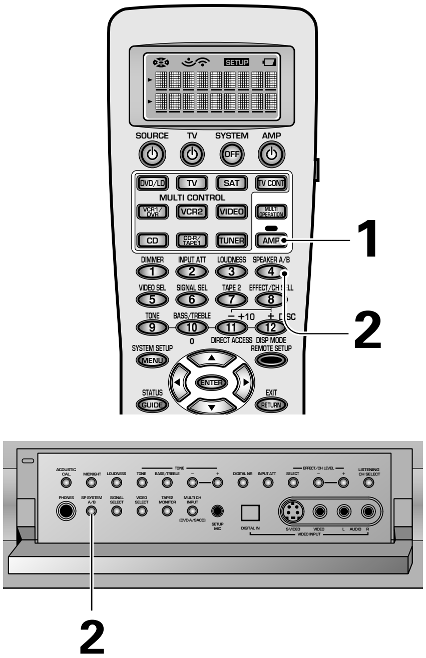


1本はバナナプラグを用いると便利です

「Normal Surround」設定のままでご使用ください。

スピーカーシステムA/Bの切り換え

スピーカーシステムA/Bを切り換えると、再生されるスピーカーが変わります。必要に応じて使用するスピーカーシステムを選択してください。



1



リモコンをアンプ操作モードにする。

2



スピーカーシステムを切り換える。

ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

→ A → B → A＋B → OFF ─┘

スピーカーシステムの設定によって選択できるモードが換わります。

メモ

- ヘッドホンをヘッドホンジャックに差し込んでいる間は自動的にOFFに切り換わります。

スピーカーシステムA、B、A+Bについて

「スピーカーシステムの設定」(➡ P.35)で「Normal Surround」に設定されている場合、スピーカー端子やプリアウト端子からの出力音声はスピーカーシステムの切り換えに応じて次のように変わります。
特にSP►AB選択時にはサラウンド再生になりませんのでご注意ください。
スピーカーシステムを「Bi-Amp」に設定している場合は前ページをご覧ください。

A（SP►A）　：スピーカー端子Ⓐのスピーカー（とサブウーファー）から音が出ます。プリアウト端子からも基本的に同じ音が出力されます。

B（SP►B）　：スピーカー端子Ⓑのスピーカーからのみ音が出ます。全ての音声成分は2chにダウンミックスされます。プリアウト端子のフロントchからも同じ音が出力されます。

A+B（SP►AB）：スピーカー端子Ⓐ のフロントスピーカー（とサブウーファー）、スピーカー端子Ⓑ のスピーカーから音が出ます。2chへのダウンミックス再生です。
- **センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーからは音は出ません。**
- サブウーファーを有り（YES/PLUS）に設定しているとき、LFE成分はサブウーファーからのみ再生されます。
- スピーカー端子Ⓑおよびプリアウト端子とスピーカー端子Ⓐのフロントchは同じ音が出力されます。

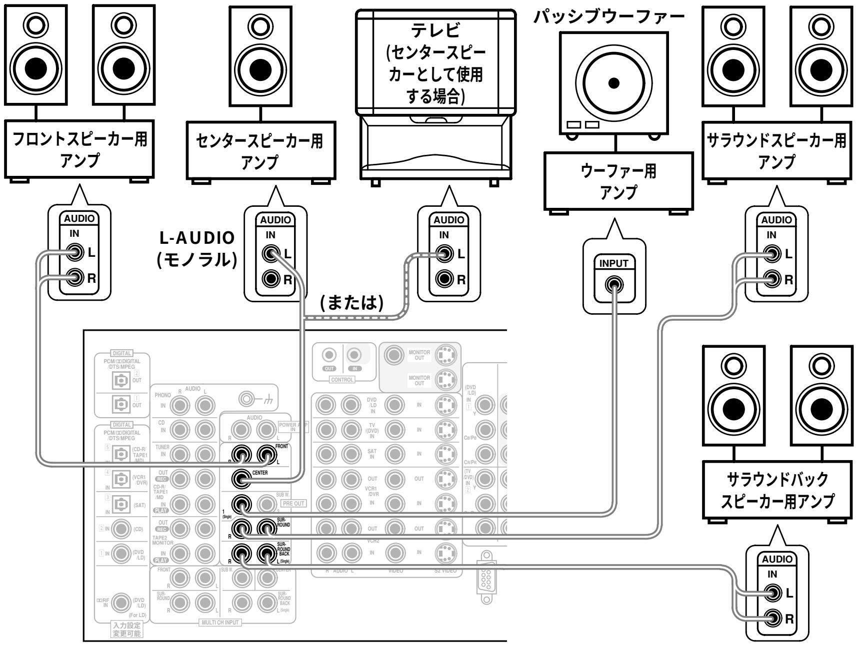
OFF（SP►　）：スピーカーからは音が出ません。ただし、入力信号の種類やスピーカーシステムの設定によってはサブウーファーからのみ音が出ます。プリアウト端子からはAを選んだときと同じ音が出力されます。

プリアウト端子のサラウンドバックchからの出力音声は、「スピーカーシステムの設定」(➡ P.35)や「マルチチャンネル入力関連の設定」(➡ P.79)によって変わります。

他のパワーアンプの接続

付属のショートピンプラグを抜いてから接続してください。（通常は付属のショートピンを抜かずにショートしてご使用ください。ショートピンを抜いたままではフロントスピーカーから音が出ません。）

他のアンプをパワーアンプとして本機と組み合わせることができます。各プリアウト端子から出力される音はスピーカーシステムによって変わります。詳しくは「スピーカーシステムA / Bの切り換え」（➡ P.85）をご覧ください。



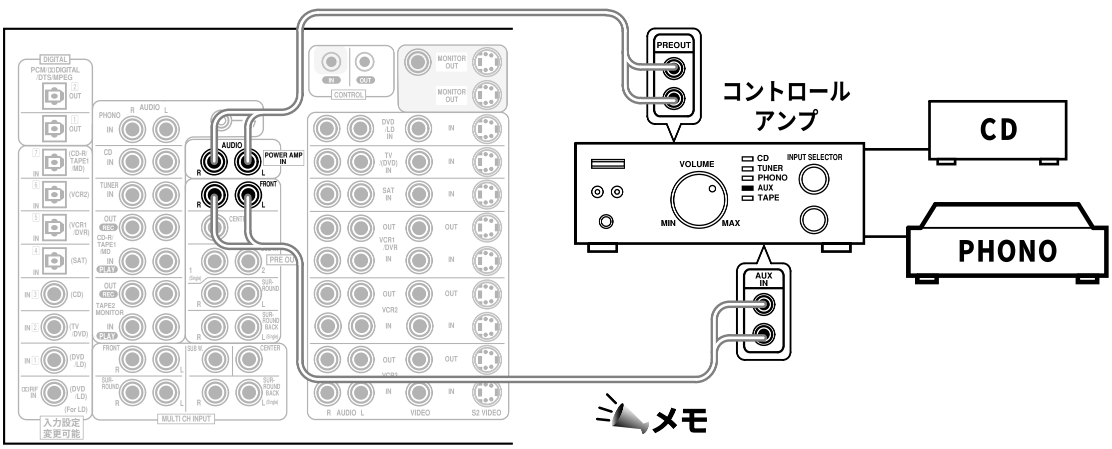
メモ

この接続を行った場合、個々のアンプの能力やボリューム位置などにより音場補正を正確に行うことができない場合があります。

プリアウトパワーインについて

付属のショートピンプラグを抜いてから接続してください。（通常は付属のショートピンを抜かずにショートしてご使用ください。ショートピンを抜いたままではフロントスピーカーから音が出ません。）

他のコントロールアンプと接続して使用することができます。

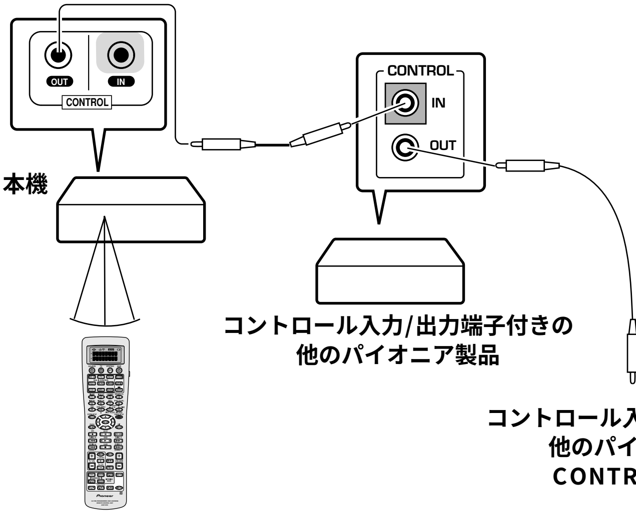


メモ

- コントロールアンプのプリアウト端子と本機のPOWER AMP IN端子を接続しないと、本機のスピーカー端子から音は出ません。

コントロール入力/出力コードの接続

コントロール入力/出力端子の付いた複数のパイオニア製品を、本機のリモコン受光部を使って集中コントロールすることができます。リモコン受光部を持たない機器や、受光部が信号を受けられないところに設置した機器もリモコン操作が可能となります。



メモ

- 本機のCONTROL IN端子にコントロールコードを接続すると、リモコンを本機に向けて直接操作することはできません（リモコン信号受光部が機能しなくなります）。
- 接続には市販のモノラルミニプラグ付きコード（抵抗なし）をお使いください。
- コントロール端子の接続をする場合は、必ず音声ケーブルまたは映像ケーブルの接続もしてください。光デジタル接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

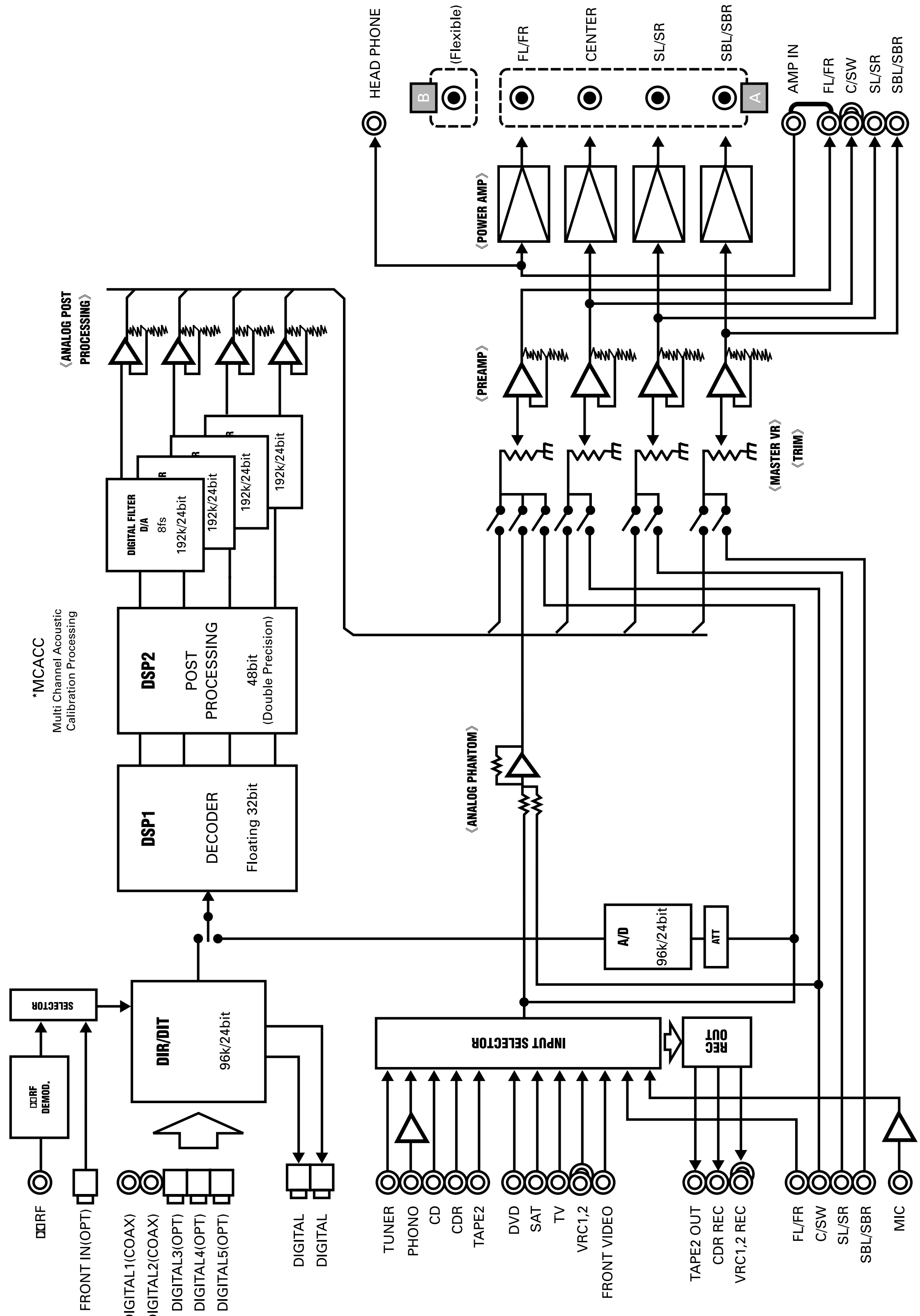
リスニングルームの整備

マルチチャンネルサラウンドの再生では、視聴環境（リスニングルーム）の違いが音質（音の透明度や定位感など）に大きく影響を与えます。特に、定在波と過度な残響音は電気的に除去することができませんので、以下の点に留意し、色々とお試しください。

① 正方形の部屋を避ける
② 部屋の辺の長さの比が1：2などの整数倍になっている部屋を避ける
③ 平行な壁面（向かい合った壁や天井など）に対し、定在波や残響音の発生を防止する
(厚手のカーペットを敷く、吸音材を置く、厚手のカーテンを吊るすなど)
④ スピーカーユニットが他のチャンネルのスピーカーユニットと向かい合わせにならないよう、方向や位置を考える
(他チャンネルの出力音声によるスピーカーユニットの干渉を避ける)

スピーカーの配置やリスニングルームの環境を変えたときは「音場補正」(➡ P.32 ～ P.41)を行ってください。
本機にはMulti-Channnel Acoustic Calibration Systemを搭載していますので、オートセットアップ(➡ P.10 ～ P.13)を行うことにより音場補正を自動で簡単に行うことができます。

ブロック図

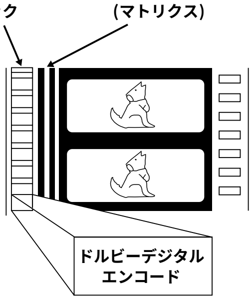

HEAD PHONE
(Flexible)
B
FL/FR
CENTER
SL/SR
SBL/SBR
A
AMP IN
FL/FR
C/SW
SL/SR
SBL/SBR
《POWER AMP》
《ANALOG POST PROCESSING》
《PREAMP》
《MASTER VR》
《TRIM》
DIGITAL FILTER
D/A
8fs
192k/24bit
192k/24bit
192k/24bit
192k/24bit
*MCACC
Multi Channel Acoustic
Calibration Processing
DSP2
POST PROCESSING
48bit
(Double Precision)
《ANALOG PHANTOM》
DSP1
DECODER
Floating 32bit
A/D
96k/24bit
ATT
SELECTOR
RF DEMOD.
DIR/DIT
96k/24bit
INPUT SELECTOR
REC OUT
RF
FRONT IN(OPT)
DIGITAL1(COAX)
DIGITAL2(COAX)
DIGITAL3(OPT)
DIGITAL4(OPT)
DIGITAL5(OPT)
DIGITAL
DIGITAL
TUNER
PHONO
CD
CDR
TAPE2
DVD
SAT
TV
VRC1,2
FRONT VIDEO
TAPE2 OUT
CDR REC
VRC1,2 REC
FL/FR
C/SW
SL/SR
SBL/SBR
MIC

サウンドフォーマットについて

ドルビー

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビーのマルチチャンネル音声システムのディスクリート・デジタルサラウンド方式の名称です。アナログ音声を記録した従来の映画フィルム上にデジタル音声も記録できる、映画業界にとって互換性の高い方式です。



映画フィルムでのドルビーデジタル

しかし、CD等で用いられるリニアPCM音声方式のマルチチャンネル化では記録信号のデータ量が膨大になってしまうため、人間の聴覚特性に基づいたマスキング技術と適用型トランスフォームコーディングにより聴覚上の音質低下を招かないドルビーデジタル技術が開発されました。
ドルビーデジタルはDVDビデオの標準音声方式としても採用され、米国ではHDTVでも採用されるなど、デジタル時代の標準フォーマットとなっています。
その他の特長としては以下のような機能があり、ドルビーデジタルは柔軟性の高いコーディングシステムです。

1） モノ、ステレオ、プロロジック対応の構成および5.1ch音声の再生に最適なダウンミキシング
2） 広範囲のビットレートにわたる動作
3） ダイナミックレンジ情報を伝達する機能
4） ダイアログノーマライゼーション機能

   ダイアログノーマライゼーション機能とは平均的音量レベルが異なるさまざまなソフトでも、一定の音量で再生されるように自動調整する機能です。「Dial. Norm.」と表現されることもあります。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックを更に改良し、ステレオ音声を5.1chに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5chを作り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1chに匹敵する移動感をも実現できるものです。

■プロロジックとプロロジックIIの違い

	プロロジック	プロロジックII
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1ch（サラウンドモノラル）	5.1ch（サラウンドステレオ）
周波数特性	サラウンド7kHz帯域制限	全チャンネルフルバンド

本機にはプロロジックIIの機能として　Movieモード（映画再生向き）/Musicモード（音楽再生向き）/Pro Logicモードを用意しており、お好みに合わせて切り替えることが可能です。

プロロジックII製品は、プロロジックIIの持つ様々な機能を、選択して搭載することが可能です。プロロジックII搭載、とキャッチフレーズされた商品でも、必ずしも全く同じ機能を持っているとは限らないことにご注意ください。

ドルビーデジタルサラウンドEX

ドルビーデジタルサラウンドEXは、映画「スターウォーズ・エピソード1」の製作に向けて、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社で共同開発された、6.1ch再生可能な新しい音響フォーマットです。
新たに加えられたサラウンドバックchにより空間表現力、定位感が高められ、中央から離れた客席からでも360度の回転や頭上を通過するような移動音効果・音像をより生々しく体感することが可能となりました。フィルム上ではサウンドトラックのサラウンドL/Rchにエンコードされるため、既存のドルビーデジタル(5.1ch)環境での再生互換性があります。この技術により製作された映画のリストはドルビーラボラトリーズのウェブサイトにてご覧になれます。
http://www.dolby.com/
映画館向けに開発されたこの技術の効果を一般家庭で最大限得られるようにしたものが[THX Surround EX]再生技術です。（詳細 ➡ P.91 [THX Surround EX]）
（本機ではTHX Surround EX再生が可能です。）

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)

MPEG-2オーディオの標準方式の一つとして、ISOで規格化(ISO/IEC 13818-7)された音声符号化フォーマットです。MPEG-1オーディオに対する下位互換性はありませんが、高圧縮率(低ビットレート)にもかかわらず高音質を確保できる点が特長で、2000年の年末から始まったBSデジタル放送で採用されました。番組内容によりマルチチャンネル設定が可能で、今後日本のデジタル地上波放送でも採用が予定されています。
以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5,583,962	98/03037	08/039,478	5,264,846
5848391	5,274,740	97/02875	08/211,547	5,268,685
5,291,557	5,633,981	97/02874	5,703,999	5,375,189
5,451,954	5 297 236	98/03036	08/557,046	5,581,654
5 400 433	4,914,701	5,227,788	08/894,844	05-183,988
5,222,189	5,235,671	5,285,498	5,299,238	5,548,574
5,357,594	07/640,550	5,481,614	5,299,239	08/506,729
5 752 225	5,579,430	5,592,584	5,299,240	08/576,495
5,394,473	08/678,666	5,781,888	5,197,087	5,717,821
			5,490,170	08/392,756

DTS

DTS

DTSは、新しい劇場用の音声記録方式として1993年公開映画 ”ジュラシックパーク ”より採用され、その高音質、 かつ大迫力のサウンド効果は高い評価を得ています。 このシステムは、6チャンネルのデジタル音声CD−ROMに収録するため、音声信号の圧縮率が低く、転送レートも高いフォーマットです。この映画界で完成したテクノロジーをホームシアター用に発展させたのが、“ DTS DIGITAL SURROUND ”です。 音楽は独自録音による DTS-CDで、 映画はDTS-LD、DVDで提供されます。

DTS-ES

2000年11月に発表された新たなるサラウンドフォーマットで、DTS-ESは「DTS Extended Surround」の略称です。“ DTS-ESディスクリート6.1 ”と“ DTS-ESマトリックス6.1 ”の２種類があり、どちらも従来のDTS5.1chデコーダーとの下位互換性を有しています。DTS-ESは従来の5.1chシステムにサラウンドバック(SB)chを加えたもので、かつてない音像・定位感をもたらす事が可能になりました。

DTS Neo:6

全ての2chソースを6.0chサラウンドにするマトリックスデコード技術です。Cinemaモード/Musicモードがあります。

DTS 96/24

DTS社が開発した最新サラウンドフォーマットで、スタジオのマスター音源のクオリティ(96kHz/24Bit)を踏襲する高音質な圧縮技術です。DVD-VIDEOフォーマットにおいて高画質な映像と高音質サウンドを同時に楽しめることを目的として開発されました。既存のDTS対応DVDプレーヤーと、DTS96/24に対応するデコーダー(AVアンプ等)をデジタル接続することで、DTS96/24のハイクオリティー音声が再生可能です。(専用プレーヤーは必要ありません)
従来のDTSデコーダーでも、従来通りの音質での再生が可能で、完全互換性を持っています。(本機は、DTS96/24対応デコーダーを搭載しております)

THX

HOME THX®:

THXは、世界的に有名な映画製作会社であるルーカスフィルム社によって確立された独自の規格と技術の集大成です。「映画館でもホームシアターでも、映画のサウンドトラックは映画監督の意図通り、できる限り忠実に再生して欲しい」というジョージ・ルーカス監督の情熱によって誕生しました。THXはホームシアターの音場最適化に関する数々の特許技術を開発しています。

THX Ultra™:

ホームシアター機器がTHX Ultra 認証されるには、上記の技術を備え、かつ品質と動作に関する一連の厳しい試験に合格しなくてはなりません。こうして製品搭載が許諾されるTHX Ultra のロゴは、ご購入いただいたホームシアター製品が長年に渡って素晴らしい性能を維持する保証となります。THX Ultra 規格は、プリアンプ・パワーアンプの性能、操作性、デジタル・アナログの両分野に渡る何百もの性能要求を含め、製品の全体像を網羅しています。

HOME THX Cinema®:

映画のサウンドトラックはダビングステージ（ミキシング専用大型映画館）で制作されます。DVDなどに収録する音声もそのサウンドトラックのままで、ホームシアター向けの変更は加えません。THX Cinemaは家庭と映画館との空間的な違いによる音色の差を補正し、映画館の音場を正確に再現します。

THX Surround EX™:

「THX Surround EX _ Dolby Digital Surround EX 」はドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社THX 部門との共同開発によるものです。リスナーの後方に位置するよう加えられたサラウンドバックchは、ミキシング段階で Dolby Digital Surround EX 技術によって符号化され、映画館での上映時に復元されます。従来の5.1chスピーカー構成では表現し切れなかった後方部の繊細な描写力・空間の奥行きや広がり感・音像定位などが得られるようになりました。一般家庭でこの新技術を映画館のように忠実に再生することができるのは、THX Surround EX のロゴが搭載された製品だけです。

この製品は通常の5.1chソースでも「THX Surround EX 」モードでお楽しみいただけます。この場合のサラウンドバックchの音声は、所定の演算処理によって生成されますので、お好みに応じてご使用ください。

THX Ultra2™ Cinema:

Dolby DigitalやDTS等で収録された5.1ch映画ソースに適しています。このモードにおけるASA 処理は、サラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感が最善になるようサラウンドバックに成分を振分けます。

THX MusicMode™:

マルチチャンネルのDVD音楽ソフトの中には、映画のサウンドトラックとは全く違ったミキシングを行なっているものがあります。 ASA 技術は、この DTS や Dolby Digital 等で収録された5.1ch音楽ソースに対し、音楽再生に適した後部音場の安定的な広がり感をもたらします。

Re-Equalization™:

映画のサウンドトラックは、映画館での上映用に製作されているため、それを家庭用の機器で再生すると、過度に明るく耳障りに聞こえます。 Re-Equalizationは小型のホームシアターでも正確な音色バランスを再現します。

Timbre Matching™:

人間の耳は、音の到達方向によって音色の感じ方が変わります。映画館では数多くのサラウンドスピーカーが聴衆を囲むように配置されていますが、ホームシアターではリスナーの両側の２本のみです。 Timbre Matchingフィルターはこのスピーカー配置の違いから起こる音色の性質の差を補正することによって、フロントーサラウンド間の音の繋がりをスムーズにします。

Adaptive Decorrelation™:

映画館ではサラウンドスピーカーが多数なのに対し、ホームシアターは通常2本です。そのため、広がり感やサラウンド感に欠けてしまったり、近接したスピーカーに音場が偏ってしまうことがあります。Adaptive Decorrelationは サラウンド信号間の時間と位相の関係を微妙に変化させることにより、2本のスピーカーでもリスニングエリアを拡大して、映画館と同様の効果をもたらします。

Advanced Speaker Array™(ASA):

ASA 処理は、サラウンドバックスピーカー2本使用し、その2本を近接して設置した場合に最高能力を発揮します。この技術はTHX Ultra2 CinemaとTHX MusicModeで使用します。

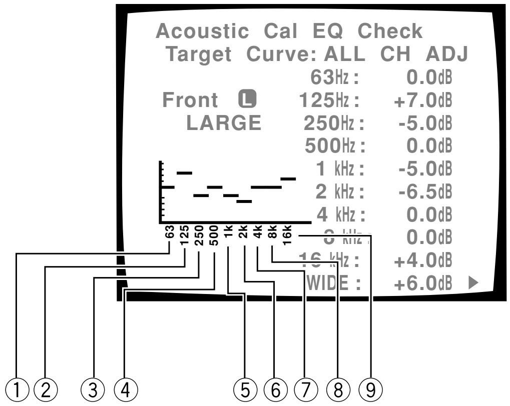
Boundary Gain Compensation™:

ホームシアターでは、壁面の影響で空間利得が生じ、低域の周波数帯が自然と持ち上がってしまう場合がありますが、この技術により、超低域再生能力のあるサブウーファーなどを使用していても、空間利得を補正し、聴感レベルをフラットにすることが可能です。

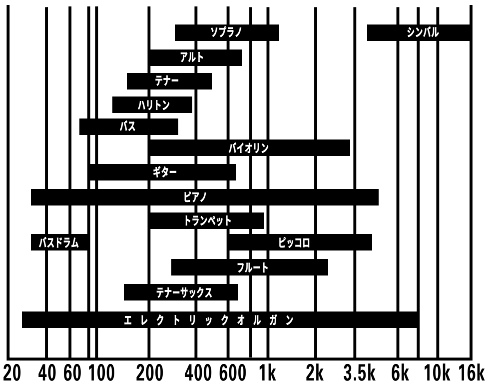
メモ

本機は「6.1再生検出信号」（DTS - ES と Dolby Digital Surround EX）を自動検出しますが、それらの技術を用いて上映された映画でも、DVD化の際にこの検出信号を収録していないものがあります。この場合は手動にて最適なモードに変更してください。Surround EX技術により製作された映画のリストは各ウェブサイトにてご覧になれます。
[上映映画リスト：http://www.dolby.com.][ＤＶＤタイトルリスト：http://www.thx.com.]

各種音声の周波数分布について



音声信号の周波数分布図



① 63 Hz（低音域）
耳というより、体で振動を感じる帯域です。

② 125 Hz（低音域）
音楽の中で低音を感じる多くが、この帯域で、音楽に厚みをつくる低音域のポイントです。

③ 250 Hz（中低音域）
アコースティックギターやバスボーカルの低音域が含まれる帯域です。音楽の輪郭をつくりだすポイントです。

④ 500 Hz（中音域）
音の情報密度がもっとも濃い帯域で、さまざまな楽器やボーカルの味わいが出るところです。

⑤ 1 kHz（中高音域）
ボーカルの艶やかさや力強さが表現される帯域です。

⑥ 2 kHz（中高音域）
プログラムソース全体の音質バランスをはかる上で重要な役目を果たします。

⑦ 4 kHz（高音域）
金管楽器やエレキギターのシャープな響きや伸び、音色を感じる帯域ですが、強調しすぎると疲れやすい音質なります。

⑧ 8 kHz（高音域）
音な華やかさ、明るさを演出する帯域です。強調するとノイズが耳ざわりになりますので注意してください。

⑨ 16 kHz（超高音域）
８ kHz以上の周波数では楽器などの基本周波数はほとんど含まれておらず、また一般的に成人の耳ではこれ以上の周波数の音は急速に聞こえにくくなります。

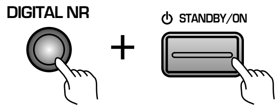
工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
スピーカーシステム	Normal Surround （一般的サラウンド）	P.35
スピーカーの有り無し/低域再生能力	全てＳＭＡＬＬ（小）	P.35
サブウーファー	ＹＥＳ（有り）	P.35
クロスオーバー周波数	80Hz	P.35
スピーカーまでの距離	全て２m	P.38
スピーカー出力レベル	0ｄＢ（補正無し）	P.39
視聴環境の周波数特性の補正	全帯域0dB（補正無し）	P.41
入力ファンクション	DVD/LD	P.9
入力信号の種類	AUTO（入力ファンクションによっては ANALOG固定）	P.43
再生チャンネル数	AUTO	P.44
リスニングモード	STANDARD（VIDEO系入力ファンクション） STEREO（AUDIO系入力ファンクション）	P.44
音量（ボリュームレベル）	ーーー(最小)	P.9
アコースティックキャリブレーションEQ	OFF (自動設定を行うと自動的に ALL CH ADJモードでONされます）	P.49
デジタルノイズリダクション機能	OFF	P.50
ミッドナイトリスニング機能	OFF	P.50
ラウドネス機能	OFF	P.51
トーンコントロール機能	BYPASS	P.51
スピーカーシステムA/B	A （Normal Surroundのとき）	P.85
マルチチャンネル入力モード	OFF	P.52
デュアルモノの設定	ｃｈ１	P.53
インプットアッテネータ	OFF	P.54
TAPE2 モニター	OFF	P.54
ビデオセレクト	VIDEO系入力ファンクション：入力ファンクションと同じ AUDIO系入力ファンクション：OFF	P.56
ディスプレイの明るさ	一番明るい	P.56
デジタル入力の設定	リアパネル表記通り	P.74
コンポーネントビデオ入力の設定	リアルパネル表記通り	P.75
超低域音声のピークレベル設定	CANCEL（ピークレベル設定無し）	P.77
ダイナミックレンジコントロールの設定	OFF	P.78
マルチチャンネル入力関連の設定（出力）	Through	P.79
入力ファンクション表示の名称	フロントパネル表記とほぼ一致	P.80
Ultra2サブウーファーの設定	OFF	P.81
サラウンドバックスピーカー間の距離の設定	TOGETHER（1.2m未満）	P.82
Re-EQフィルターの設定	HOME THX モード のみ ON	P.83

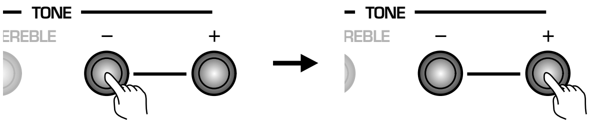
設定オールリセット

設定オールリセットは以下の手順で実行します。操作は本体フロントパネルで行います。
設定オールリセットを行うと、前ページのすべての設定が工場出荷時の状態になりますので**十分ご注意ください。**

① 本機が STANDBY モードのときに DIGITAL NR ボタンを押しながら STANDBY ボタンを 3 秒以上押し続ける



② FL に「RESET？」と表示されたら TONE －ボタンを押し、「OK?」表示後に TONE+ ボタンを押します



仕様

オーディオ部

実用最大出力（EIAJ、1kHz、10%、6Ω）
- フロント .... 200 W＋200 W
- センター .... 200 W
- サラウンド .... 200 W＋200 W
- サラウンドバック .... 200 W＋200 W

定格出力（ステレオ動作時）
- 20 Hz～20 kHz、0.09%、6Ω　150 W＋150W

定格出力（サラウンド動作時）
- 20 Hz～20 kHz、0.09%、6Ω
- フロント .... 150 W＋150W
- センター 150W
- サラウンド .... 150 W＋150W
- サラウンドバック .... 150 W＋150W

入力端子（感度/インピーダンス）
- PHONO MM .... 4.7 mV/47 kΩ
- LINE系 .... 382 mV/47 kΩ

PHONO最大許容入力（T.H.D. 0.1%、1kHz）
- PHONO MM .... 120 mV

周波数特性
- PHONO（RIAA偏差） .... 20 Hz～20 kHz（± 0.3dB）
- LINE系 .... 5 Hz～100 kHz、$^{+0}_{-3}$ dB

出力端子（レベル/インピーダンス）
- REC OUT系 .... 382 mV/2.2 kΩ

トーンコントロール
- BASS .... ± 6dB（100 Hz）
- TREBLE .... ± 6dB（10 kHz）
- LOUDNESS（ボリュームポジションー40dB時） .... +4dB/+2dB（100 Hz/10 kHz）

SN比（IHF、ショートサーキット、Aネットワーク）
- PHONO MM .... 86 dB
- LINE系 .... 105 dB

SN比（EIA、1W（1kHz））
- PHONO MM .... 83 dB
- LINE系 .... 93 dB

ビデオ部（コンポジット、S）

入力端子（感度/インピーダンス） .... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル/インピーダンス） .... 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性 .... 5 Hz～10 MHz、$^{+0}_{-3}$ dB
SN比 .... 70 dB

コンポーネントビデオ部

入力端子（感度/インピーダンス） .... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル/インピーダンス） .... 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性 .... 5 Hz～40 MHz（$^{+0}_{-3}$dB）
SN比 .... 70 dB

電源部・その他

電源 .... AC 100V、50/60Hz
消費電力（電気用品取締法） .... 615 W
待機時消費電力 .... 0.65 W
予備電源コンセント
- 連動 .... 1（100 W 最大）

外形寸法
- .... 440（幅）× 202（高さ）× 476（奥行）mm

質量 .... 30.0 kg

付属品

リモコン 1
電源コード 1
単3形アルカリ乾電池（LR6） 4
オートセットアップ用リモコンコード 1
オートセットアップ用リモコンスタンド 1
ショートピン 2
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

故障？ちょっと調べてください

故障かな ？ と思ったら以下を調べてみてください。意外なミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気機器もあわせてお調べください。

以下の項目を調べても直らない場合は、修理を依頼してください(➡ P.102 、裏表紙)。

音が出ない、音がおかしい、ノイズが出る

症　状	原　因	対　応	参照
入力切換を合わせても、音が出ない。	入力端子の接続が正しくない。	接続を再確認する。	P.22
	デジタル入力の設定が正しくない。	設定を修正する。	P.74
	SIGNAL SELECTの入力信号選択が正しくない。	SIGNAL SELECTボタンで正しい入力信号を選択する。	P.43
	ミューティング状態になっている。	リモコンでMUTINGを解除する。	P.17
	TAPE2 MONITOR機能がONになっている。	TAPE2 MONITOR機能をOFFにする。	P.54
	スピーカー出力がOFFになっている。	SPEAKERSボタンを押して、ON（SP►A）にする。	P.85
	MULTI CH INモードになっている。	MULTI CH INをOFFにして、通常のリスニングモードにする。	P.52
	音量が下がっている。	MASTER VOLUMEを調整する。	P.43
フロントスピーカー以外の音が出ない。	スピーカーモードがA+BまたはBになっている。	スピーカーモードをA（SP►A）にする。	P.85
	スピーカーシステムの設定がフロントch以外全てNOになっている。	スピーカーシステムの設定を修正する。	P.10
	リスニングモードがSTEREOになっている。	サラウンド再生用のリスニングモードを選択する。	P.44
サブウーファーから音が出ない（または音が小さい）。	サブウーファーの設定がNOになっている。	サブウーファーの設定をYESまたはPLUSに設定する。	P.10
	サブウーファーの出力レベル設定が小さい。	適切なレベルに調整し直す。	P.10
	バスピークレベルの設定値が非常に小さい。	適切に調整し直す。	P.77
	CDなどの低域専用トラックが無いまたは低域成分の少ないソフトを再生している。	スピーカーシステムの設定を下記のいずれかにする。 ・フロント：SMALL、サブウーファー:YES ・フロント：LARGE、サブウーファー:PLUS	P.35
	クロスオーバー周波数の設定が低い。	使用しているスピーカーの低域再生能力に応じて設定周波数を上げる。	P.10
	サブウーファー本体に原因がある。	サブウーファー本体で以下のことを確認する。（詳しくはサブウーファーの取扱説明書をご覧ください） ・電源のON/OFF ・ボリューム設定 ・自動スタンバイ機能	
	サブウーファーの接続が外れている。	サブウーファーの接続を確認する。	P.10
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	再生チャンネル数の選択が5.1chになっている。	7.1chを選択する。	P.44
	再生チャンネル数の選択がAUTOで「6.1再生検出信号」の収録されていないソースを使用している。	7.1chを選択する。またはADVANCEDモードに切り換える。	P.44
	スピーカーシステムの設定が[Front Bi-Amp（5.1）]になっている。	[Normal Surround]を選択する。	P.10
	スピーカーシステムの設定でサラウンドバックchの設定がNOになっている。	サラウンドバックchの設定を修正する。	P.10
	接続が正しくない。（サラウンドバックchを1本のスピーカーで接続していてRch側に接続している）	接続を再確認する。（サラウンドバックchを1本のスピーカーで接続しているときはL ch側に接続する）	P.28

ホームシアター入門
各部名称
接続
音場補正
基本操作
応用操作
リモコン
使いこなし
技術資料

その他

症　状	原　因	対　応	参照
デジタル機器の音が出ない。	デジタル接続が正しくない。	デジタル接続を再確認する。	P.27
	デジタル入力の設定が正しくない。	デジタル入力の設定を修正する。	P.74
	SIGNAL SELECTの入力信号選択が正しくない。	接続されているデジタル機器に応じて、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択する。	P.43
	デジタル出力レベル調整機能が付いているCDプレーヤーなどの場合、デジタル出力レベルの設定が低すぎる。（DTS信号が正しく読み取れない。）	プレーヤーのデジタル出力設定を適切に修正する。	
	再生ソフトのデジタルフォーマットに対応していないプレーヤーである（または対応しない設定になっている）。	対応フォーマットの音声トラックを選択する（または対応させる設定にする）。	
DTS CDのサーチ中にノイズが出る。	サーチ中にCDに含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑えてください。	
DTSのLDを再生するとノイズがでる。	SIGNAL SELECTでANALOGが選択されている。	機器を正しくデジタル接続し、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択する。	P.43
SIGNAL SELECTはDDRFだが、LDを再生しても音が出ない。	再生ディスクがドルビーデジタル対応でない。（全てのLDがドルビーデジタル対応とは限りません）	SIGNAL SELECTボタンでAUTOを選択する。	P.43
録音ができない。	アナログ信号をデジタルで、デジタル信号をアナログで録音しようとしている。	アナログ信号はアナログ録音、デジタル信号はデジタル録音のみ可能です。	P.55
	コピープロテクト信号の入ったデジタル信号である。	コピープロテクト信号の入ったデジタル信号は録音することができません。	P.55
	REC端子の接続が正しくない。	正しく接続し直す。	P.26 P.27
無入力でもノイズが聞こえる	電源そのものにノイズが残っている。	パソコンなどのデジタル機器とたこ足配線になっていないか確認する。	
MULTI CH INで再生しているが、特定chの音声成分が出力されない	マルチチャンネル入力関連の設定が正しくない。	設定を修正する。	
MULTI CH INで再生しているがフロント2ch分しか音が出ない。	マルチチャンネル入力の再生チャンネルが2chに設定されている。	マルチチャンネル入力時にLISTENING CH SEL.ボタンを押して8chを選択する。	P.52
DVDオーディオを再生したが2chにダウンミックスされているような音になっている	MULTI CH IN端子で接続したものではない信号を再生している（デジタルPCM出力など）	MULTI CH IN端子の接続を再確認し、MULTI CH INボタンにて再生モードを選択する。	P.52
特定のスピーカーから音が出ない	スピーカーシステムの設定がNOになっている。	スピーカーシステムの設定を修正する。	P.10
	スピーカーの接続が外れている。	スピーカーの接続を確認する。	P.28
	ソフトのサウンドトラックが意図的にそのように録音されている。	ADVANCEDモードを選択すると効果音のみ出力される場合があります。	
	スピーカーの出力レベル設定が小さい	スピーカーの出力レベル設定を上げる。	P.10
フロントスピーカーだけ音が出ない	ショートピンが接続されていない。	ショートピンを元の通りに接続する。	P.20
	フロントスピーカーをB端子に接続している。	A端子に接続する。	P.21

電源が入らない、動作しない、操作できない

症　状	原　因	対　応	参照
大音量で再生したときに電源が切れる。	スピーカーコードの芯線がスピーカー端子からはみ出して、リアパネルに接触しているか、+－が接触し、保護回路が働いている。	スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続する。	P.28
	スピーカーの実動作上の最低インピーダンスが非常に低いため、保護回路が働いた。	ボリュームを下げて再生する。	
操作ボタンを押しても動作しない。	空気が乾燥しているとき、静電気などの影響を受けている。	電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。	
リモコン操作ができない。	主電源ボタンがOFF■になっている。	主電源ボタンをON▂にする。	P.9
	リモコンの電池が消耗している。	電池を交換する。	P.3
	距離が離れすぎている。角度が悪い。	7m以内、左右30 °以内で操作する。	P.14
	途中に信号を遮る障害物がある。	障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。	P.14
	蛍光燈などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。	リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。	P.14
他機器をリモコンで操作できない	プリセットコードの設定が間違っている。	正しいプリセットコードを設定する。	P.58
	電池切れの期間にメモリーが消去された。	もう一度設定を行う。	P.58
SR接続をしているのに相手機器がリモコンで動作しない。	接続でコントロール端子のIN/OUTを間違えている。	正しく接続し直す。	
	コントロールコード以外の接続をしていない。	アナログのオーディオコードなどを接続する。	P.87
	他社製品の同用途端子と接続している。	他社製品の動作はサポートしていません。	P.87
SIGNAL SELECT ボタンを押しても入力がDIGITALにならない。	接続またはデジタル入力の設定が正しくない。	機器の接続を再確認し、「デジタル入力の設定」を正しく修正する。	P.27 P.74
	TAPE2 MONITOR機能がONになっている。	TAPE2 MONITOR機能をOFFにする。	P.54
	MULTI CH INモードになっている。	MULTI CH INをOFFにする。	P.52
HOME THXモードで7.1ch再生を選択しているのに選べないモードがある。（THX ULTRA2 CINEMAとTHX MUSICMODE）	サラウンドバックスピーカーが1本の設定になっている。	サラウンドバックスピーカーを2本接続して、サラウンドバックスピーカーを2本接続している設定にする。	P.8 P.10
DVDオーディオを再生するとプレーヤーには96kHzと表示されるが、本機では表示されない	MULTI CH IN端子はアナログ入力端子なので、デジタル情報を表示することはできません。	故障ではありません。プレーヤーの取扱説明書もご覧ください。	
96kHzのソフト（DTS 96/24を含む）を再生しても表示が96kHzにならない。	リスニングモードが適切でない。	ソフトに応じたリスニングモードを選ぶ。	P.44
	「便利な音声再生用機能」がONになっている。	「便利な音声再生用機能」をOFFにする。	P.50
	サラウンドバック以外のスピーカー設定がNOになっている。	ダウンミックスは48kHzで行われます。	
	Re-EQフィルターがONになっている。	Re-EQフィルターをOFFにする。	P.83
AMP ERRと点滅して自動的に電源が切れる。	低周波の過大な入力が持続した。 本機のアンプ回路が故障です。	１分以上設置の後、電源をONし再び同じ状態であれば、速やかに使用を停止し、修理を依頼してください。この症状の後に電源のON/OFFを繰り返すのはお止めください。	P.102
FAN STOPと点滅し自動的に電源が切れる。	後面の放熱孔から異物が混入して、ファンを止めてしまった。	異物を取り除く。	
	放熱用ファンが故障した。	修理を依頼してください。	P.102
OVERHEATと点滅表示したまま音が出なくなる。	本機内部の温度が許容値を超えた。	通風が良くなるように設置を変える。	P.3
		一度電源を切り、冷えてから使用する。	P.3

その他

インジケーターや表示がおかしい

症　状	原　因	対　応	参照
圧縮デジタル*のソフトを再生しても、対応するインジケーターが点灯しない。	デジタル接続が正しくない。	接続を再確認する。	P.27
	デジタル入力の設定が正しくない。	デジタル入力の設定を正しく行う。	P.74
	SIGNAL SELECTの入力信号選択が正しくない。	SIGNAL SELECTボタンで正しい入力を選択する。	P.43
	プレーヤーが停止か一時停止になっている。	再生を開始する。	
	プレーヤーの音声出力設定が間違っている。	プレーヤーの音声出力設定を各フォーマットに対応するよう修正する。	
	再生しているトラックがPCMなどになっている。	プレーヤーの音声切り換え機能で圧縮デジタル*の音声を選択する。	
圧縮デジタル*のソフトを再生してもすべてのプログラムフォーマットインジケーターが点灯しない。	収録フォーマットが5.1ch（または「6.1再生検出信号」対応ではない）。	故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。	P.18
圧縮デジタル*のソフトを再生してもPro Logic（またはNeo:6）表示になる。	デジタル信号が入力されていない。	SIGNAL SELECTボタンでAUTOまたはDIGITALを選ぶ。	P.43
	ソフトの音声が2chフォーマットである。	故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。	
	ドルビーサラウンドエンコードされたソフトである。	故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。	
Surround EX（またはDTS ES）ソフトなのに、AUTOでもEX（またはES）デコードしない。	「6.1再生検出信号」が記録されていない。（劇場公開時とDVD収録時はまれに違う場合があります）	再生チャンネル数を7.1に変更し、THX Surround EXかSTANDARD TXモードで再生する。	P.44
Surround EX（またはDTS ES）ソフトを再生中、SL、S、SRのインジケーターは点灯するが、EX（またはES）デコードしない。	リスニングモードが正しくない。	再生チャンネル数をAUTOに変更し、HOME THXかSTANDARDモードにする。	P.44
		再生チャンネル数を7.1に変更し、THX Surround EXかSTANDARD TXモードで再生する。	
OVERインジケーターが点灯することが多い。	アナログの入力信号レベルが高すぎる。	プレーヤーにアナログ出力レベル設定がある場合は設定値を下げる。	
		INPUT ATTボタンを押す。	P.54

圧縮デジタル＊：ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AACなどの総称として使用します。

映像が出ない、画面が出ない

症　状	原　因	対　応	参照
入力切換を合わせても、映像が出ない。	TVモニター側の入力切り換え設定が正しくない。	TVモニターの取扱説明書をお読みになり、正しい入力に切り換えてください。	
	ソース機器とTVモニターを接続するコードの種類（整合性）が正しくない。	正しい接続法に変更する。	P.19
コンポーネント端子（またはD端子）に繋いだソース機器の映像が出ない。	モニターTVとの接続がコンポジット（またはS2）である。	モニターTVとの接続にコンポーネントケーブル（またはD端子ケーブル）を使う。	P.19
	コンポーネント入力設定が正しくない。	コンポーネント入力設定を正しく行う。	P.75
録画ができない。	コンポーネント（またはD）端子に接続したソース機器の映像を録画しようとしている。	ソース機器をコンポジット、またはS2端子でも接続する。	P.25
	コピープロテクト信号の入った映像信号である。	コピープロテクト信号の入った映像信号は録画することができません。	
	OUT端子の接続が正しくない。	接続を再確認する。	P.25
セットアップ画面が表示されない。	本機のMONITOR OUT端子に接続していない。	TVモニターと本機のMONITOR OUT端子を接続する。	P.22

オートサラウンドセットアップ(音場補正)がうまくいかない

症　状	原　因	対　応	参照
音場補正のオート設定を何度行ってもエラーになる。	部屋の測定環境が整っていない。	注意事項に従って部屋の測定環境を整えてから設定を行う。	
測定結果のサブウーファーの距離が実際の距離より長い。	サブウーファー内部ローパスフィルターの遅延特性の影響で再生音にディレイがかかっている。	MCACCでは、こういった遅延特性を考慮したうえで距離を特定して正確なディレイ時間を設定するようにしています。	
スピーカーの大、小設定が誤った設定になる。	耳に聞こえにくい周波数の騒音がある。	エアコンなどモーターを使用した機器の電源を切ってみる。	
音場補正したが、音がおかしい。	スピーカー端子の位相が反転している。（+/ーが逆）	正しく接続する。	

オートサラウンドセットアップ(音場補正)のOSD画面メッセージの意味

「Connect Microphone」

：SETUP MIC用ジャックに付属のマイク内蔵リモコンを接続してください。

「Too much ambient noise」

：周辺の騒音が大きすぎ、測定に誤差が生じる可能性があります。

- エアコンなどモーターを使用した機器や超音波ねずみ駆除装置などの電源を一時的にOFFにするか遠ざけるなどの処置を行ってみてください。
- 周囲が比較的静かな時間帯にもう一度やり直してください。

「Check Microphone」

：マイクからテスト信号が検出できなくなりました。

- マイク内蔵リモコンの接続や接続コードの断線をチェックしてください。
- スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
- 測定中はできるだけボーリュームを変化させないでください。

「Don't change volume」

：測定精度が落ちる可能性があるため、できるだけボリュームを変化させないでください。

「ERR」

：Speaker Level測定後のYes/No Check判定で、以下のような間違った接続を検出しました。

- フロント、サラウンドに表示された：スピーカーがL/Rの片方しか検出されませんでした。
- サラウンド「NO」、サラウンドバック「ERR」の場合：サラウンドの接続は検出されずサラウンドバックの接続が検出されました。
- サラウンドバック（1本接続時）の場合：R ch側から検出しました（1体のみ接続するときは、Lch側を使用してくださ）。

「Attention Subwoofer output level is too low　Turn volume up on subwoofer」

：[YES]と設定したサブウーファーの出力信号が検出できません。サブウーファー本体の電源を確認しボリュームを適正値に上げてください。

- 上記を確認したうえ、[Retry]または[Go Next]を選び、決定してください。

目的別索引

本機でやりたいことに合わせて必要なページを見つけてください。

用語別索引

あいうえお順

ABC 順

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8 年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

９５～９９ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店、またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 製品名：AVデジタルサラウンド・アンプ
- 型番：VSA-AX8
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物や公園など）

■　保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■　保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

愛情点検

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

⇩

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

お手入れについて

通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で５〜６倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

お客様ご相談窓口(全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

● 家庭用ｵｰﾃﾞｨｵ／ﾋﾞｼﾞｭｱﾙ製品のお問合わせ窓口　フリーフォン 0070-800-8181-22

● カタログのご請求窓口　フリーフォン 0070-800-8181-33

＜ご注意＞ ● ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。
● 修理に関しては別添の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

※ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

高調波ガイドライン適合品

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<TNGZF/02G00001>　<ARA7135-D>